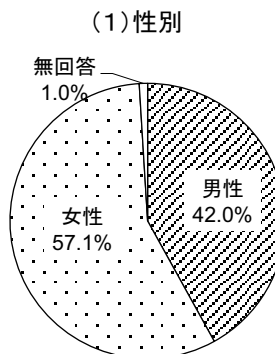


第3 一般県民に対する意識調査

1 回答者属性

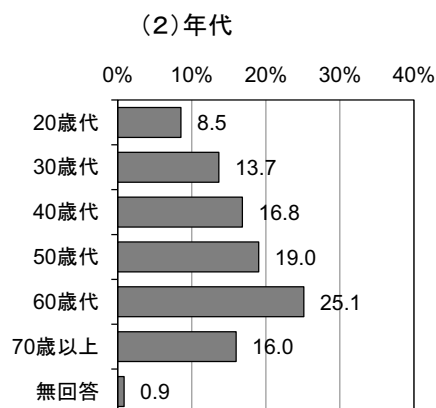
(1) 性別

性別	回答数	%
男性	344	42.0
女性	468	57.1
無回答	8	1.0
有効回答数	820	100.0



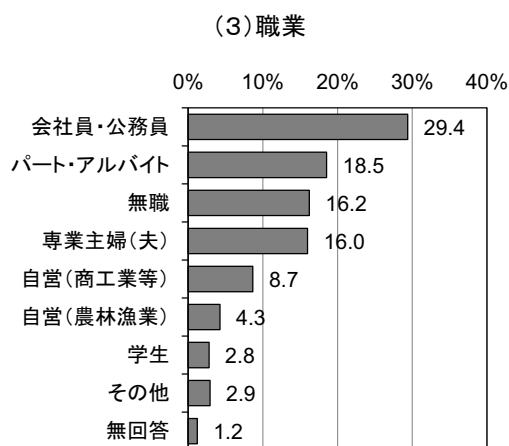
(2) 年代

年代	回答数	%
20歳代	70	8.5
30歳代	112	13.7
40歳代	138	16.8
50歳代	156	19.0
60歳代	206	25.1
70歳以上	131	16.0
無回答	7	0.9
有効回答数	820	100.0



(3) 職業

職業	回答数	%
会社員・公務員	241	29.4
パート・アルバイト	152	18.5
無職	133	16.2
専業主婦(夫)	131	16.0
自営(商工業等)	71	8.7
自営(農林漁業)	35	4.3
学生	23	2.8
その他	24	2.9
無回答	10	1.2
有効回答数	820	100.0

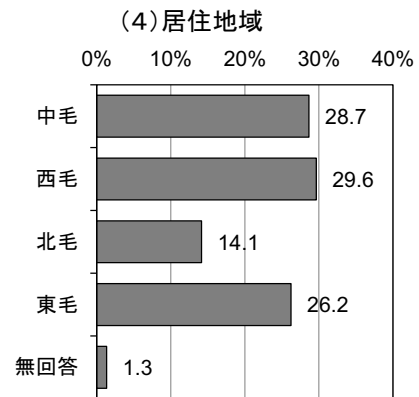


(職業 その他の内訳)

	件数	件数	件数
会社役員	2	その他	14
		無回答	8

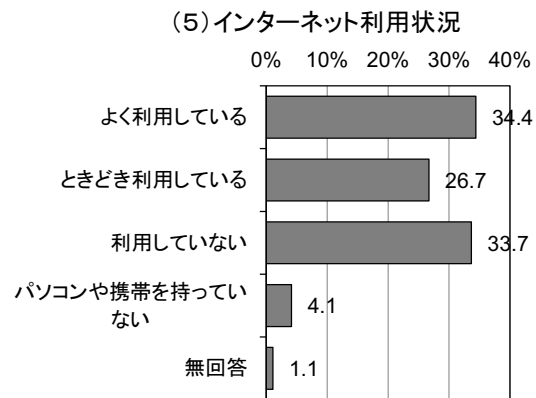
(4) 居住地域別

居住地域	回答数	%	該当地域
中毛	235	28.7	前橋市、伊勢崎市、佐波郡
西毛	243	29.6	高崎市、藤岡市、富岡市、安中市、多野郡、甘楽郡
北毛	116	14.1	沼田市、渋川市、北群馬郡、吾妻郡、利根郡
東毛	215	26.2	桐生市、太田市、館林市、みどり市、邑楽郡
無回答	11	1.3	-
有効回答数	820	100.0	



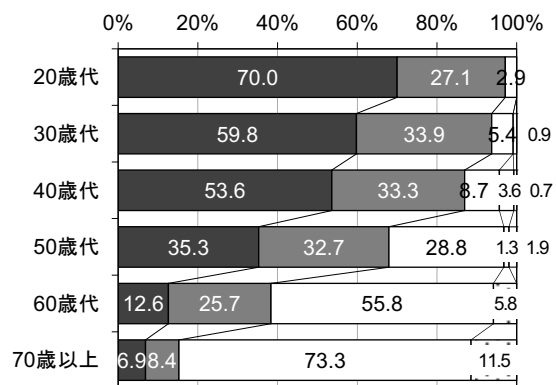
(5) インターネット利用状況

インターネット利用状況	回答数	%
よく利用している	282	34.4
ときどき利用している	219	26.7
利用していない	276	33.7
パソコンや携帯を持っていない	34	4.1
無回答	9	1.1
有効回答数	820	100.0



インターネット利用状況	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
よく利用している	49	67	74	55	26	9
ときどき利用している	19	38	46	51	53	11
利用していない	2	6	12	45	115	96
パソコンや携帯を持っていない	0	0	5	2	12	15
無回答	0	1	1	3	0	0
有効回答数	70	112	138	156	206	131

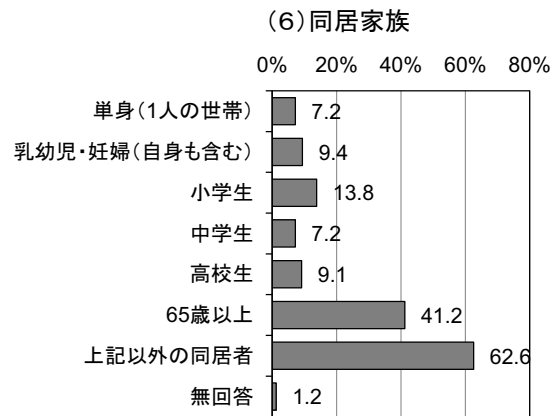
※年代不明を除く



■ よく利用している
 □ 利用していない
 □ 無回答
 ■ ときどき利用している
 □ パソコンや携帯を持っていない

(6) 同居家族（同居している人すべて）

同居家族	回答数	%
単身(1人の世帯)	59	7.2
乳幼児・妊婦(自身も含む)	77	9.4
小学生	113	13.8
中学生	59	7.2
高校生	75	9.1
65歳以上	338	41.2
その他	513	62.6
無回答	10	1.2
有効回答数	820	-



2 アンケート集計結果

2-1 食品の安全性について

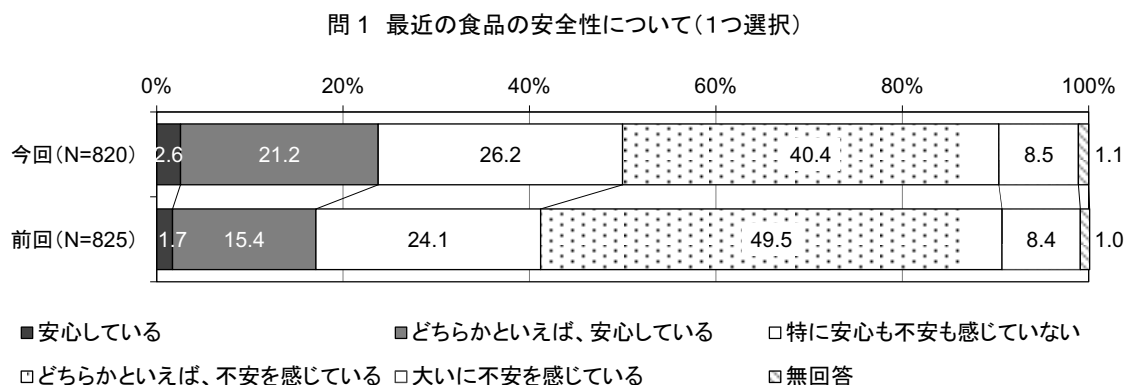
問1 最近の食品の安全性について、どのように感じていますか。(1つ選択)

「どちらかといえば、不安を感じている」(40.4%)が最も高く、次いで「特に安心も不安も感じていない」(26.2%)となっており、「大いに不安を感じている」(8.5%)、「どちらかといえば、不安を感じている」の合計値(48.9%)は約5割となっている。

前は、「大いに不安を感じている」、「どちらかといえば、不安を感じている」の合計値(57.9%)は約6割となっており、食品の安全性への不安感は低くなっている。

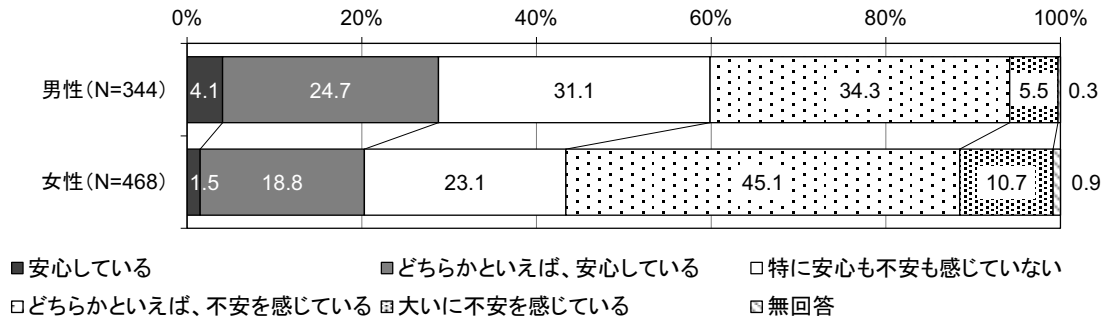
また、「安心している」(2.6%)、「どちらかといえば、安心している」(21.2%)の合計値(23.8%)も前回(17.1%)と比較して高くなっており、食品の安全性についての不安感は、前回と比較して低くなっている。

これについて、後述の「不安感」(問2(1))の状況を見ると、前回と同様の9項目のうち「輸入食品」、「食品の偽装表示」、「ノロウイルス、O157などの食中毒」を除く6項目の「不安度」は、いずれも前回と同程度または低くなっており、前回からの不安感の低下はこのような各項目の不安度の低下と関連していることが考えられる。



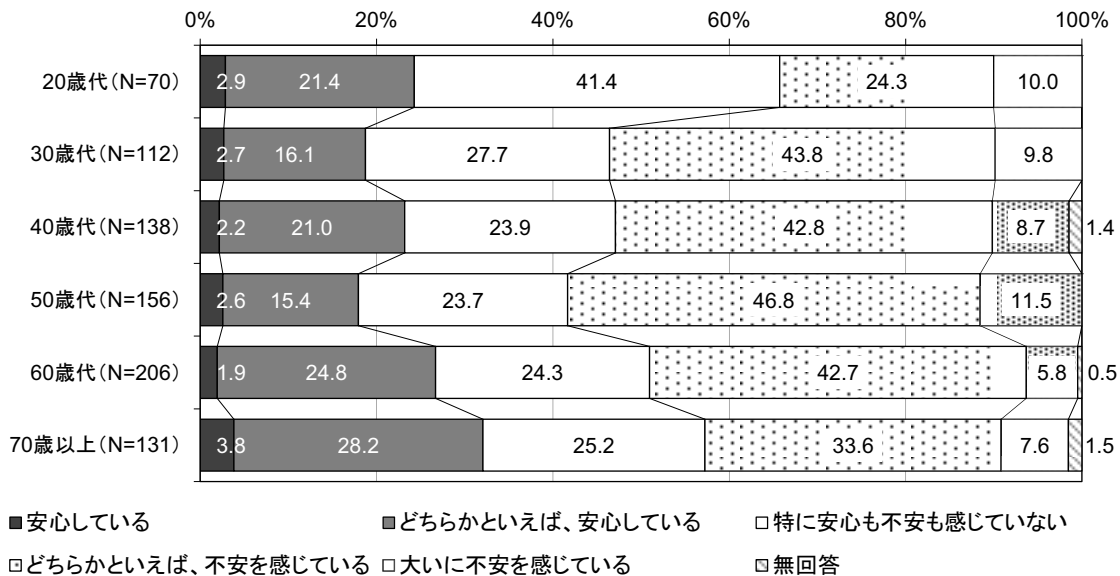
性別では、「大いに不安を感じている」、「どちらかといえば、不安を感じている」の合計値は、男性が39.8%、女性が55.8%、「安心している」、「どちらかといえば、安心している」の合計値は、男性が28.8%、女性が20.3%となっており、食品の安全性について女性の不安感の方が強いことがうかがえる。

問1 最近の食品の安全性について(性別)



年代別では、「大いに不安を感じている」、「どちらかといえば、不安を感じている」の合計値は、50歳代が58.3%で最も高く、次いで30歳代が53.6%、40歳代が51.5%といずれも5割以上となっている一方、20歳代が34.3%で最も低く、次いで70歳以上が41.2%と低くなっている。これらのことから、若年層や高齢層と比べて、中間の年代層の不安感が強い傾向がうかがえる。

問1 最近の食品の安全性について(年代別)



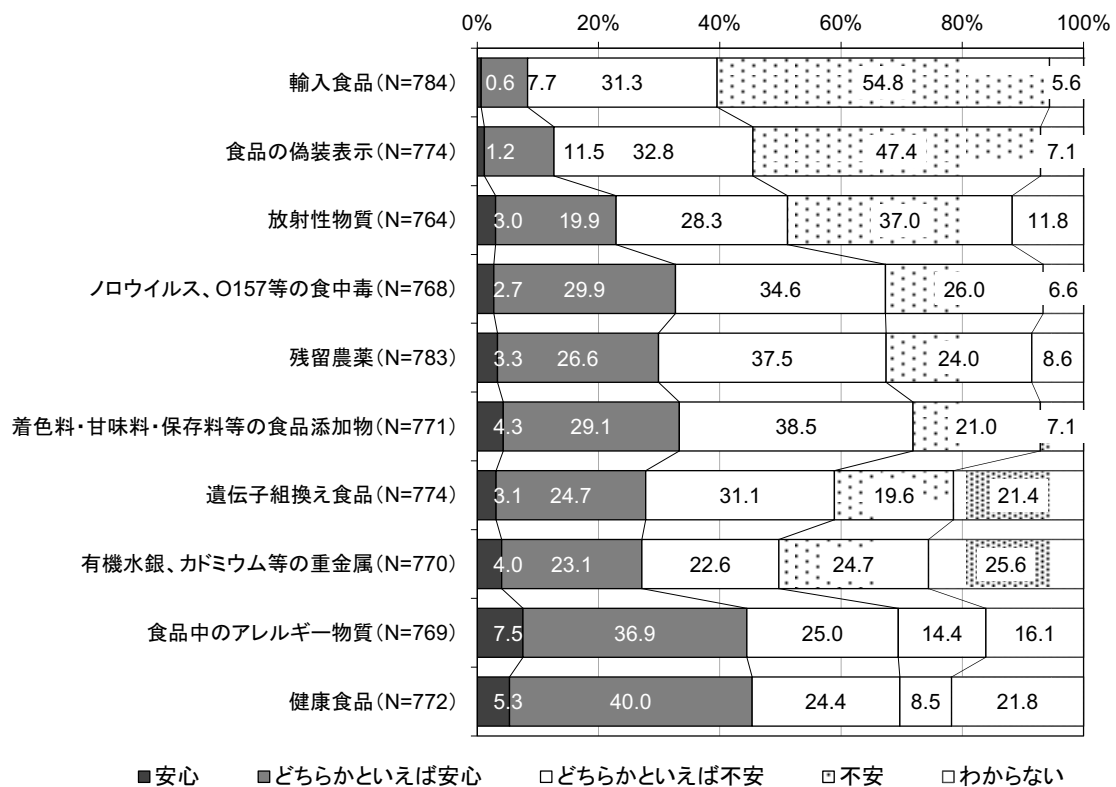
問2 食品の安全性の観点からお答えください。

(1) 各項目について、どのように感じていますか。(それぞれ1つ選択)

「安心」、「どちらかといえば安心」の合計値を見ると、「健康食品」(45.3%)、「食品中のアレルギー物質」(44.4%)の2項目が4割以上と高く、次いで「着色料・甘味料・保存料等の食品添加物」(33.4%)、「ノロウイルス、O157等の食中毒」(32.6%)の2項目が3割以上となっている。

一方、「不安」、「どちらかといえば不安」の合計値を見ると、「輸入食品」(86.1%)、「食品の偽装表示」(80.2%)の2項目が8割以上と高く、次いで「放射性物質」(65.3%)、「残留農薬」(61.5%)、「ノロウイルス、O157等の食中毒」(60.6%)の3項目が6割以上となっている。

問2(1) 食品の安全性の観点からどのように感じているか(それぞれ1つ選択)



※無回答を除く
 ※後述の「不安度」が高い順に表示

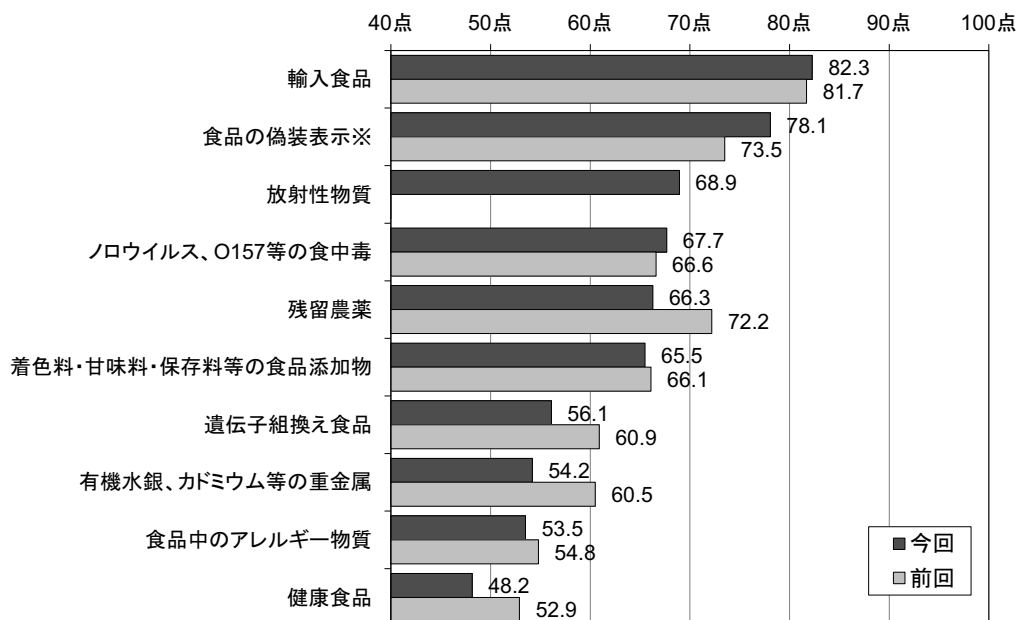
各項目の5段階の回答を「不安度」※で比較すると、「輸入食品」(82.3点)が最も高く、次いで「食品の偽装表示」(78.1点)、「放射性物質」(68.9点)となっている。

前回と比較すると、上位2項目は同様の項目となっている。一方、前回これら2項目に次いで高かった「残留農薬」は前回より不安度が低くなっている。また、新たに設けた項目「放射性物質」は上位2項目に次いで不安度が高くなっている。全体的に値の変動が大きな項目は見られないが、その中で「食品の偽装表示」(前回比4.6点増)の不安度は前回より最も高くなっており、「有機水銀、カドミウム等の重金属」(前回比6.3点減)の不安度は最も低くなっている。また、前回と同様の9項目のうち「輸入食品」、「食品の偽装表示」、「ノロウイルス、O157などの食中毒」を除く6項目はすべて前回より低くなっている。

※《不安度の算出方法》

「不安」を100点、「どちらかといえば不安」を75点、「どちらかといえば安心」を50点、「安心」を25点、「わからない」を0点として、加重平均により不安度を指標化した。100点に近くなるほど、不安の度合いが高いことを示す。

問2(1) 食品の安全性の観点からどのように感じているか「不安度」

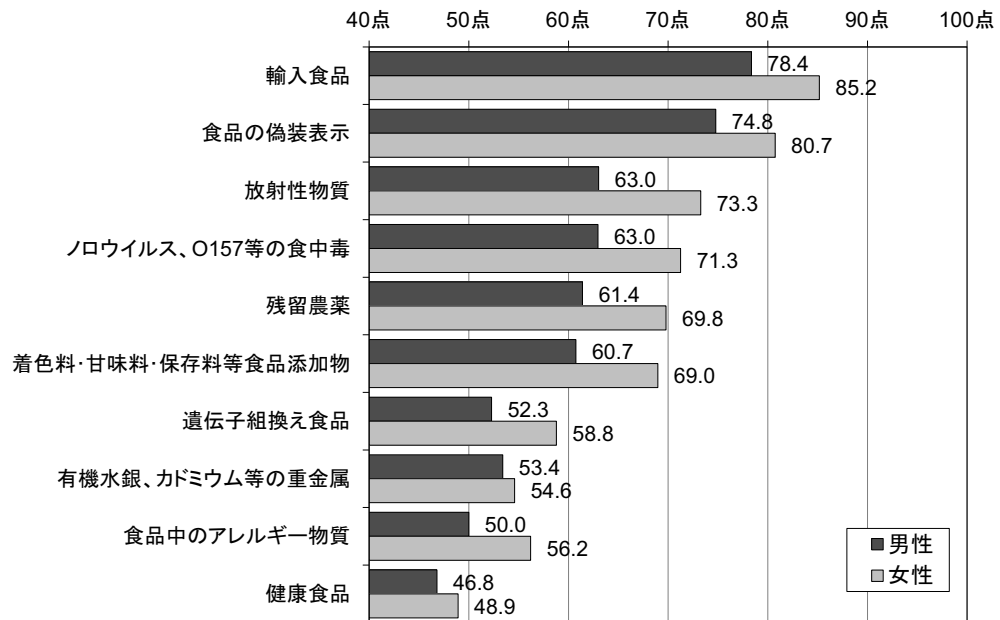


※前は「食品表示(不正表示)」

	今回		前回からの 順位変動	前回	
	不安度	順位		順位	不安度
輸入食品	82.3	1位	←	1位	81.7
食品の偽装表示	78.1	2位	←	2位	73.5
放射性物質(今回新規)	68.9	3位	-	-	-
ノロウイルス、O157等の食中毒	67.7	4位	←	4位	66.6
残留農薬	66.3	5位	↓	3位	72.2
着色料・甘味料・保存料等の食品添加物	65.5	6位	↓	5位	66.1
遺伝子組換え食品	56.1	7位	↓	6位	60.9
有機水銀、カドミウム等の重金属	54.2	8位	↓	7位	60.5
食品中のアレルギー物質	53.5	9位	↓	8位	54.8
健康食品	48.2	10位	↓	9位	52.9

性別では、男女とも全体と同様の傾向を示しており、「輸入食品」、「食品の偽装表示」の2項目の不安度が高くなっている。また、すべての項目において、男性より女性の不安度が高くなっている。

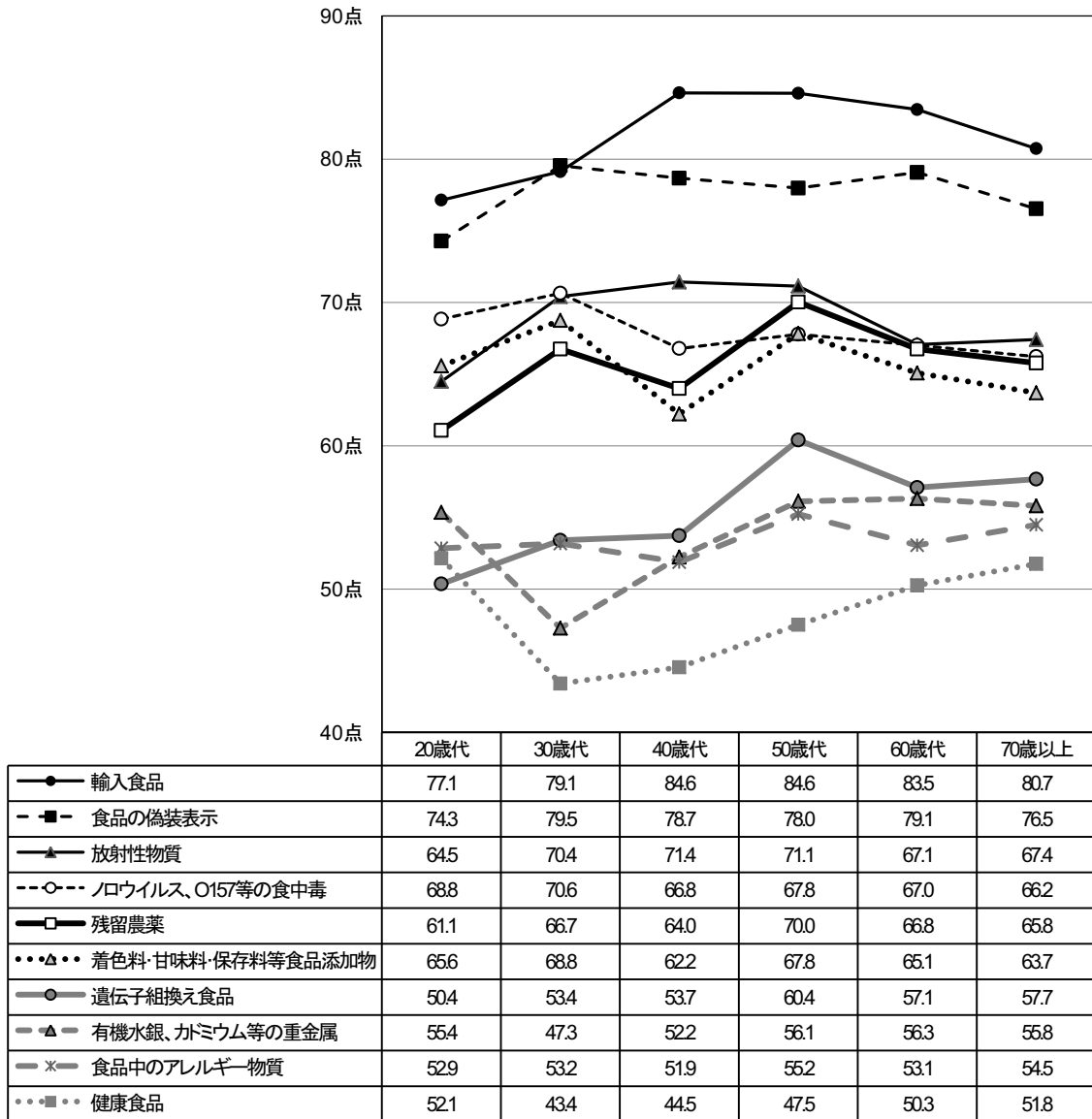
問2(1) 食品の安全性の観点からどのように感じているか 男女別の「不安度」



年代別では、30歳代を除くすべての年代において「輸入食品」の不安度が最も高く、30歳代は「食品の偽装表示」と「輸入食品」の不安度が同程度に高くなっている。一方、20歳代を除くすべての年代において「健康食品」の不安度が最も低く、20歳代は「遺伝子組換え食品」の不安度が最も低くなっている。

年代差は「遺伝子組換え食品」で最も大きく、50歳代の不安度が60.4点で最も高く、20歳代が50.4点で最も低くなっている。

問2(1) 食品の安全性の観点からどのように感じているか 年代別の「不安度」



(2) 不安の理由を選んでください。(2つまで選択)

((1)で「3. どちらかといえば不安」「4. 不安」と回答した場合限定)

全体傾向で不安度が最も高い「輸入食品」や2番目に高い「食品の偽装表示」は、「食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから」(それぞれ42.5%、39.6%)が最も高く、いずれも約4割となっている。前回と今回の比較については、選択肢の数、表現が異なるため留意が必要であるが、今回の「食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから」の比較対象として前回の「食品の安全性に関して問題が生じているから」と「テレビや新聞等のマスコミ報道で取り上げられているから」の合計値を参考に見ると、「輸入食品」は同程度であるが、「食品の偽装表示」は10ポイント以上高くなっている。

「輸入食品」、「食品の偽装表示」は、いずれも「生産者、事業者の法令遵守や衛生管理が不安だから」(それぞれ35.4%、31.4%)が2番目に高くなっている。

全体傾向で3番目に高い「放射性物質」は「食品の安全性に関する科学的根拠に対して不安があるから」(21.2%)が高くなっているが、無回答(21.6%)もほぼ同程度見られる。

「遺伝子組換え食品」、「健康食品」の2項目も「食品の安全性に関する科学的根拠に対して不安があるから」(それぞれ29.5%、26.8%)が最も高く、前回もこの理由が最も高くなっている。

「着色料・甘味料・保存料等の食品添加物」は「食品の安全性に関する自分の知識が不足しているから」(24.2%)と「食品の安全性に関する科学的根拠に対して不安があるから」(24.0%)が同程度に高くなっている。「食品中のアレルギー物質」、「有機水銀、カドミウム等の重金属」も「食品の安全性に関する自分の知識が不足しているから」(それぞれ29.0%、26.4%)が最も高くなっている。前回は「着色料・甘味料・保存料等の食品添加物」は「生産者、事業者の法令遵守や衛生管理が不安だから」、「有機水銀、カドミウム等の重金属」は「行政の監督指導が不十分だから」が最も高くなっている。

問2(2) 不安の理由(2つまで選択)

不安度 順位	項目	主な不安の理由
1位	輸入食品	・食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから ・生産者、事業者の法令遵守や衛生管理が不安だから
2位	食品の偽装表示	
3位	放射性物質	・食品の安全性に関する科学的根拠に対して不安があるから
4位	ノロウイルス、O157等の食中毒	・食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから ・生産者、事業者の法令遵守や衛生管理が不安だから
5位	残留農薬	・生産者、事業者の法令遵守や衛生管理が不安だから
6位	着色料・甘味料・保存料等の食品添加物	・食品の安全性に関する科学的根拠に対して不安があるから ・食品の安全性に関する自分の知識が不足しているから
7位	遺伝子組換え食品	
8位	有機水銀、カドミウム等の重金属	・食品の安全性に関する自分の知識が不足しているから
9位	食品中のアレルギー物質	
10位	健康食品	・食品の安全性に関する科学的根拠に対して不安があるから

問 2(2) 不安の理由(2つまで選択)

	不安度(今回・前回)	(%)	法律、条例などの規制が不十分だから	行政の監督指導が不十分だから	生産者、事業者の法令遵守や衛生管理が不安だから※2	食品の安全性に関する科学的根拠に対して不安があるから	食品の安全性に関する情報提供が不十分だから	食品の安全性に関する自分の知識が不足しているから	食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから※3	その他	無回答	総選択数
輸入食品	82.3	今回(N=675)	15.0	15.7	35.4	3.7	13.3	4.9	42.5	4.0	15.4	1,012
	81.7	前回(N=668)	17.5	25.0	29.6	3.7	12.6	7.5	38.8	0.7	16.2	1,013
食品の偽装表示※1	78.1	今回(N=621)	14.5	25.3	31.4	1.3	7.1	4.5	39.6	1.4	18.4	891
	73.5	前回(N=575)	19.1	29.2	36.3	2.4	6.4	6.8	23.3	0.9	19.7	829
放射性物質※1	68.9	今回(N=499)	17.8	17.0	9.4	21.2	19.2	19.2	14.0	2.8	21.6	711
ノロウイルス、O157等の食中毒	67.7	今回(N=466)	2.4	10.5	40.3	5.8	7.5	11.4	34.8	2.1	22.3	639
	66.6	前回(N=471)	4.2	14.6	32.7	2.5	8.3	10.8	36.1	2.8	24.0	641
残留農薬	66.3	今回(N=482)	10.0	13.7	40.0	10.0	17.6	13.5	17.6	2.7	19.5	697
	72.2	前回(N=587)	9.0	16.4	39.2	14.7	10.7	8.3	25.4	1.4	20.1	852
着色料・甘味料・保存料等の食品添加物	65.5	今回(N=459)	13.5	10.7	19.0	24.0	19.2	24.2	7.0	2.4	20.5	644
	66.1	前回(N=482)	8.7	14.5	23.4	22.0	14.5	16.8	17.7	1.5	21.2	676
遺伝子組換え食品	56.1	今回(N=393)	15.3	8.4	12.2	29.5	17.3	26.5	1.5	1.8	25.7	543
	60.9	前回(N=450)	10.2	6.0	13.8	40.4	14.9	16.9	19.1	0.4	20.2	639
有機水銀、カドミウム等の重金属	54.2	今回(N=364)	11.5	18.1	16.2	12.4	16.2	26.4	11.0	1.9	24.2	502
	60.5	前回(N=454)	18.3	20.9	15.4	16.1	9.7	17.0	20.8	1.3	20.3	634
食品中のアレルギー物質	53.5	今回(N=303)	6.6	6.9	12.2	11.2	21.1	29.0	10.6	4.0	30.4	400
	54.8	前回(N=349)	8.0	9.5	14.0	14.6	18.9	26.1	17.8	1.7	26.4	478
健康食品	48.2	今回(N=254)	20.5	14.2	13.8	26.8	15.4	15.4	13.0	2.4	22.4	365
	52.9	前回(N=316)	13.9	14.6	18.0	29.1	15.2	12.0	19.6	1.9	18.7	452
総選択数		今回	575	668	1,128	587	668	713	993	116	956	6,404
		前回	543	771	1,142	641	518	552	1,101	58	888	6,214

※各項目における最も高い値を、今回について濃色、前回について淡色網掛け表示、「その他」の内訳については記述一覧表を参照

※1「食品の偽装表示」は前回「食品表示(不正表示)」、「放射性物質」は新規設定

※2「生産者、事業者の法令遵守や衛生管理が不安だから」は前回「生産者、事業者の法令遵守や衛生管理の実態に疑問があるから」

※3「食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから」の前回は、前回「食品の安全性に関して問題が生じているから」と「テレビや新聞等のマスコミ報道で取り上げられているから」の2項目を合計した値

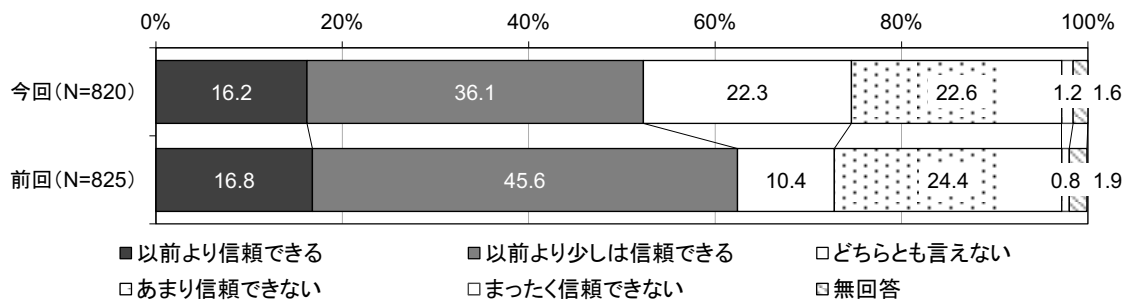
問3 食の安全・安心の確保に向けた取組についてお答えください。

(1) 生産者、食品事業者及び行政(県)が行っている食の安全性確保に向けた取組について、信頼できると思いますか。(1つ選択)

「以前より少しは信頼できる」(36.1%)が最も高く、「以前より信頼できる」(16.2%)との合計値(52.3%)は5割以上となっている。

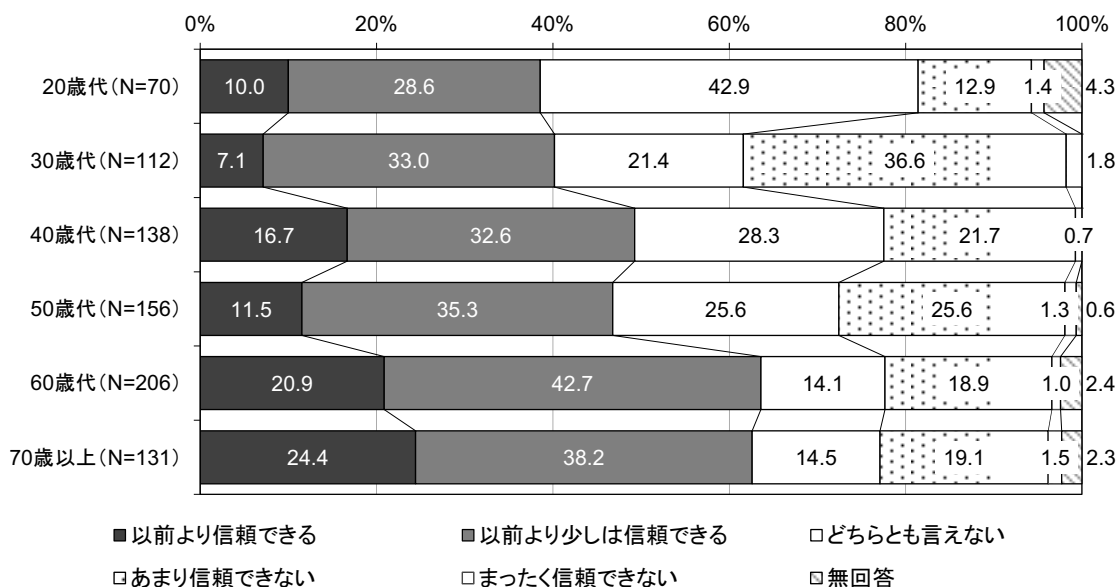
一方、「あまり信頼できない」(22.6%)、「まったく信頼できない」(1.2%)の合計値(23.8%)は前回(25.2%)からの大きな変化は見られない。

問3(1) 生産者、食品事業者及び行政(県)が行っている食の安全性確保に向けた取組は信頼できるか(1つ選択)



年代別では、40歳代以上で「以前より少しは信頼できる」が最も高く、20歳代は「どちらとも言えない」(42.9%)、30歳代は「あまり信頼できない」(36.6%)が最も高くなっている。「以前より信頼できる」、「以前より少しは信頼できる」の合計値は60歳代が63.6%、70歳代が62.6%でいずれも6割以上と高く、20歳代が38.6%で最も低くなっている。

問3(1) 生産者、食品事業者及び行政(県)が行っている食の安全性確保に向けた取組は信頼できるか(年代別)

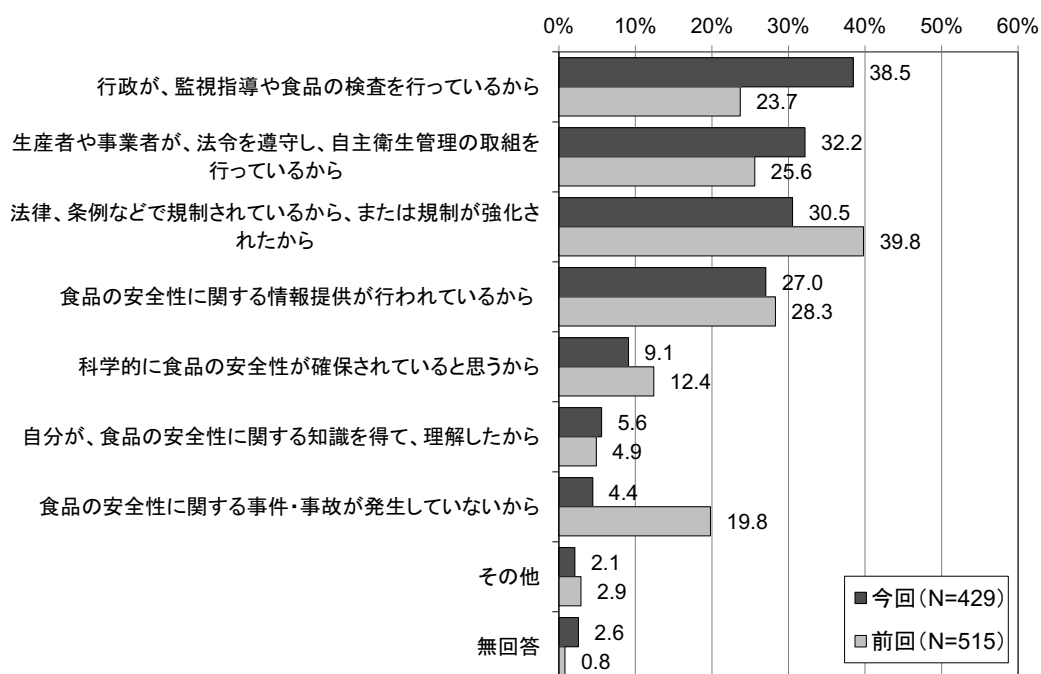


(2) (1) において、「以前より信頼できる」「以前より少しは信頼できる」とされた方にうかがいます。その理由はどのようなことですか。(2つまで選択)

「行政が、監視指導や食品の検査を行っているから」(38.5%)が最も高く、次いで「生産者や事業者が、法令を遵守し、自主衛生管理の取組を行っているから」(32.2%)、「法律、条例などで規制されているから、または規制が強化されたから」(30.5%)となっている。

前回と比較すると、「行政が、監視指導や食品の検査を行っているから」(前回 23.7%)は 14.8 ポイント、「生産者や事業者が、法令を遵守し、自主衛生管理の取組を行っているから」(前回 25.6%)は 6.6 ポイントそれぞれ増加し、前回最も高い「法律、条例などで規制されているから、または規制が強化されたから」(前回 39.8%)は 9.3 ポイント減少している。また、「食品の安全性に関する事件・事故が発生していないから」は前回と項目表現が異なるため単純な比較はできないが(今回 4.4%、前回 19.8%)10 ポイント以上減少している。

問 3(2) 「信頼できる」理由(2つまで選択)



※「食品の安全性に関する事件・事故が発生していないから」は前回「大きな健康被害が出ていないから」

(その他の主な内訳)

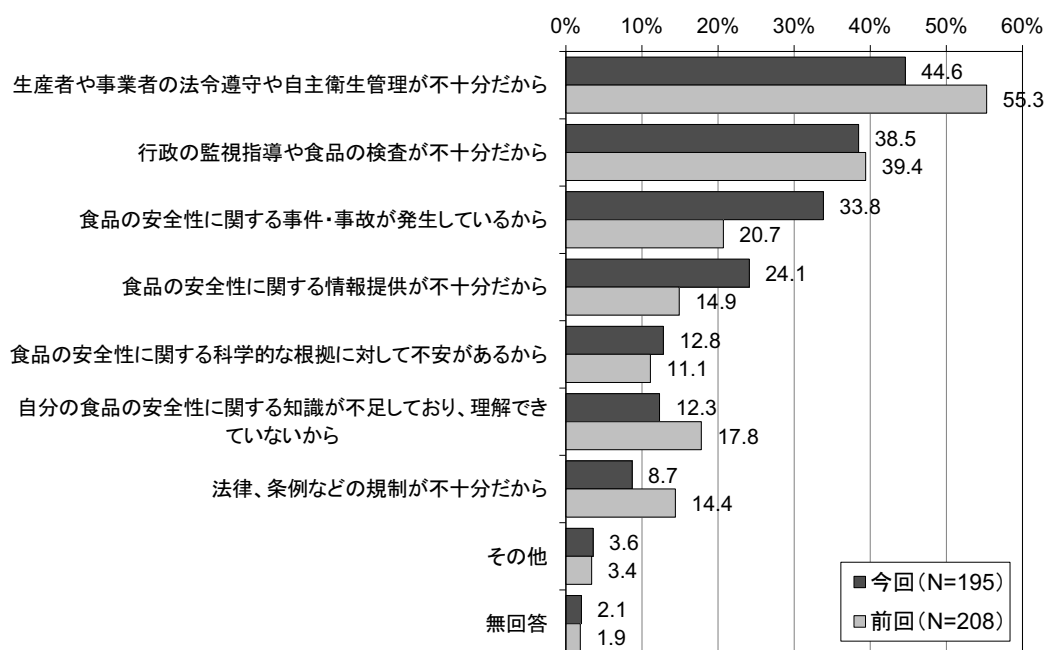
- ・ 事件事故が発生したため行政が以前より取り組んでいると思うから
- ・ 野菜は自分で作るようにしているから安心して食べられます
- ・ 農作物においては、若い人達や無農薬農法をやる農家が頑張っているから
- ・ 事件等が発生して、対策が取られているから
- ・ 最近はよくなったと思う。マスコミ等で騒がないのもある
- ・ 自分を含め事故の被害があまりないから
- ・ 生産者の名前が書かれるようになったから
- ・ テレビなど報道機関が何かあった時大きく取り上げるから
- ・ 事件があったことにより、少しは衛生管理等注目され、強化しているのではないと思うから

(3) (1) において、「あまり信頼できない」「まったく信頼できない」とされた方にうかがいます。その理由はどのようなことですか。(2つまで選択)

「生産者や事業者の法令遵守や自主衛生管理が不十分だから」(44.6%)が最も高く、次いで「行政の監視指導や食品の検査が不十分だから」(38.5%)、「食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから」(33.8%)となっている。

前回と比較すると、「生産者や事業者の法令遵守や自主衛生管理が不十分だから」(前回 55.3%)は 10.7 ポイント減少している。また、「食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから」(33.8%)は前回 (20.7%)と項目表現が異なるため単純な比較はできないが、10 ポイント以上増加している。

問 3(3) 「信頼できない」理由(2つまで選択)



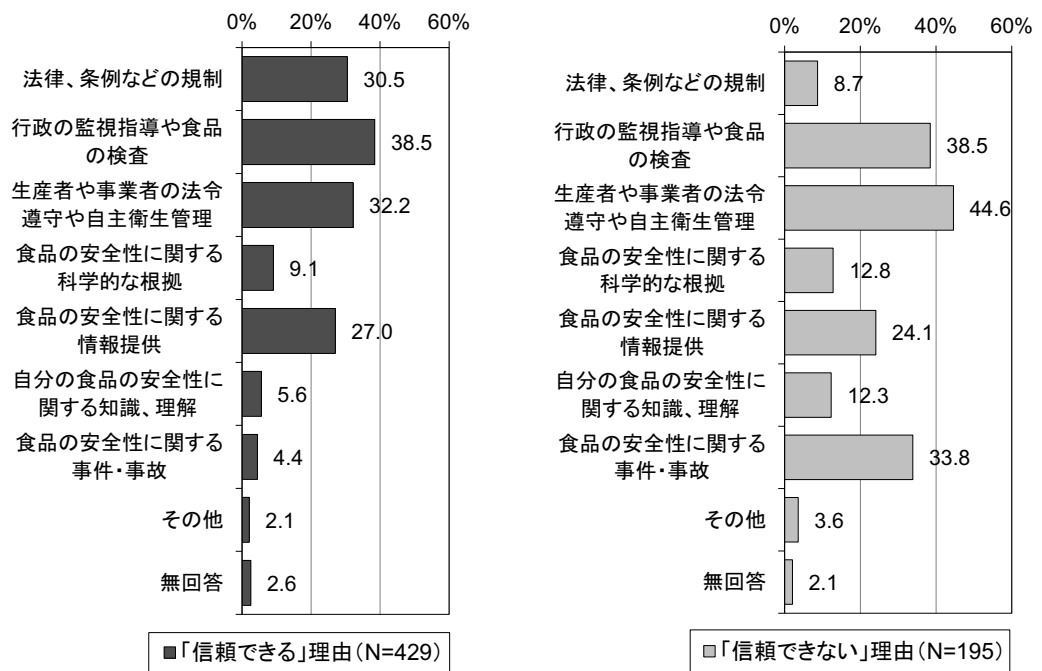
※「食品の安全性に関する事件・事故が発生しているから」は前回「食品の安全性に関する問題が生じているから」

(その他の主な内訳)

- ・行政の行うことは信用できないから
- ・この国は会社の利益を優先すると思うから
- ・何をしているのか知ろうとする県民側が動かないと知ることができない
- ・生産者等が損失を出してまで安全性を確保するとはどうしても思えないから
- ・目に見える効果が実感できていないから
- ・隠された部分も多いと思っている

(2)「信頼できる理由」と(3)「信頼できない理由」を合わせて見てみると、「行政の監視指導や食品の検査」、「生産者や事業者の法令遵守や自主衛生管理」はどちらの理由でも比較的高くなっている。それ以外でも同様の傾向を示す項目が多い中で、「法律、条例などの規制」(信頼できる理由 30.5%、信頼できない理由 8.7%)は、信頼できる理由で約3割、信頼できない理由で1割未満となっている。また、「食品の安全性に関する事件・事故」(信頼できる理由 4.4%、信頼できない理由 33.8%)は信頼できる理由では1割未満、信頼できない理由では3割以上となっている。

問3(2)「信頼できる」理由・問3(3)「信頼できない」理由



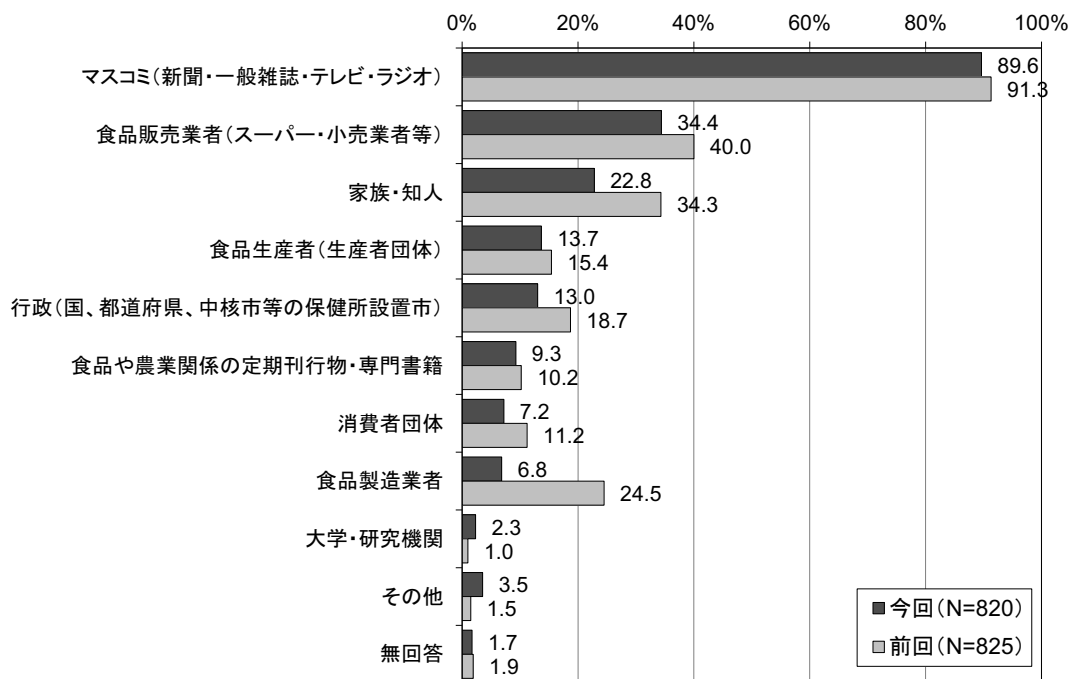
※各項目を合わせた表現で表示

問4 食品の安全性に関する情報をどこから得ていますか。(3つまで選択)

「マスコミ(新聞・一般雑誌・テレビ・ラジオ)」(89.6%)が特に高く、次いで「食品販売業者(スーパー・小売業者等)」(34.4%)、「家族・知人」(22.8%)となっている。

前回と比較すると、ほとんどの項目の値が減少しており、その中でも「食品製造業者」(前回24.5%)は17.7ポイント、「家族・知人」(前回34.3%)は11.5ポイントそれぞれ減少している。

問4 食品の安全性に関する情報をどこから得ているか(3つまで選択)



(その他の主な内訳)

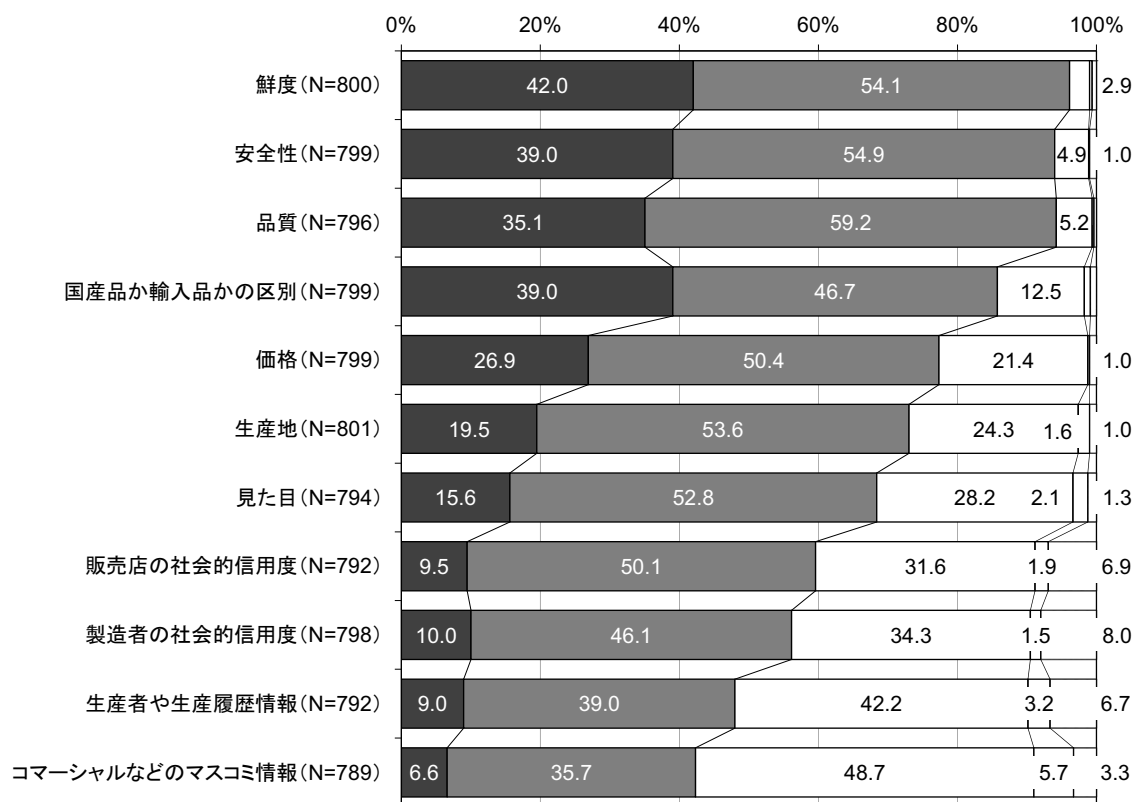
- ・インターネット
- ・情報は特に得ていない
- ・食品関係の仕事についているため
- ・生協
- ・栄養管理士
- ・食品の表示

問5 食品を購入する時、以下の項目について、どのくらい重視していますか。
(それぞれ1つ選択)

「非常に重視する」を見ると、「鮮度」(42.0%)が最も高く、次いで「安全性」「国産品か輸入品かの区別」(39.0%で同値)、「品質」(35.1%)となっている。「非常に重視する」、「重視する」の合計値を見ると、「鮮度」(96.1%)、「安全性」(93.9%)、「品質」(94.3%)、「国産品か輸入品かの区別」(85.7%)の4項目が8割以上となっている。

一方、「まったく重視しない」、「あまり重視しない」の合計値を見ると、「コマーシャルなどのマスコミ情報」(54.4%)が最も高く、次いで「生産者や生産履歴情報」(45.4%)、「製造者の社会的信用度」(35.8%)となっている。

問5 食品を購入する時、どれくらい重視しているか(それぞれ1つ選択)



■非常に重視する ■重視する □あまり重視しない □まったく重視しない □考えたことがない

※1.0%未満の値は非表示

※無回答を除く

※後述の「重視度」が高い順に表示

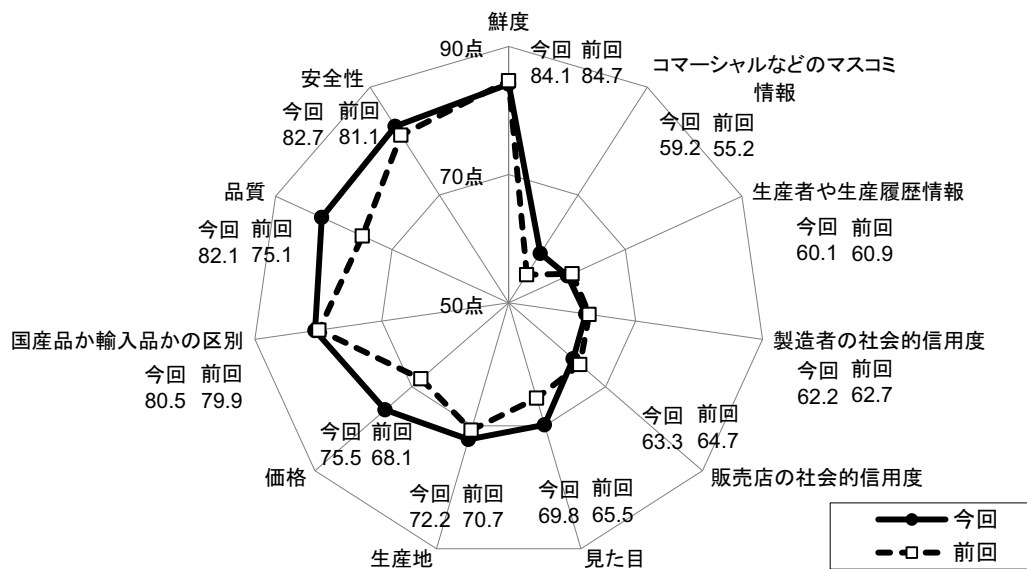
各項目に対する5段階の回答を「重視度」*として比較すると、「鮮度」(84.1点)が最も高く、次いで「安全性」(82.7点)、「品質」(82.1点)となっている。

前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっているが、その中でそれぞれ「品質」は7.0点、「価格」は7.4点重視度が高くなっている。

※「重視度」の算出方法

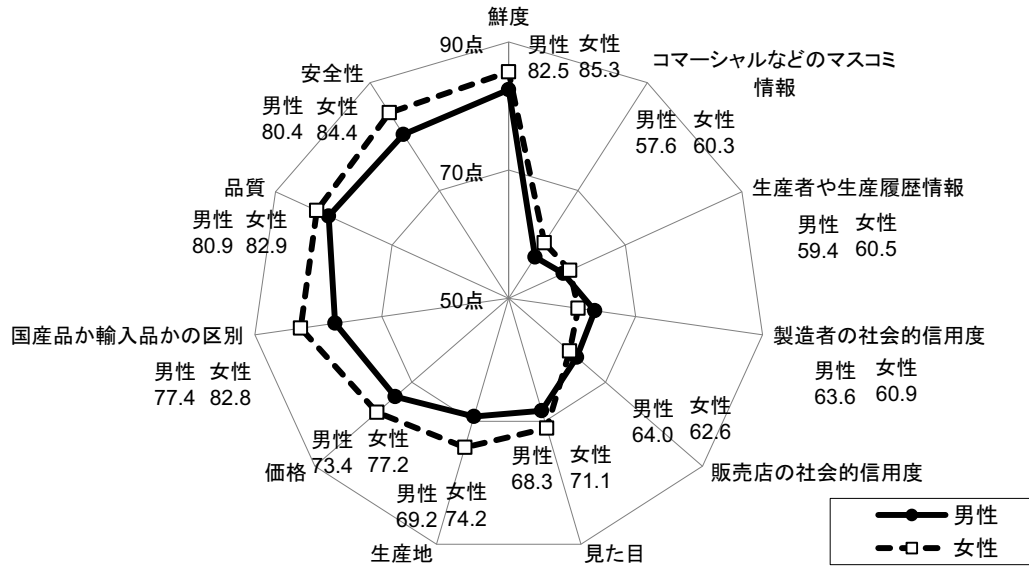
「非常に重視する」を100点、「重視する」を75点、「あまり重視しない」を50点、「全く重視しない」を25点、「考えたことがない」を0点として、加重平均により重視度を指標化した。100点に近くなるほど、重視の度合いが高いことを示す。

問5 食品を購入する時、どれくらい重視しているか「重視度」



性別では、男女とも全体と同様の傾向を示している。また、「製造者の社会的信用度」、「販売店の社会的信用度」を除くすべての項目において、男性より女性の重視度が高くなっている。

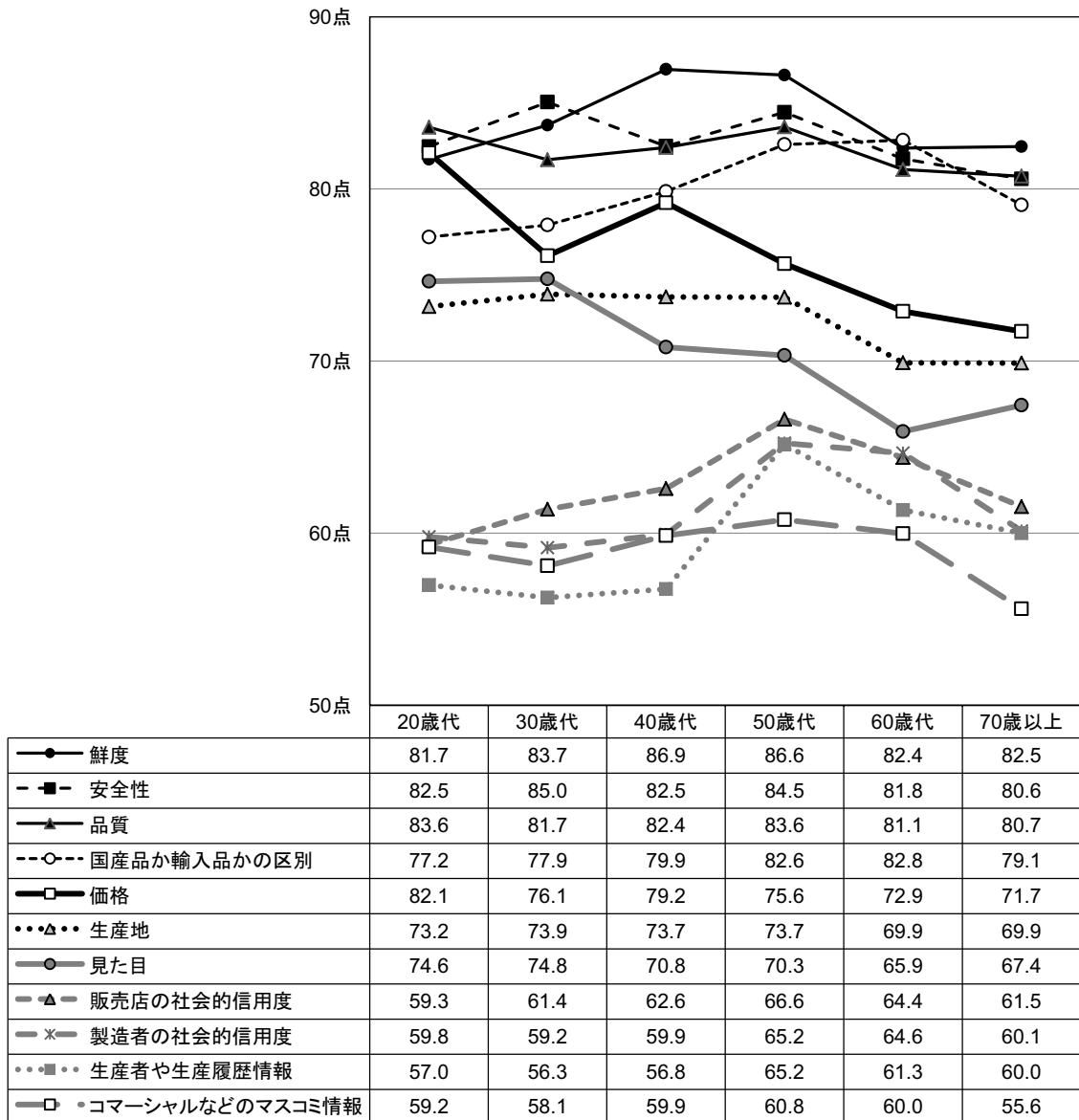
問5 食品を購入する時、どれくらい重視しているか 男女別の「重視度」



年代別では、年代によって最も重視度の高い項目が異なり、20歳代は「品質」（83.6点）、30歳代は「安全性」（85.0点）、40・50歳代（それぞれ86.9点、86.6点）や70歳以上（82.5点）は「鮮度」、60歳代は「国産品か輸入品かの区別」（82.8点）が最も高くなっている。20歳代は「鮮度」、「安全性」、「価格」、60歳代は「鮮度」、「安全性」、「品質」の重視度も同程度に高くなっている。一方、40歳代以下は「生産者や生産履歴情報」、50歳代以上は「コマーシャルなどのマスコミ情報」の重視度が最も低くなっている。

年代差は「価格」で最も大きく、20歳代が82.1点で最も高く、70歳以上が71.7点で最も低くなっている。

問5 食品を購入する時、どれくらい重視しているか 年代別の「重視度」



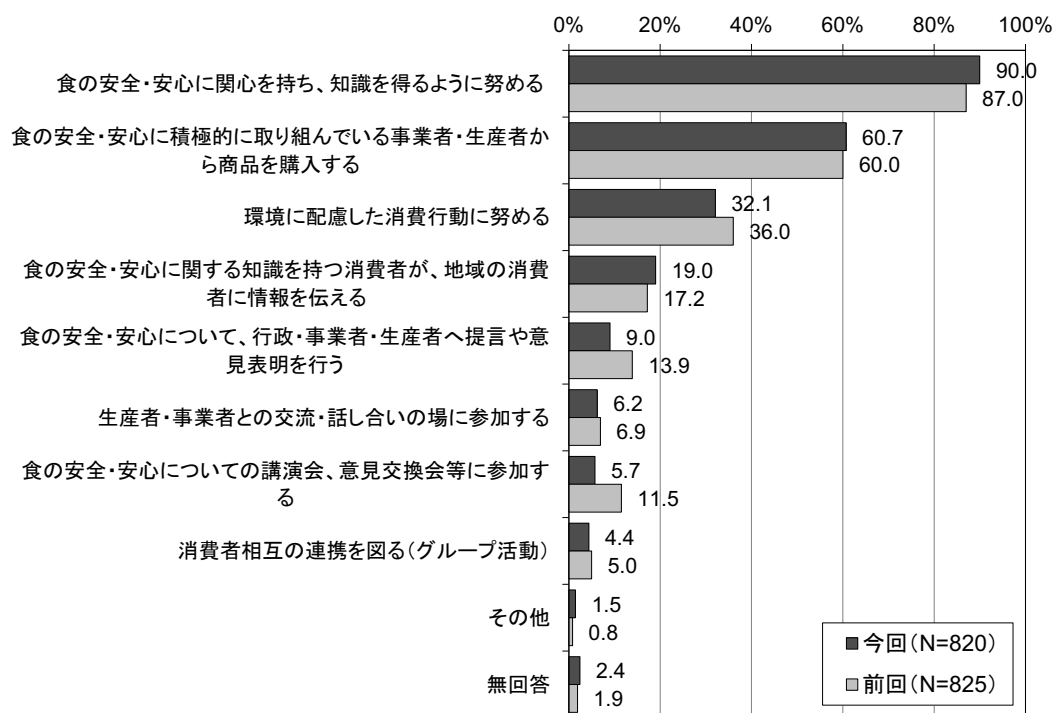
問6 食の安全性確保のため、消費者がすべきことはどんなことだと思いますか。(3つまで選択)

「食の安全・安心に関心を持ち、知識を得るように努める」(90.0%)が特に高く、次いで「食の安全・安心に積極的に取り組んでいる事業者・生産者から商品を購入する」(60.7%)、「環境に配慮した消費行動に努める」(32.1%)となっている。

前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

「生産者・事業者との交流・話し合いの場に参加する」、「講演会、意見交換会等に参加する」などの積極的なアプローチに関する項目が低い一方で、「食の安全・安心の知識を得るように努める」という意識に関する項目は引き続き高い傾向にある。

問6 食の安全性確保のため、消費者がすべきこと(3つまで選択)



(その他の主な内訳)

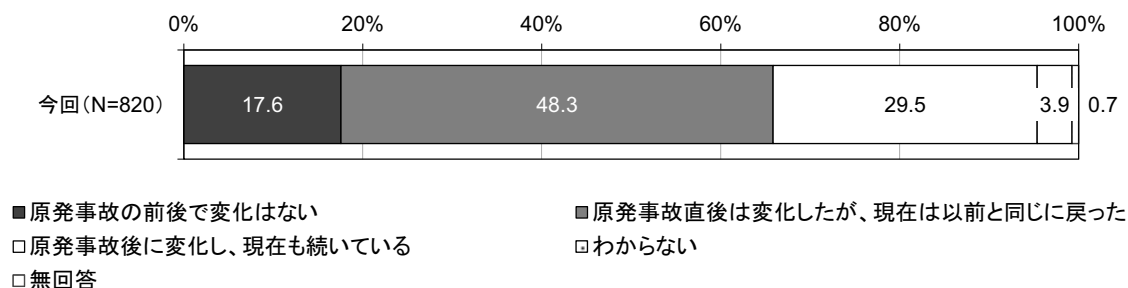
- ・価格だけで判断しない
- ・生産者、事業者、行政に対して注意を払っておく
- ・過敏になりすぎない
- ・マスコミに惑わされない
- ・少しでも疑問がある商品は買わないという覚悟を持つ
- ・消費者も賢くなるようにすべきと思うが限度があるので、生産者のモラル向上を願うしかない
- ・自分で材料から料理し、添加物を摂らないようにする
- ・価格で商品を選ばない
- ・地産地消に努め、信頼できる生産者を見つけることが大切
- ・生産者や事業者を信用して買うしかない
- ・無駄に殺生しない。破棄されるものが多すぎる

2-2 放射性物質について

問 7 福島第一原子力発電所の事故前後で、食品の購入に当たって、産地に対する意識の変化はありましたか。(1つ選択)

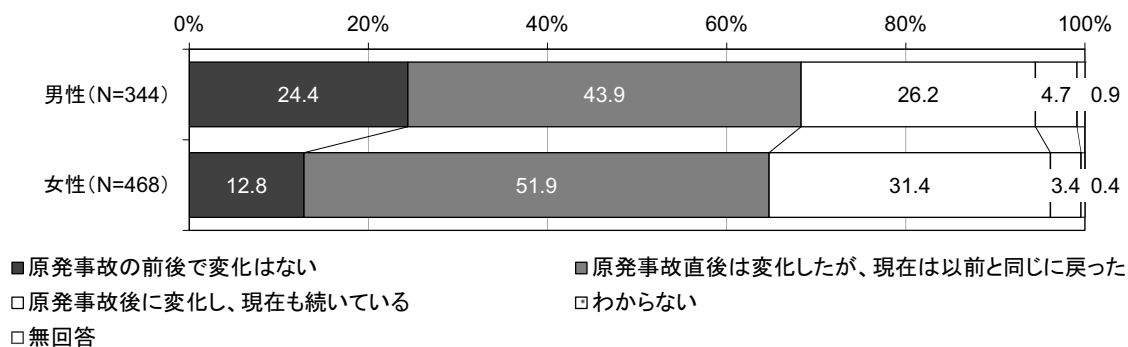
「原発事故直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」(48.3%)が最も高く、次いで「原発事故後に変化し、現在も続いている」(29.5%)、「原発事故の前後で変化はない」(17.6%)となっている。

問 7 福島第一原子力発電所の事故前後での食品購入時の産地への意識変化(1つ選択)



性別では、全体と同様の傾向を示しているが、「原発事故直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」は男性より女性の値が 8.0 ポイント高く、「原発事故の前後で変化はない」は女性より男性が 11.6 ポイント高くなっている。

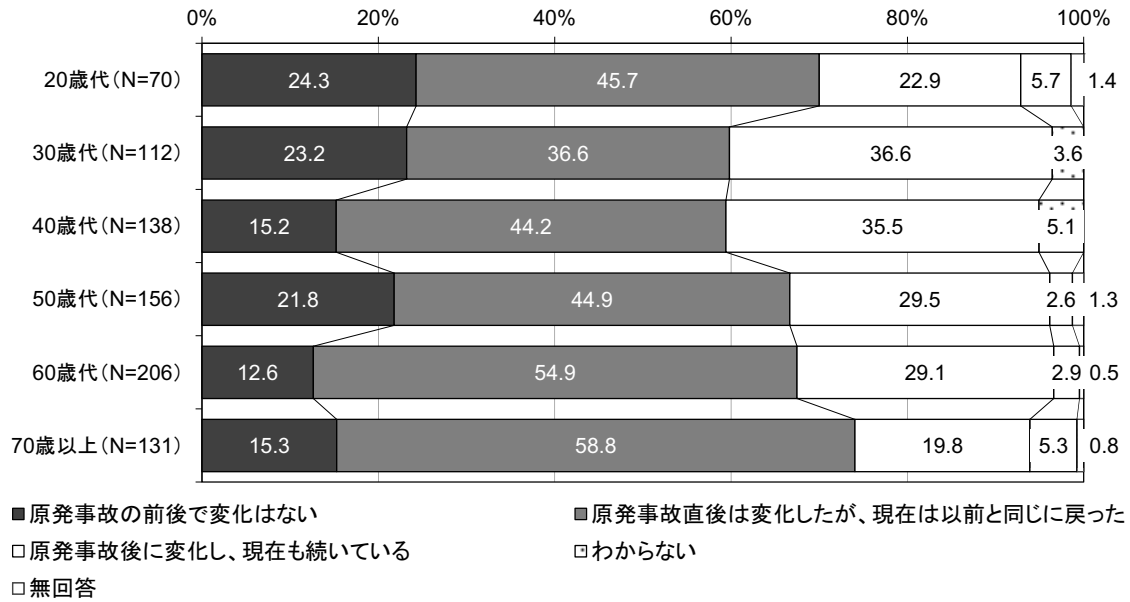
問 7 福島第一原子力発電所の事故前後での食品購入時の産地への意識変化(性別)



- ・問 2(1) 食品の安全性において、「放射性物質」は「不安度」68.9 点(3 番目/10 項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「放射性物質」は 63.3%(3 番目/「その他」を含む 11 項目)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「食品中の放射性物質」は「重要度」83.7 点(4 番目/16 項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において、「食品中の放射性物質」は 28.5%(4 番目/16 項目)
- ・問 42 食に関する認知度において、「食品中の放射性物質」の認知度『よく知っている』17.4%(8 番目/8 項目)

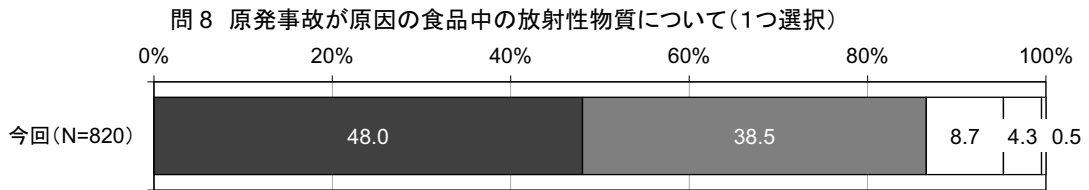
年代別では、すべての年代で「原発事故直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」が最も高く、70歳以上が58.8%で最も高くなっている。30歳代は「原発直後に変化し、現在も続いている」も同値（36.6%）となっている。20歳代は「原発直後に変化し、現在も続いている」（22.9%）より「原発事故の前後で変化はない」（24.3%）が高くなっている。

問7 福島第一原子力発電所の事故前後での食品購入時の産地への意識変化(年代別)



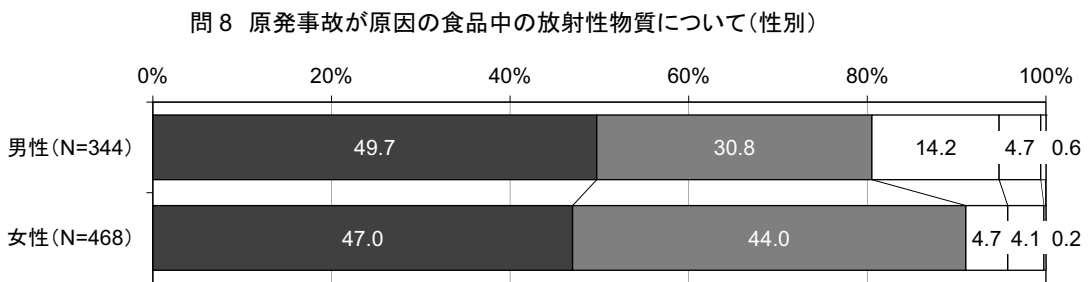
問 8 原発事故が原因の食品中の放射性物質について、どのように考えますか。(1つ選択)

「基準値を超えていなければ安心」(48.0%)が最も高く、次いで「基準値を超えていなくても不安」(38.5%)となっている。



■ 基準値を超えていなければ安心 ■ 基準値を超えていなくても不安 □ 気にしていない □ わからない □ 無回答

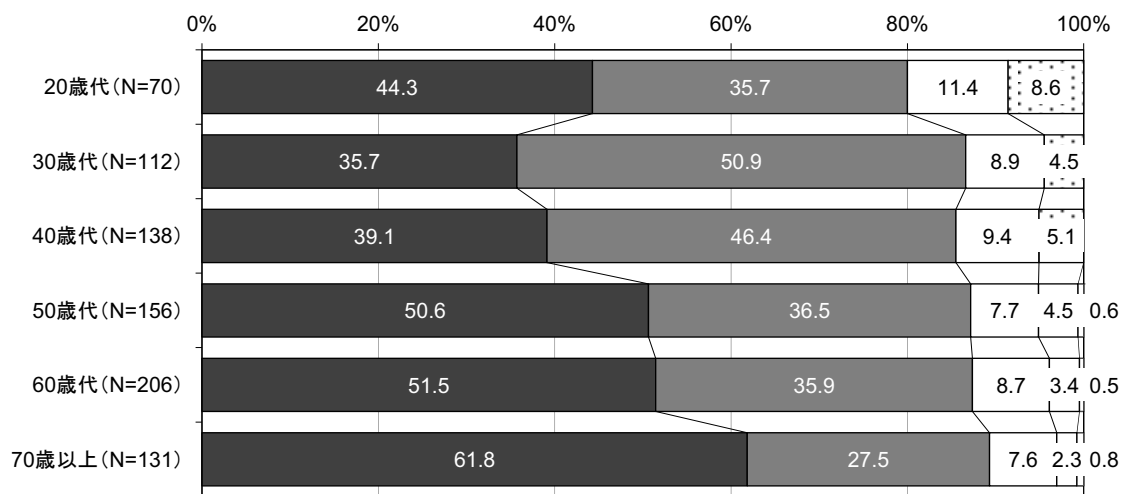
性別では、全体と同様の傾向を示しているが、「基準値を超えていなくても不安」は男性より女性の値が 13.2 ポイント高く、「気にしていない」は女性より男性が 9.5 ポイント高くなっている。



■ 基準値を超えていなければ安心 ■ 基準値を超えていなくても不安 □ 気にしていない □ わからない □ 無回答

30・40歳代を除くすべての年代において「基準値を超えていなければ安心」が最も高く、70歳以上が61.8%で最も高くなっている。30・40歳代は「基準を超えていなくても不安」が最も高く、30歳代が50.9%で最も高くなっている。

問8 原発事故が原因の食品中の放射性物質について(年代別)



■基準値を超えていなければ安心 ■基準値を超えていなくても不安 □気にしていない □わからない □無回答

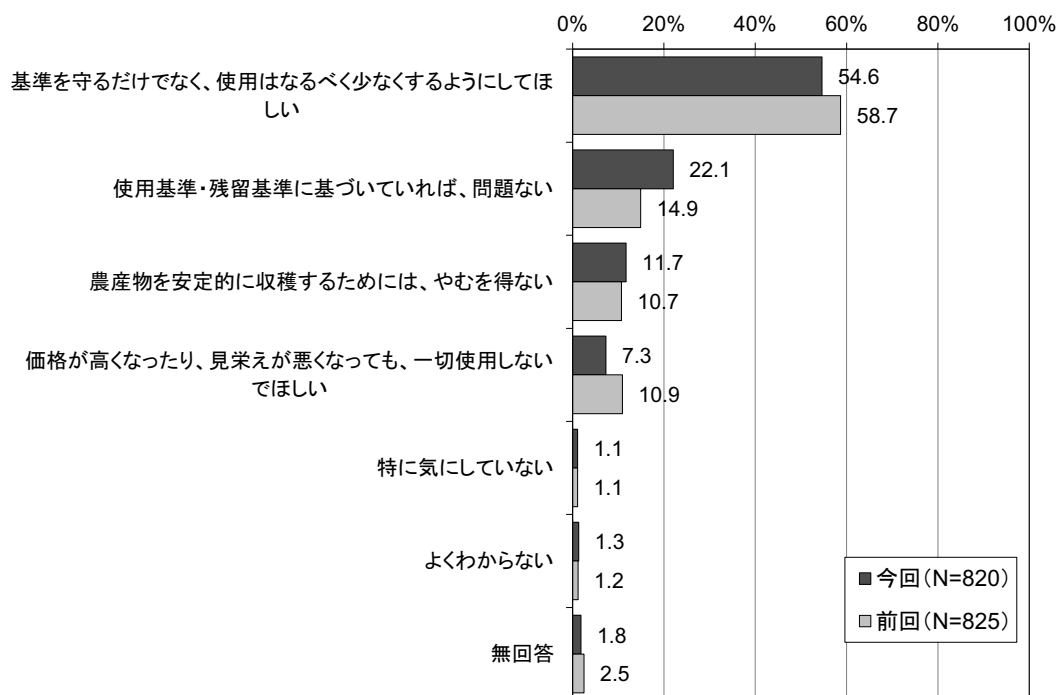
2-3 農産物への農薬の使用について

問9 農産物への農薬の使用について、どのように考えますか。(1つ選択)

「基準を守るだけでなく、使用はなるべく少なくするようにしてほしい」(54.6%)が特に高く、次いで「使用基準・残留基準に基づいていけば、問題ない」(22.1%)、「農産物を安定的に収穫するためには、やむを得ない」(11.7%)となっている。

前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっているが、その中で「使用基準・残留基準に基づいていけば、問題ない」(前回 14.9%)は7.2ポイント増加している。

問9 農産物への農薬の使用について(1つ選択)



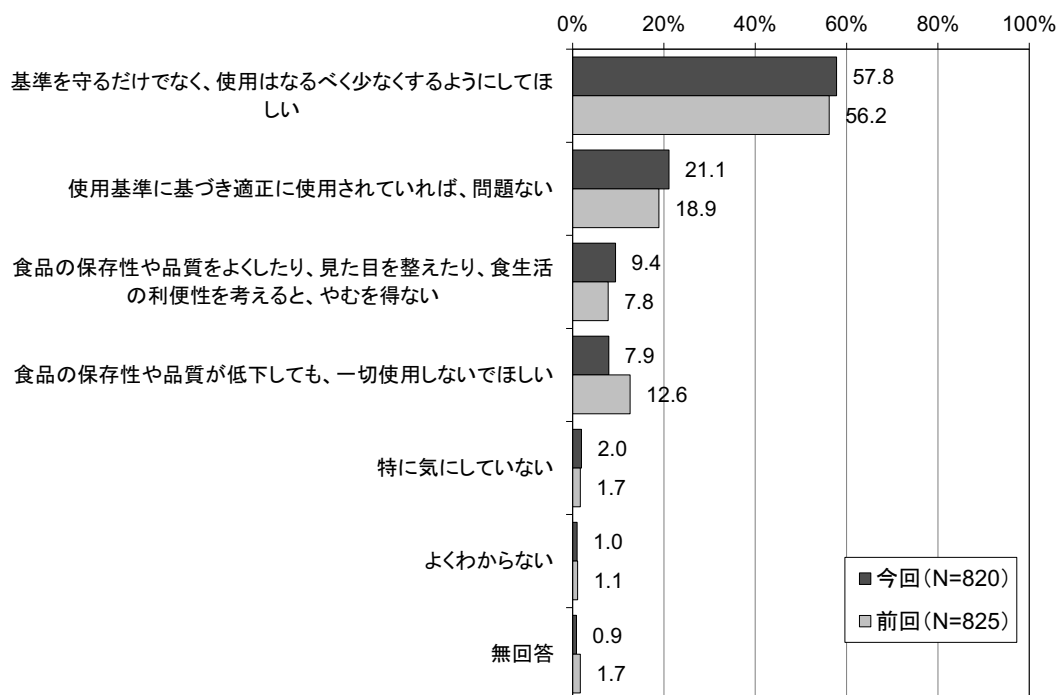
- ・問 2(1) 食品の安全性において、「残留農薬」は「不安度」66.3点(5番目/10項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「残留農薬」は64.8%(2番目/「その他」を含む11項目)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「農薬の使用・残留に関する農産物の安全性確保」は「重要度」83.3点(5番目/16項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において「農薬の使用・残留に関する農産物の安全性確保」は35.4%(2番目/16項目)

2-4 食品添加物の使用について

問 10 食品添加物の使用について、どのように考えますか。(1つ選択)

「基準を守るだけでなく、使用はなるべく少なくするようにしてほしい」(57.8%) が特に高く、次いで「使用基準に基づき適正に使用されていれば、問題ない」(21.1%) となっている。前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

問 10 食品添加物について(1つ選択)



- ・問 2(1) 食品の安全性において、「着色料・甘味料・保存料等の食品添加物」は「不安度」65.5 点(6 番目/10 項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「食品添加物」は 58.0%(4 番目/「その他」を含む 11 項目)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「食品添加物の使用に関する加工食品の安全性確保」は「重要度」79.9 点(8 番目/16 項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において、「食品添加物の使用に関する加工食品の安全性確保」は 17.3%(6 番目/16 項目)

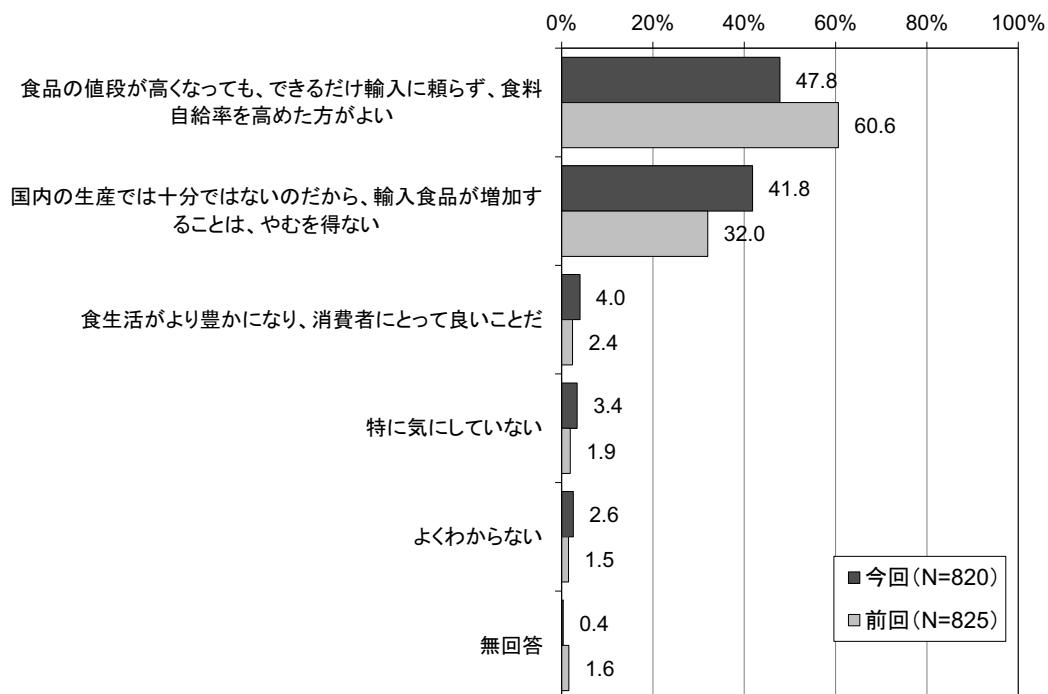
2-5 輸入食品について

問 11 輸入食品が増加していることについて、どのように考えますか。(1つ選択)

「食品の値段が高くなっても、できるだけ輸入に頼らず、食料自給率を高めた方がよい」(47.8%)が最も高く、次いで「国内の生産では十分ではないのだから、輸入食品が増加することは、やむを得ない」(41.8%)となっている。

前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっているが、その中で「食品の値段が高くなっても、できるだけ輸入に頼らず、食料自給率を高めた方がよい」(前回 60.6%)は 12.8 ポイント減少し、「国内の生産では十分ではないのだから、輸入食品が増加することは、やむを得ない」(前回 32.0%)は 9.8 ポイント増加している。

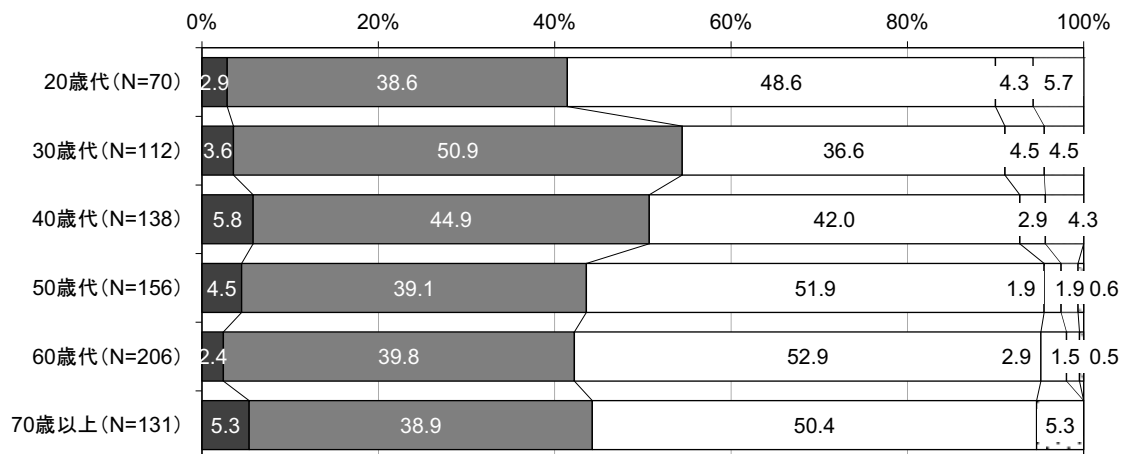
問 11 輸入食品の増加について(1つ選択)



年代別では、30・40歳代を除くすべての年代において「食品の値段が高くなっても、できるだけ輸入に頼らず、食料自給率を高めた方がよい」が最も高く、30・40歳代は「国内の生産では十分ではないのだから、輸入食品が増加することは、やむを得ない」が最も高くなっている。

- ・問 2(1) 食品の安全性において、「輸入食品」は「不安度」82.3 点(1 番目/10 項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「輸入食品」は 72.0%(1 番目/「その他」を含む 11 項目中)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「輸入食品の安全性確保」は「重要度」88.0 点(1 番目/16 項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において、「輸入食品の安全性確保」は 51.5%(1 番目/16 項目)

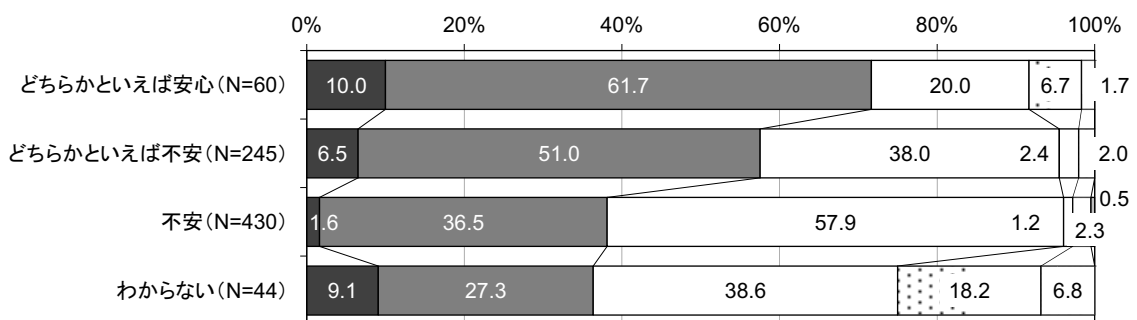
問 11 輸入食品の増加について(年代別)



- 食生活がより豊かになり、消費者にとって良いことだ
- 国内の生産では十分ではないのだから、輸入食品が増加することは、やむを得ない
- 食品の値段が高くなっても、できるだけ輸入に頼らず、食料自給率を高めた方がよい
- 特に気にしていない
- よくわからない
- 無回答

輸入食品の安全性について(問2(2))と合わせて見てみると、「国内の生産では十分ではないのだから、輸入食品が増加することは、やむを得ない」は、輸入食品の増加について「どちらかといえば安心」で6割以上(61.7%)、「どちらかといえば不安」で5割以上(51.0%)、「不安」で3割以上(36.5%)となっており、安心と不安のどちらと感じていても、「やむを得ない」という理由が多いことがうかがえる。また、輸入食品の増加について不安度が高くなるほど、「国内の生産では十分ではないのだから、輸入食品が増加することは、やむを得ない」は低くなり、「食品の値段が高くなっても、できるだけ輸入に頼らず、食料自給率を高めた方がよい」が高くなる傾向がうかがえる。

問 11 輸入食品の増加について(輸入食品の安全について(問2(2)別))

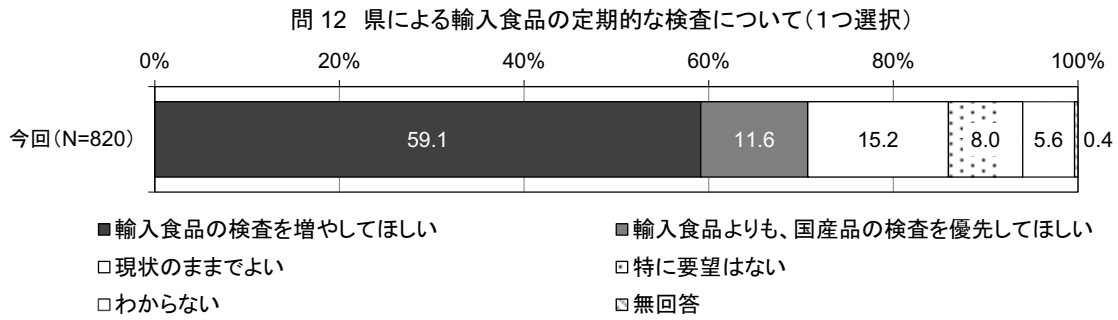


- 食生活がより豊かになり、消費者にとって良いことだ
- 国内の生産では十分ではないのだから、輸入食品が増加することは、やむを得ない
- 食品の値段が高くなっても、できるだけ輸入に頼らず、食料自給率を高めた方がよい
- 特に気にしていない
- よくわからない
- 無回答

※輸入食品の食の安全性について「安心」(N=5)は表示しない

問 12 県では、輸入食品の検査を定期的実施していますが、これについてどのように考えますか。(1つ選択)

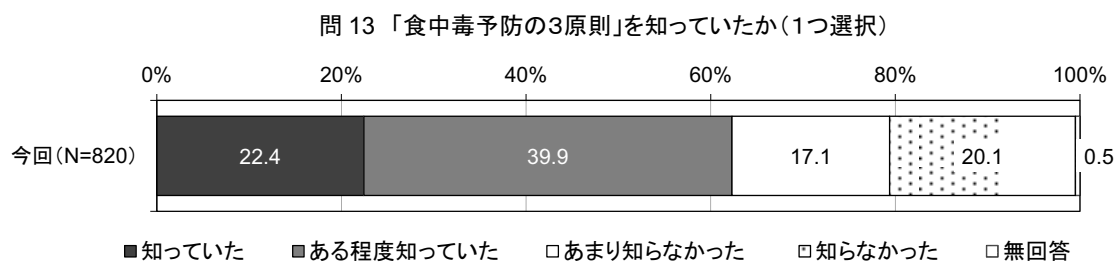
「輸入食品の検査を増やしてほしい」(59.1%)が特に高く、次いで「現状のままでよい」(15.2%)、「輸入食品よりも、国産品の検査を優先してほしい」(11.6%)となっている。



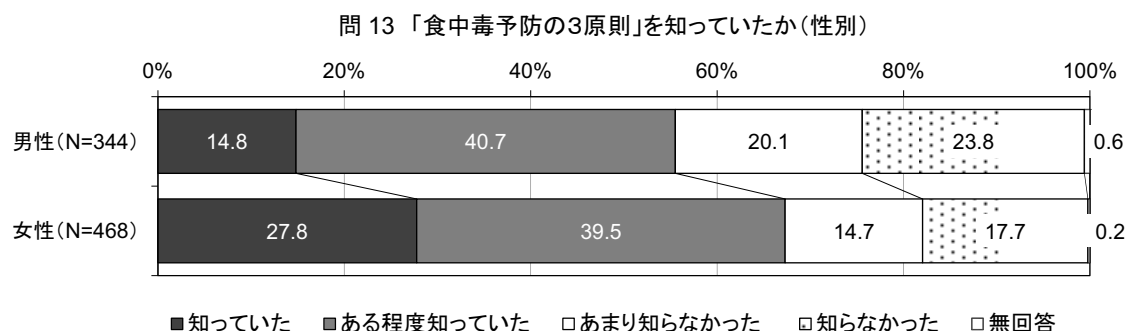
2-6 食中毒予防について

問 13 食中毒にならないようにするための「食中毒予防の3原則」を知っていましたか。
(1つ選択)

「ある程度知っていた」(39.9%)が最も高く、「知っていた」との合計値(62.3%)が6割以上となっている。



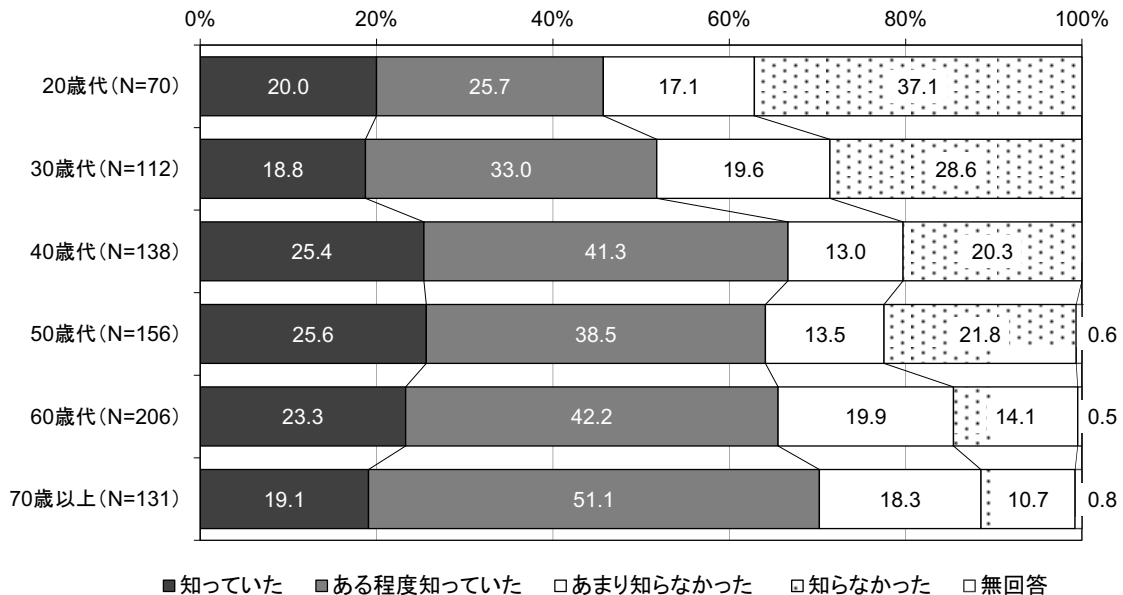
性別では、「知っていた」、「ある程度知っていた」の合計値は、男性が55.5%、女性が67.3%となっていることから、食中毒予防3原則について男性より女性の認知度のほうが高いことがうかがえる。



- ・問 2(1) 食品の安全性において、「ノロウイルス、O157等の食中毒」は「不安度」67.7点(4番目/10項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「食中毒」は49.1%(5番目/「その他」を含む11項目)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「ノロウイルス、O157等の食中毒対策」は「重要度」84.0点(2番目/16項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において、「ノロウイルス、O157等の食中毒対策」は35.4%(2番目/16項目)

年代別では、「知っていた」、「ある程度知っていた」の合計値は、70歳以上が70.2%で最も高く、40歳代以上がいずれも6割以上となっているのに対して、20歳代は45.7%、30歳代は51.8%と低く、特に20歳代は「知らなかった」、「あまり知らなかった」の合計値(54.2%)が「知っていた」、「ある程度知っていた」の合計値を上回っている。これらのことから、20・30歳代は食中毒予防3原則の認知度が低い傾向がうかがえる。

問 13 「食中毒予防の3原則」を知っていたか(年代別)

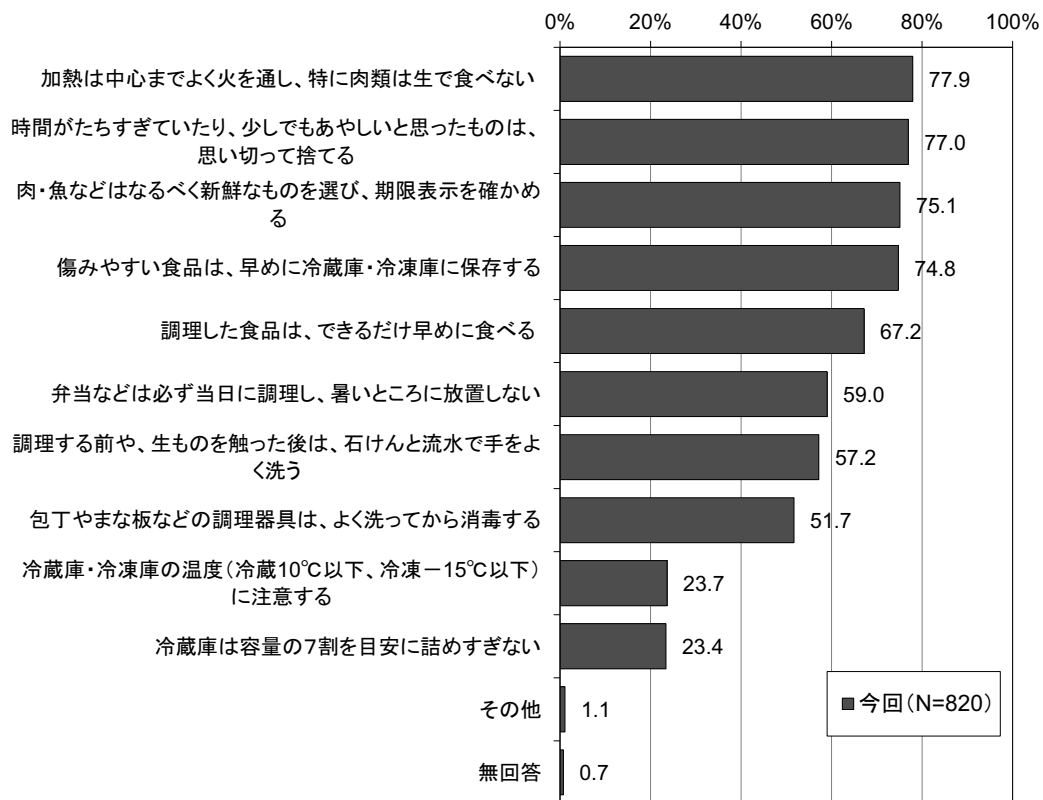


問 14 ふだんの食生活で、食中毒にならないために、どのようなことを行っていますか。
(すべて選択)

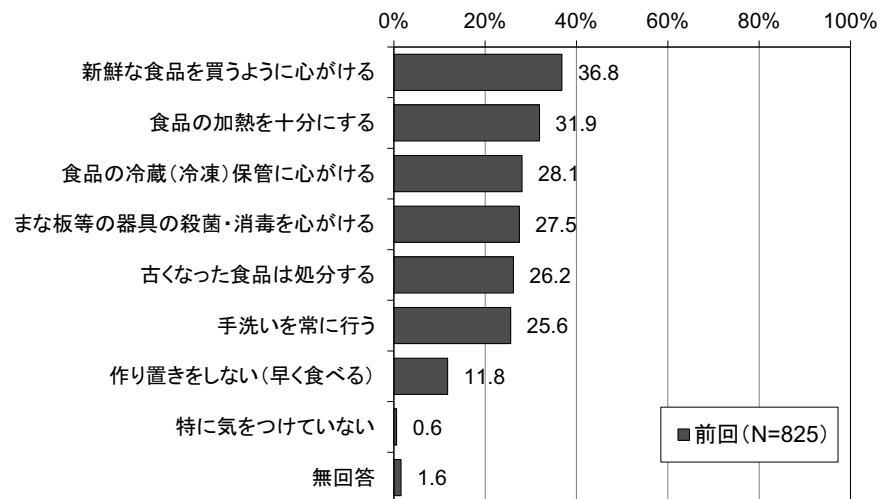
「加熱は中心までよく火を通し、特に肉類は生で食べない」(77.9%)、「時間がたちすぎていたり、少しでもあやしいと思ったものは、思い切って捨てる」(77.0%)、「肉・魚などはなるべく新鮮なものを選び、期限表示を確かめる」(75.1%)、「傷みやすい食品は、早めに冷蔵庫・冷凍庫に保存する」(74.8%)の4項目が7割以上と高く、次いで「調理した食品は、できるだけ早めに食べる」(67.2%)となっている。

前回と今回では項目の選択数や表現が変わっているため、参考値として見てみると、前回においても加熱、鮮度、早めの冷蔵・冷凍保管などの値が高くなっている。

問 14 食中毒予防のためにふだん何を行っているか(すべて選択)



前回 食中毒予防のために心がけていること(2つまで選択)



(その他の主な内訳)

- ・気にしたことはない
- ・自分なりの確かめ方をしてから考える
- ・ふきんや台ふきんの消毒等
- ・残った食物は一度火を通して冷蔵庫へ。残った生もの(サラダ等)は処分
- ・作り過ぎない、人に手作りのものをあげない
- ・野菜類をよく洗う
- ・食中毒について学ぶ
- ・定期的に消毒(漂白剤)
- ・肉魚用と野菜用の包丁、まな板を分ける

2-7 遺伝子組換え食品について

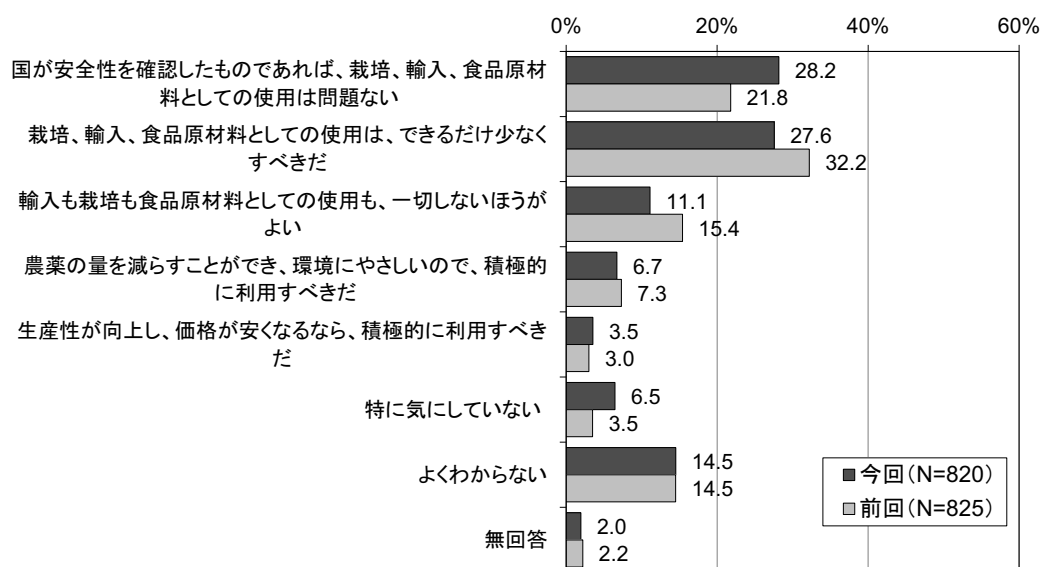
問 15 遺伝子組換え食品について、どのように考えますか。(1つ選択)

「国が安全性を確認したものであれば、栽培、輸入、食品原材料としての使用は問題ない」(28.2%)、「栽培、輸入、食品原材料としての使用は、できるだけ少なくすべきだ」(27.6%)の2項目が高く、次いで「よくわからない」(14.5%)、「輸入も栽培も食品原材料としての使用も、一切しないほうがよい」(11.1%)となっている。

前回と比較すると、「国が安全性を確認したものであれば、栽培、輸入、食品原材料としての使用は問題ない」(前回 21.8%)は 6.4 ポイント増加し、前回最も高い「栽培、輸入、食品原材料としての使用は、できるだけ少なくすべきだ」(前回 32.2%)は 4.6 ポイント減少している。また、前回はこの2項目の差が 10 ポイント以上見られたが、今回は同程度となっている。

遺伝子組換え食品使用について肯定的な「国が安全性を確認したものであれば、栽培、輸入、食品原材料としての使用は問題ない」、「農薬の量を減らすことができ、環境にやさしいので、積極的に利用すべきだ」(6.7%)、「生産性が向上し、価格が安くなるなら積極的に利用すべきだ」(3.5%)の合計値(38.4%)は、否定的な「栽培、輸入、食品原材料としての使用は、できるだけ少なくすべきだ」、「輸入も栽培も食品原材料としての使用も、一切しないほうがよい」の合計値(38.7%)とほぼ同程度となっている。

問 15 遺伝子組換え食品について(1つ選択)



- ・問 2(1) 食品の安全性において、「遺伝子組換え食品」は「不安度」56.1 点(7 番目/10 項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「遺伝子組換え食品」は 41.6%(6 番目/「その他」を含む 11 項目)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「遺伝子組換え食品に関する安全対策」は「重要度」74.3 点(10 番目/16 項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において、「遺伝子組換え食品に関する安全対策」は 7.3%(11 番目/16 項目)

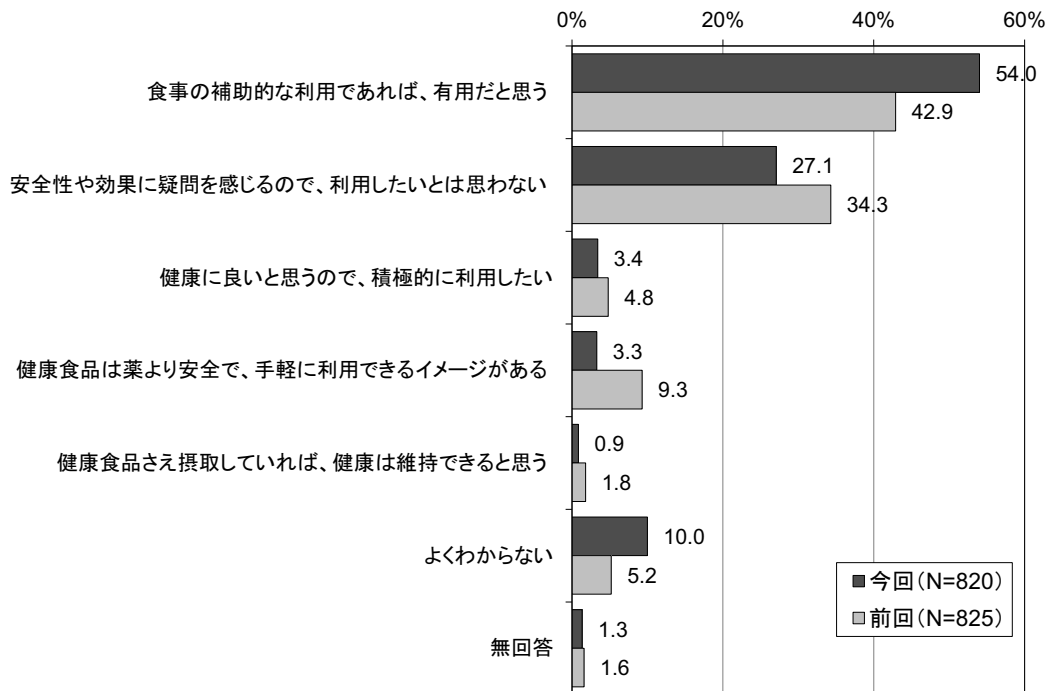
2-8 健康食品の利用について

問 16 健康食品の利用について、どのように考えますか。(1つ選択)

「食事の補助的な利用であれば、有用だと思う」(54.0%)が特に高く、次いで「安全性や効果に疑問を感じるので、利用したいとは思わない」(27.1%)となっている。

前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっているが、「食事の補助的な利用であれば、有用だと思う」(前回 42.9%)は 11.1 ポイント増加し、「安全性や効果に疑問を感じるので、利用したいとは思わない」(前回 34.3%)は 7.2 ポイント減少している。

問 16 健康食品の利用について(1つ選択)



- ・問 2(1) 食品の安全性において、「健康食品」は「不安度」48.2 点(10 番目/10 項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「健康食品」は 19.3%(10 番目/「その他」を含む 11 項目)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「いわゆる健康食品の安全性確保」は「重要度」69.2 点(13 番目/16 項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において「いわゆる健康食品の安全性確保」は 3.4%(13 番目/16 項目)

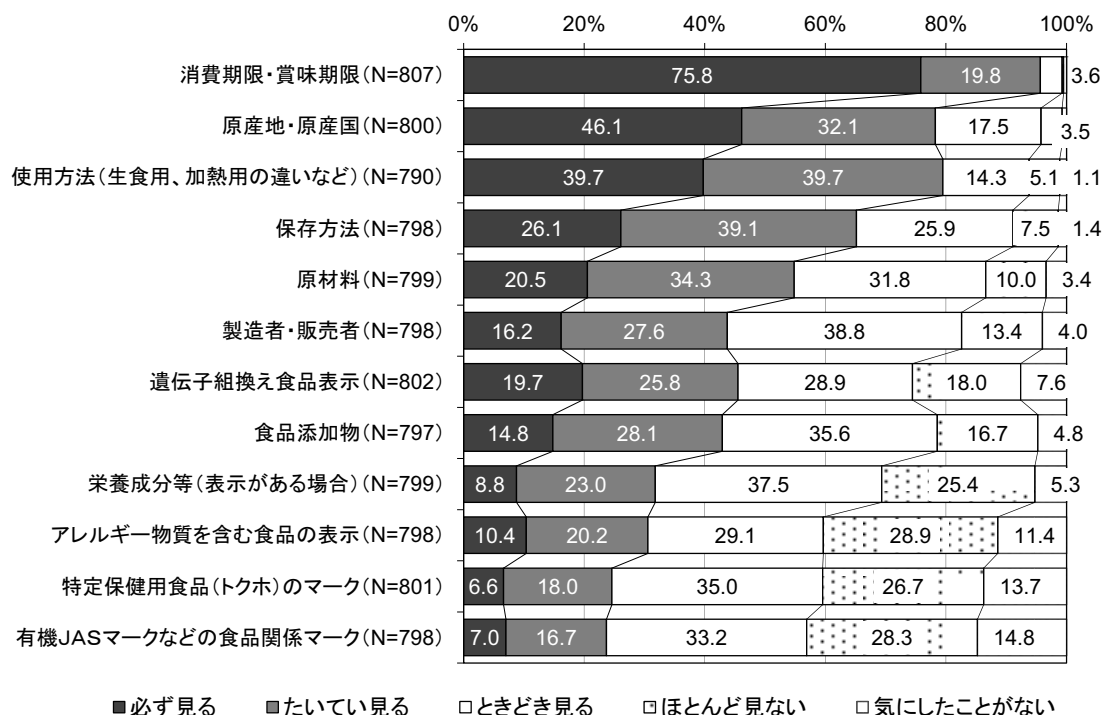
2-9 食品表示について

問 17 食品を購入する時、以下の各項目について、どのくらい確認して（見て）いますか。
（それぞれ1つ選択）

「必ず見る」を見ると、「消費期限・賞味期限」（75.8%）が特に高く、次いで「原産地・原産国」（46.1%）、「使用方法（生食用、加熱用の違いなど）」（39.7%）となっている。「必ず見る」、「たいてい見る」の合計値は、「消費期限・賞味期限」（95.6%）が9割以上、次いで「使用方法（生食用、加熱用の違いなど）」（79.4%）、「原産地・原産国」（78.2%）の2項目が約8割となっている。

一方、「ほとんど見ない」、「気にしたことがない」の合計値は、「有機JASマークなどの食品関係マーク」（43.1%）、「特定保健用食品（トクホ）のマーク」（40.4%）、「アレルギー物質を含む食品の表示」（40.3%）の3項目が4割以上となっている。

問 17 食品購入時にどのくらい確認しているか(それぞれ1つ選択)



※1.0%未満の値は非表示
 ※無回答を除く
 ※後述の「確認度」が高い順に表示

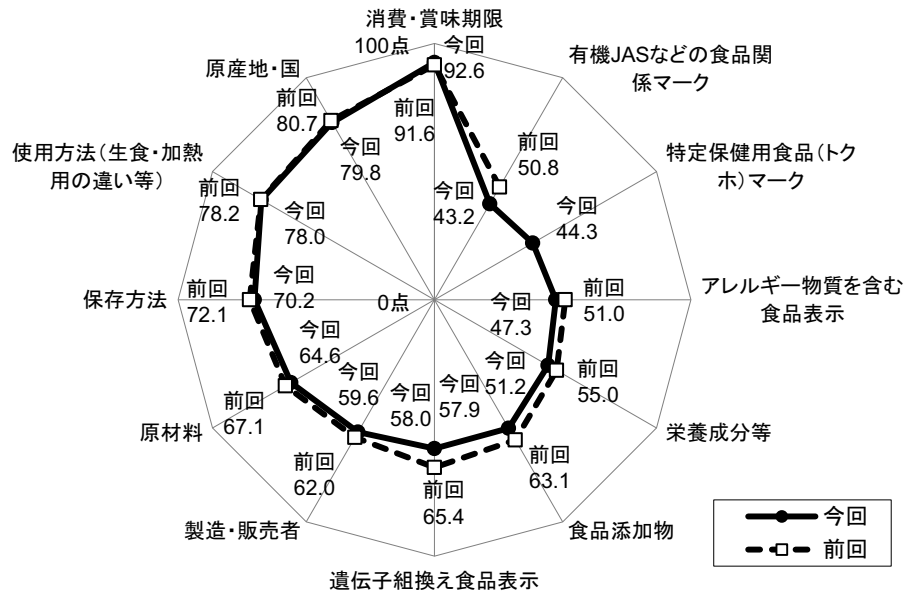
- ・問 2(1) 食品の安全性において、「食品の偽装表示」は「不安度」78.1点(2番目/10項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「食品表示」は31.7%(7番目/「その他」を含む11項目)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「食品表示に関する理解促進」は「重要度」72.3点(12番目/16項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において「食品表示に関する理解促進」は3.2%(14番目/16項目)

各項目に対する5段階の回答を、「確認度」※として比較すると、「消費期限・賞味期限」(92.6点)が特に高く、次いで「原産地・原産国」(79.8点)、「使用方法(生食用、加熱用の違いなど)」(78.0点)となっている。

前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっているが、「消費期限・賞味期限」、今回新たに設けた項目「特定保健用食品(トクホ)のマーク」を除くすべての項目において確認度が低くなっており、特に「有機JASマークなどの食品関係マーク」は7.6点減、「遺伝子組換え食品表示」は7.4点減と、比較的大きくなっている。

※「確認度」の算出方法
 「必ず見る」を100点、「たいてい見る」を75点、「ときどき見る」を50点、「ほとんど見ない」を25点、「気にしたことがない」を0点として、加重平均により確認度を指標化した。100点に近くなるほど、確認する度合いが高いことを示す。

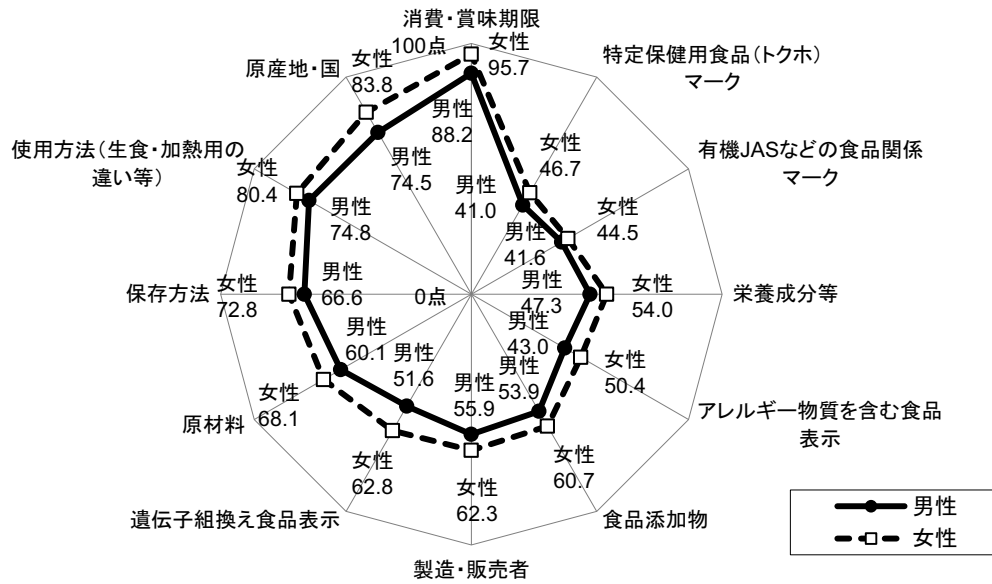
問17 食品購入時にどのくらい確認しているか「確認度」



※「特定保健用食品(トクホ)マーク」は新規設定

性別では、男女とも同様の傾向を示している。また、すべての項目において男性より女性の確認度が高く、「遺伝子組換え食品表示」はその差が 11.2 点と最も大きくなっている。

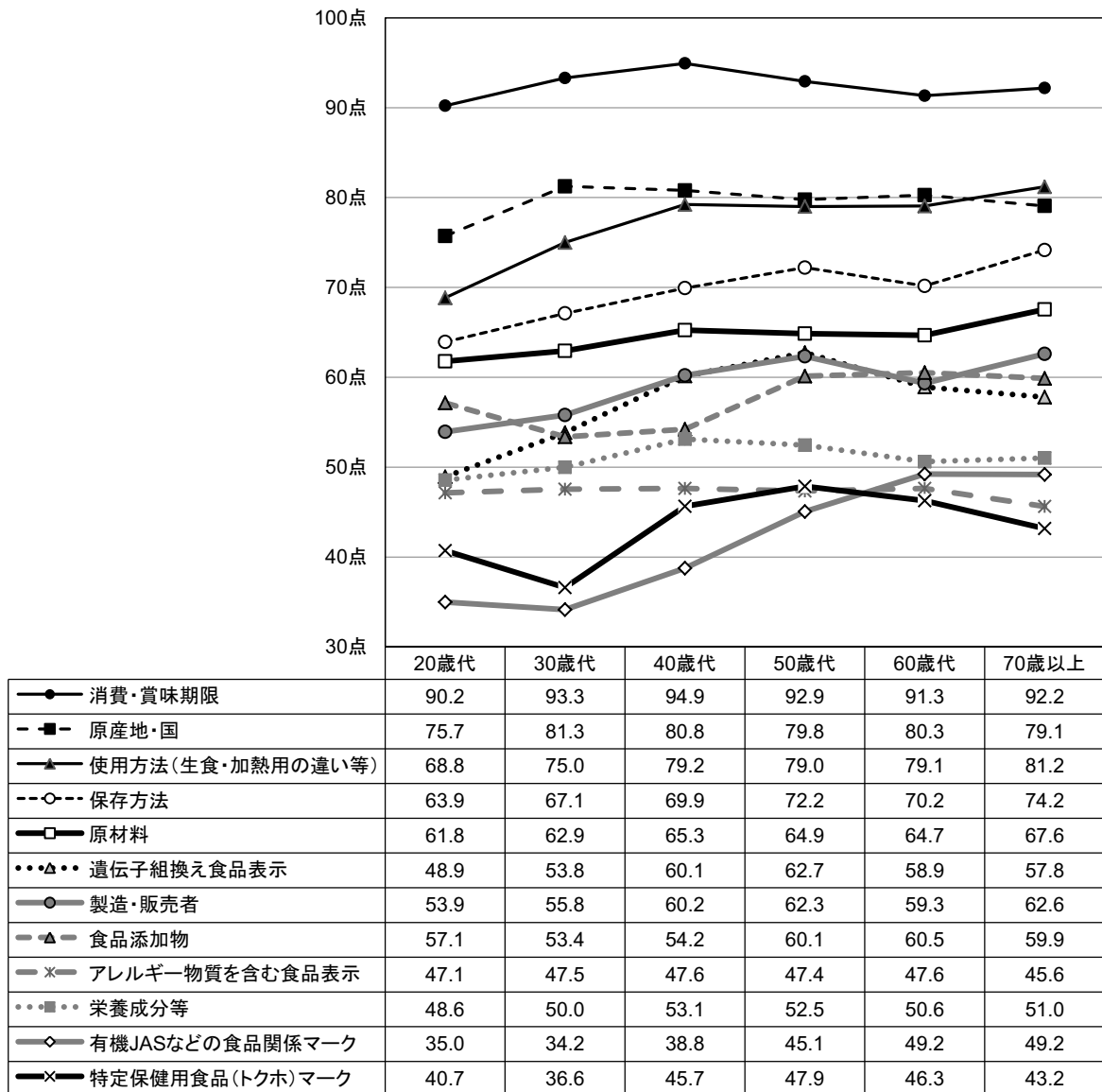
問 17 食品購入時にどのくらい確認しているか(性別)



年代別では、すべての年代において「消費期限・賞味期限」が最も高くなっている。一方、60歳代・70歳以上を除くすべての年代において「有機JASマークなどの食品関係マーク」が最も低く、60歳代・70歳以上は「特定保健用食品（トクホ）のマーク」が最も低くなっている。

年代差は「有機JASマークなどの食品関係マーク」で最も大きく、60歳代・70歳以上が49.2点の同値で最も高く、30歳代が34.2点で最も低くなっている。

問 17 食品購入時にどのくらい確認しているか(年代別)



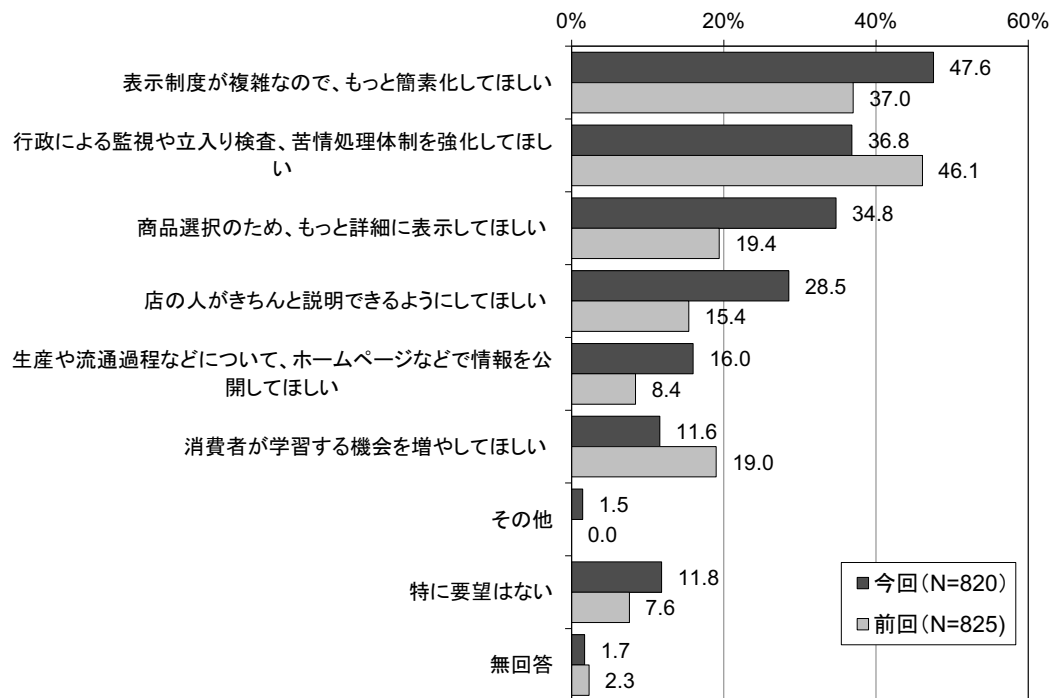
問 18 食品表示について、どのようなことを望みますか。(3つまで選択)

「表示制度が複雑なので、もっと簡素化してほしい」(47.6%) が最も高く、次いで「行政による監視や立入り検査、苦情処理体制を強化してほしい」(36.8%)、「商品選択のため、もっと詳細に表示してほしい」(34.8%) となっている。

前回と比較すると、「表示制度が複雑なので、もっと簡素化してほしい」(前回 37.0%) は 10.6 ポイント、「商品選択のため、もっと詳細に表示してほしい」(前回 19.4%) は 15.4 ポイントそれぞれ増加し、「行政による監視や立入り検査、苦情処理体制を強化してほしい」(前回 46.1%) は 9.3 ポイント減少している。また、「店の人がきちんと説明できるようにしてほしい」が 13.1 ポイント増加している。

なお、前は今回設定していない項目「食品表示に関する統一した法律を作してほしい」(前回 55.9%) が最も高かったが、平成 25 年の「食品表示法」成立に伴い今回の項目から除外している。

問 18 食品表示について望むこと(3つまで選択)



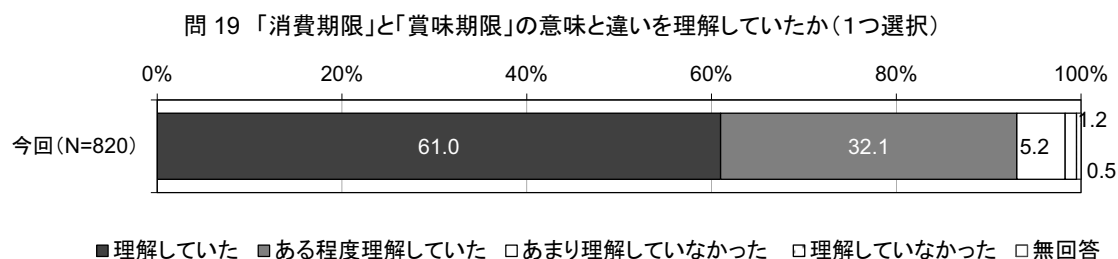
(その他の主な内訳)

- ・大きく・わかりやすく表示してほしい (6件)
- ・1か月たってもカビない食品に消費期限や賞味期限を使って、消費者をだましている防腐剤等は、国がしっかり禁止すべき
- ・遺伝子組換えの表示を必ずしてほしい
- ・必要な情報をわかりやすく表示してほしい
- ・おいしいものを作るためとはいえ、添加物が多すぎる
- ・嘘偽りのない正しい仕事をしていただきたい
- ・原産国の明記

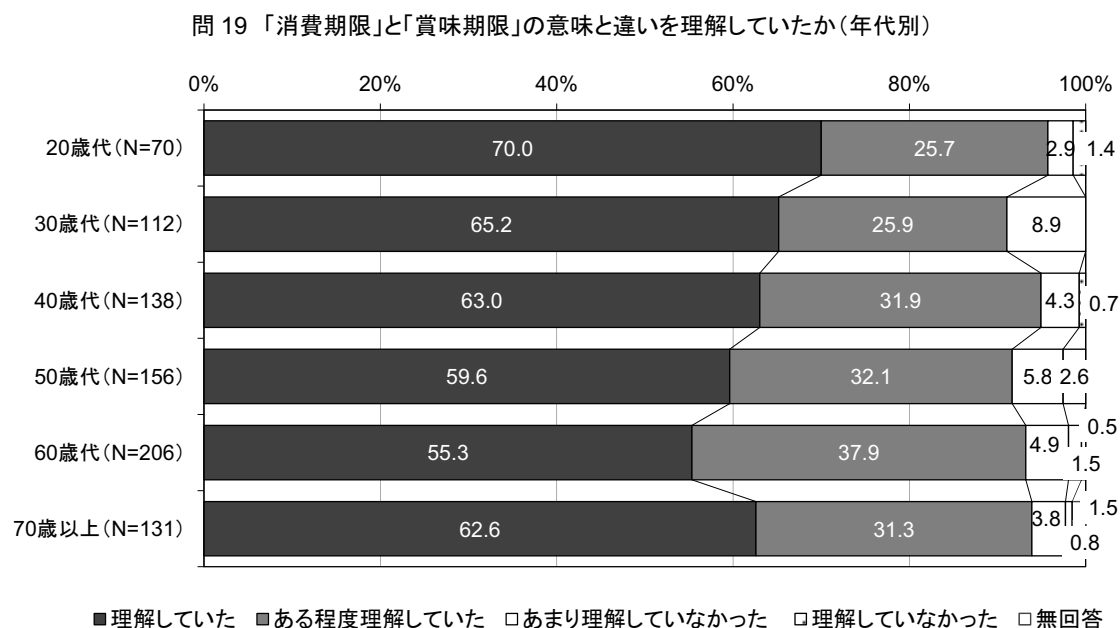
2-10 消費期限・賞味期限について

問 19 「消費期限」と「賞味期限」の意味と違いを理解していましたか。(1つ選択)

「理解していた」(61.0%)が最も高く、「ある程度理解していた」(32.1%)との合計値(93.1%)が9割以上となっている。



性別では、70歳以上を除いて高い年代ほど「理解していた」が低くなり、「ある程度理解していた」が高くなる傾向がうかがえる。

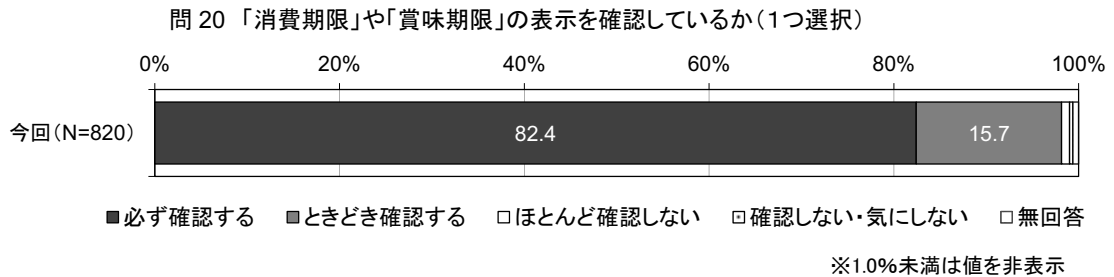


・問 17 食品購入時の確認において、「消費期限・賞味期限」は「確認度」92.6点(1番目/12項目)

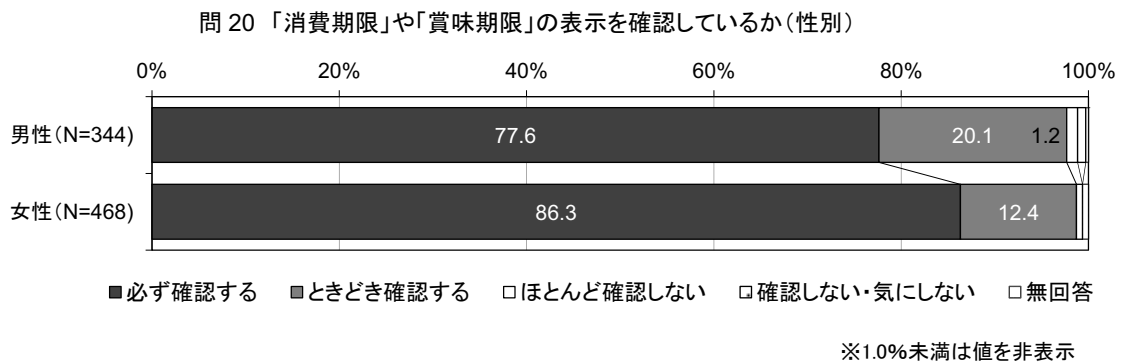
・問 42 食に関する認知度において、「食品保存の方法」の認知度『よく知っている』80.4%(3番目/8項目)

問 20 食べる前に、「消費期限」や「賞味期限」の表示を確認していますか。(1つ選択)

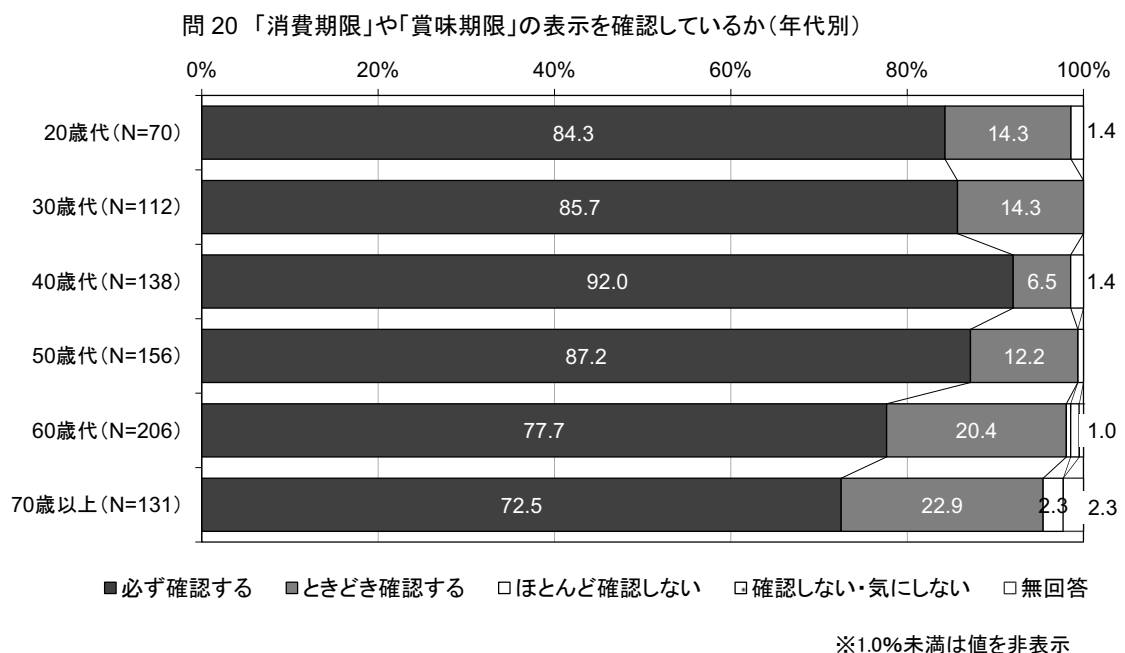
「必ず確認する」(82.4%) が特に高く、「ときどき確認する」(15.7%) との合計値(98.1%) がほとんどを占めている。



性別では、「必ず確認する」は男性より女性が 8.7 ポイント高く、「ときどき確認する」は女性より男性が 7.7 ポイント高くなっている。



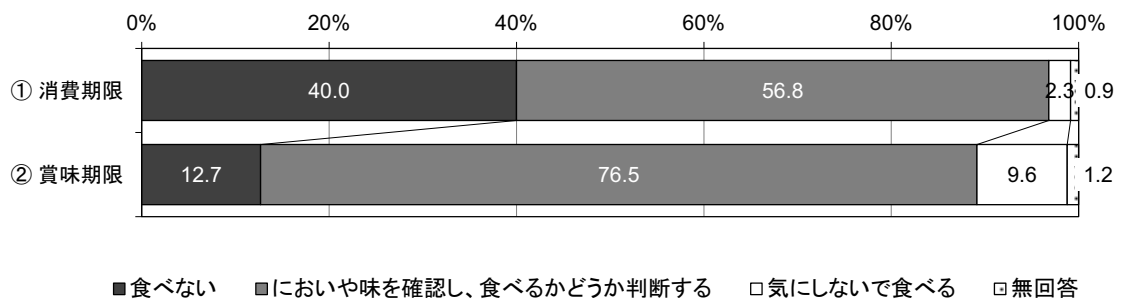
年代別では、「必ず確認する」は 40 歳代が最も高く、40 歳代をピークに若年、高年ほど低くなる傾向がうかがえる。



問 21 「消費期限」「賞味期限」それぞれについて、期限が切れた食品をどうしていますか。
(それぞれ1つ選択)

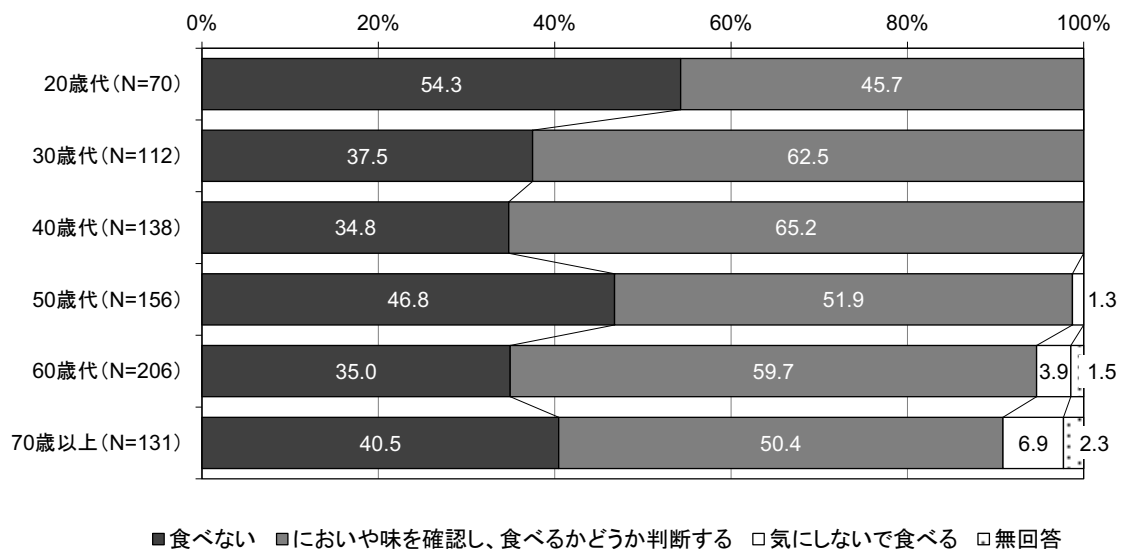
①消費期限、②賞味期限ともに「においや味を確認し、食べるかどうか判断する」(①消費期限 56.8%、賞味期限 76.5%) が最も高く、特に②賞味期限では突出して高くなっている。次いで①消費期限、②賞味期限ともに「食べない」(①消費期限 40.0%、賞味期限 12.7%) となっている。

問 21 「消費期限」や「賞味期限」が切れた食品をどうしているか(それぞれ1つ選択)



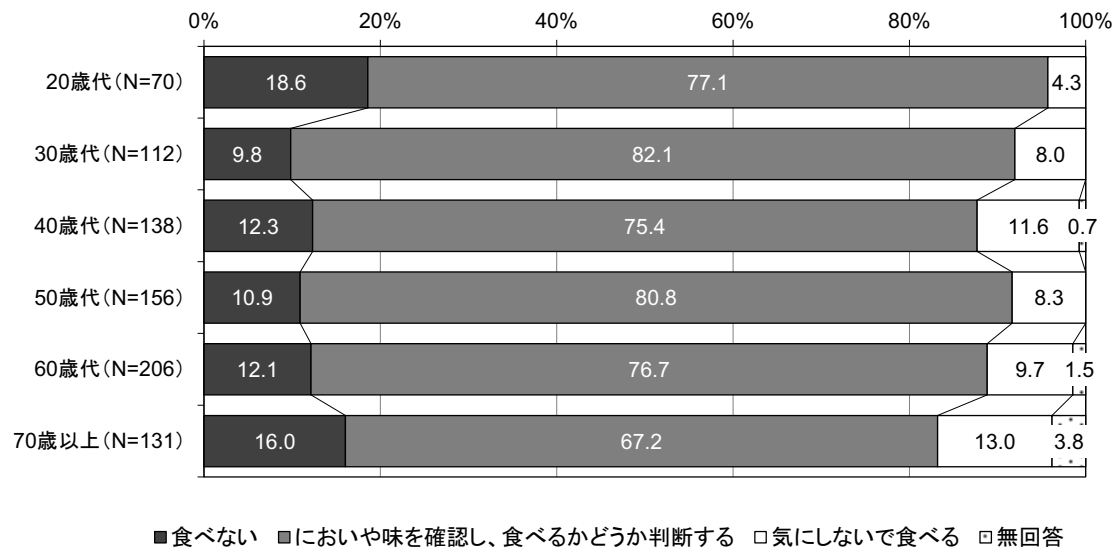
①消費期限について年代別に見ると、20歳代を除くすべての年代において「においや味を確認し、食べるかどうか判断する」が最も高く、20歳代は「食べない」(54.3%) が最も高くなっている。

問 21 「①消費期限」が切れた食品をどうしているか(年代別)



②賞味期限について年代別に見ると、全体傾向とほぼ同様の傾向となっている。

問 21 「②賞味期限」が切れた食品をどうしているか(年代別)



2-11 「食品の適正表示推進事業所」登録制度について

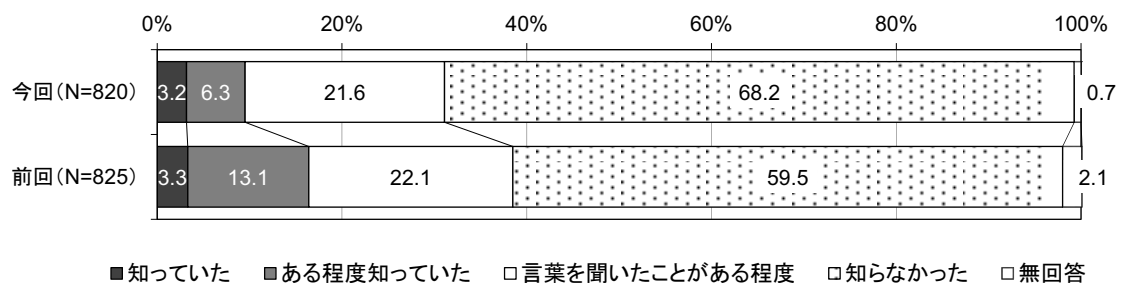
問 22 「食品の適正表示推進事業所」登録制度について知っていましたか。(1つ選択)

「知らなかった」(68.2%) が特に高く、次いで「言葉を聞いたことがある程度」(21.6%) となっている。「知っていた」(3.2%)、「ある程度知っていた」(6.3%) の合計値(9.5%) は1割未満となっている。

前回と比較すると、「知らなかった」(前回「全く知らなかった」59.5%) は8.7ポイント増加し、「ある程度知っていた」(前回「だいたい知っていた」、「多少は知っていた」の合計値13.1%として表示) は6.8ポイント減少している。

なお、前回と今回では項目の数や表現が変わっているものが複数あり、値の変化に影響を与えた可能性を考慮する必要がある。

問 22 「食品の適正表示推進事業所」登録制度について知っているか(1つ選択)



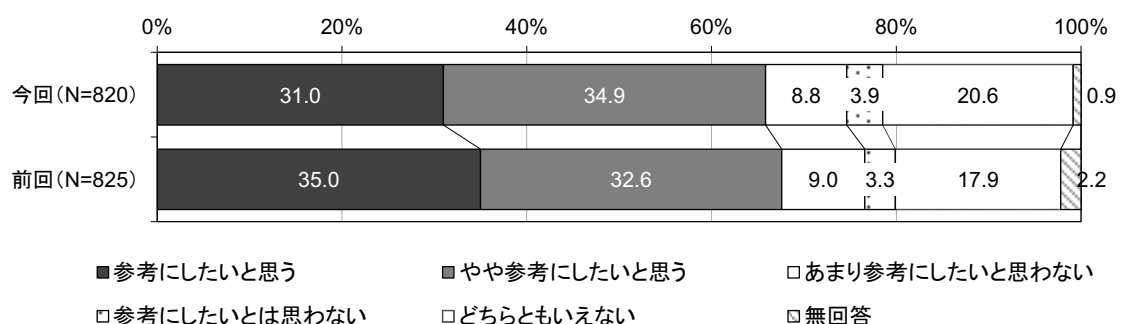
※「知らなかった」は前回「全く知らなかった」、「ある程度知っていた」は前回「だいたい知っていた」と「多少は知っていた」をあわせたものとして表示

問 23 食品の製造工場や販売店が「食品の適正表示推進事業所」として登録されていることを、商品購入の際の参考にしたいと思いませんか。(1つ選択)

「やや参考にしたいと思う」(34.9%) が最も高く、次いで「参考にしたいと思う」(31.0%)、「どちらともいえない」(20.6%) となっている。「参考にしたいと思う」、「やや参考にしたいと思う」の合計値(65.9%) は6割以上となっている。

前回と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。

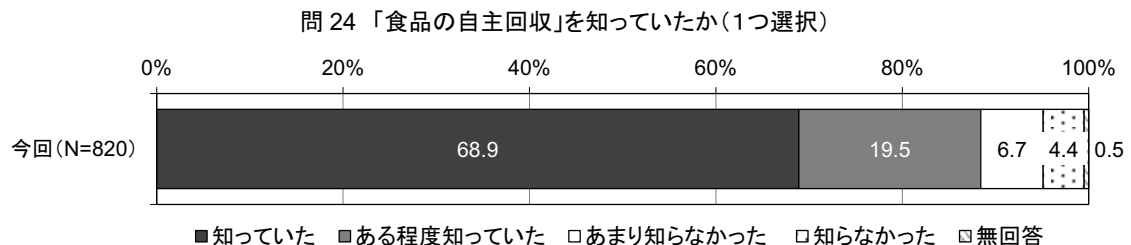
問 23「食品の適正表示推進事業所」登録を商品購入の際の参考にしたいと思うか(1つ選択)



2-12 食品の自主回収について

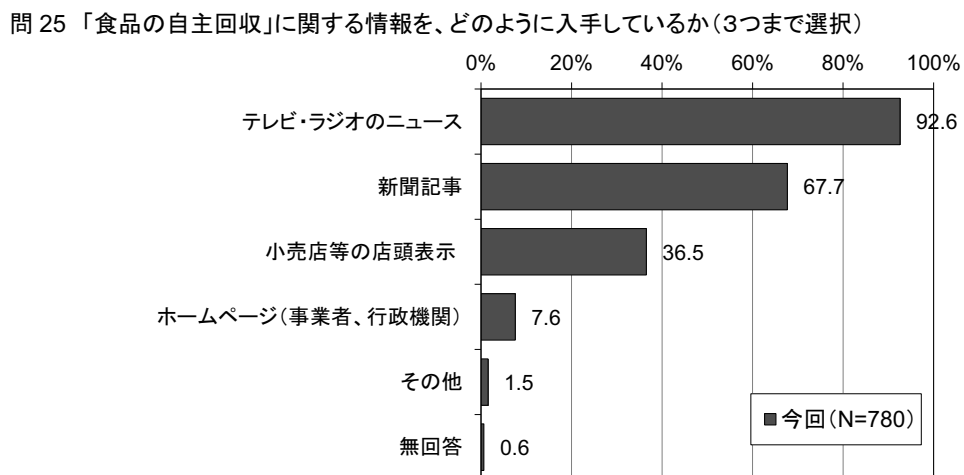
問 24 「食品の自主回収」を知っていましたか。(1つ選択)

「知っていた」(68.9%) が特に高く、「ある程度知っていた」(19.5%) との合計値(88.4%) は約 9 割となっている。



問 25 問 24 で「知っていた」「ある程度知っていた」「あまり知らなかった」とした方にうかがいます。「食品の自主回収」に関する情報を、どのように入手していますか。(3つまで選択)

「テレビ・ラジオのニュース」(92.6%) が特に高く、次いで「新聞記事」(67.7%)、「小売店等の店頭表示」(36.5%) となっている。



(その他の主な内訳)

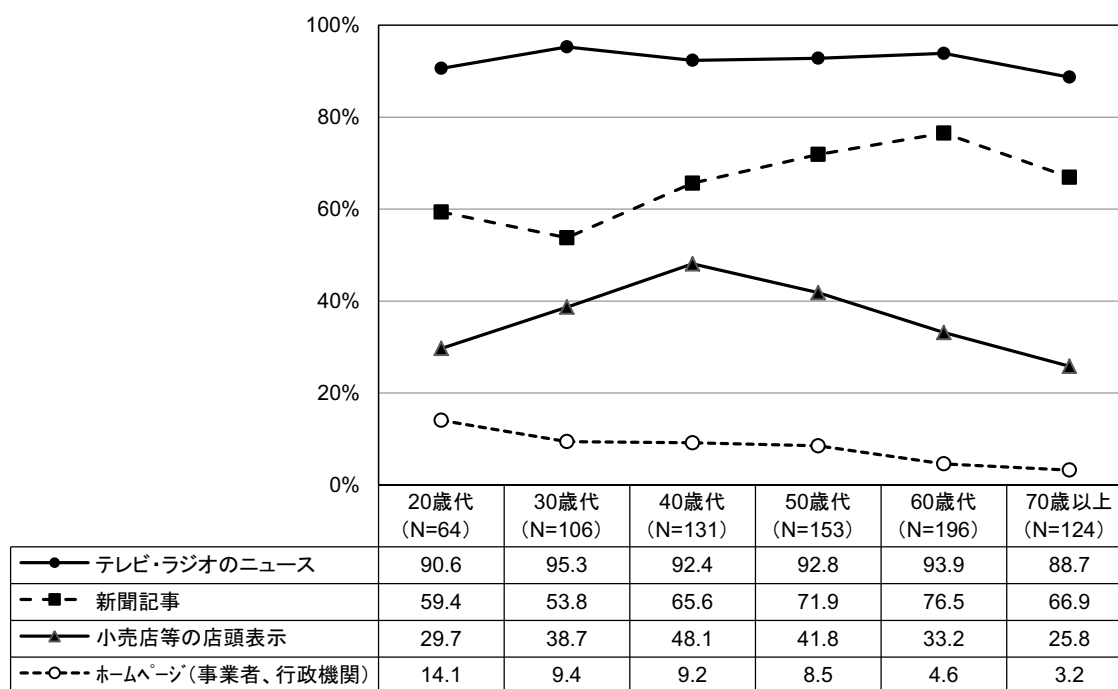
- ・インターネット(のニュース)、SNS(8件)
- ・自分で商店に申し出て回収していただいたこともある
- ・仕事の中で情報が入ってくる
- ・実際に小売店で働いているため

- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「迅速な回収のサポートなど緊急時における事業者への支援体制の強化」は「重要度」74.0点(11番目/16項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において「迅速な回収のサポートなど緊急時における事業者への支援体制の強化」は7.9%(10番目/16項目)

年代別では、全体傾向とほぼ同様の傾向となっている。

年代差は「新聞記事」、「小売店等の店頭表示」で大きく、「新聞記事」は60歳代が76.5%で最も高く、30歳代が53.8%で最も低くなっている。「小売店等の店頭表示」は40歳代が48.1%で最も高く、70歳以上が25.8%で最も低くなっている。また、「ホームページ（事業者、行政機関）」は20歳代（14.1%）で1割以上見られるが、それ以外では1割未満となっている。

問 25 「食品の自主回収」に関する情報を、どのように入手しているか(年代別)

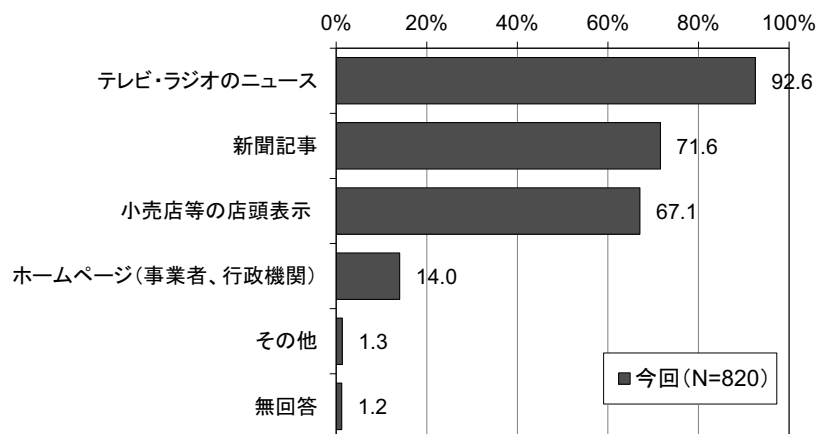


問 26 「食品の自主回収」に関する情報入手のために、どのような方法が有効だと思いますか。(3つまで選択)

「テレビ・ラジオのニュース」(92.6%)が特に高く、次いで「新聞記事」(71.6%)、「小売店等の店頭表示」(67.1%)となっている。

「問 25 「食品の自主回収」に関する情報を、どのように入手していますか。」と合わせて見てみると、「小売店等の店頭表示」(問 25 36.5%)で 30 ポイント以上の差が見られ、小売店等での表示による情報提供への需要がうかがえる。

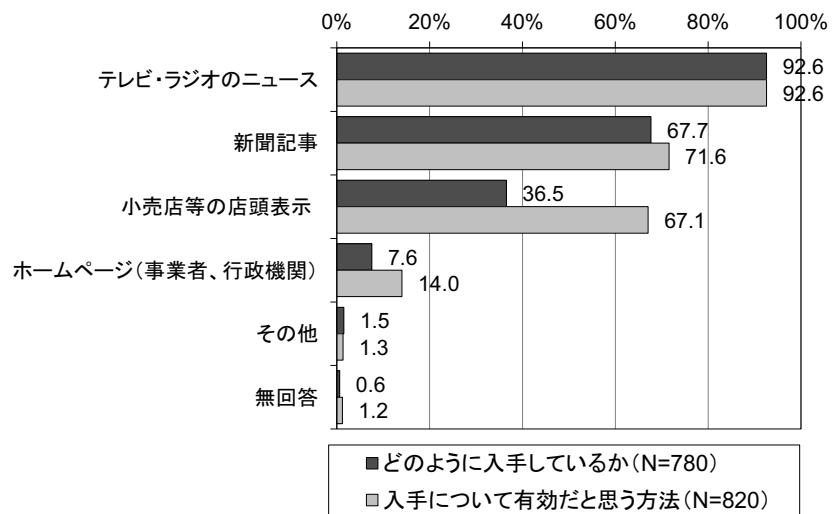
問 26 「食品の自主回収」に関する情報入手について有効だと思う方法(3つまで選択)



(その他の主な内訳)

- ・インターネット (のニュース)、SNS、ツイッター (6件)
- ・スマートフォン
- ・各店、スーパーで情報を早く確認し回収する
- ・テレビのテロップ
- ・あらゆる時を想定する
- ・どんな方法でも限度があると思う

問 26 「食品の自主回収」に関する情報入手について有効だと思う方法・「食品の自主回収」に関する情報をどのように入手しているか(問 25)

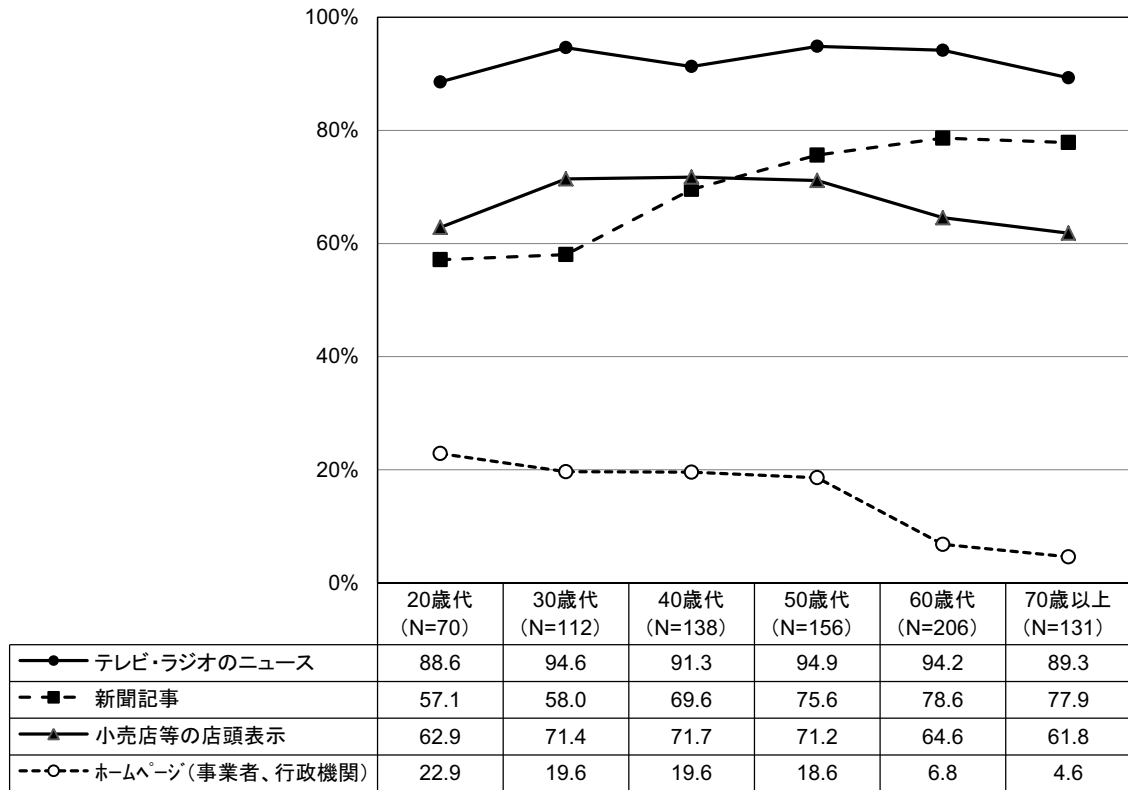


※「どのように入手しているか」は「問 24「食品の自主回収」を知っていましたか」で、「知っていた」「ある程度知っていた」「あまり知らなかった」場合のみ

年代別では、すべての年代において「テレビ・ラジオのニュース」が最も高く、次いで20・30・40歳代は「小売店等の店頭表示」、50・60歳代・70歳以上は「新聞記事」が高くなっている。

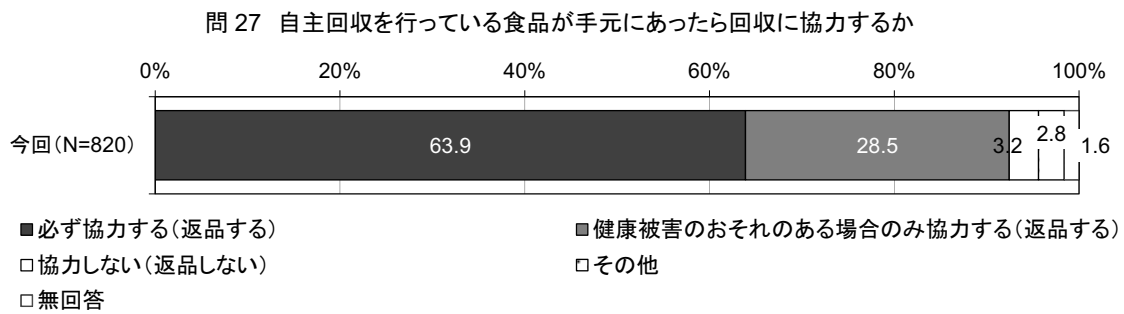
年代差は「新聞記事」で大きく、60歳代が78.6%で最も高く、20歳代が57.1%で最も低くなっている。また、「ホームページ（事業者、行政機関）」は50歳代までの年代でいずれも約2割となっているが、60歳代・70歳以上では1割未満にとどまる。

問 26 「食品の自主回収」に関する情報入手について有効と思う方法(年代別)



問 27 自主回収を行っている食品が、もしあなたの手元にあったら、自主回収に協力しますか。(1つ選択)

「必ず協力する(返品する)」(63.9%) が特に高く、次いで「健康被害のおそれのある場合のみ協力する(返品する)」(28.5%) となっている。「必ず協力する(返品する)」、「健康被害のおそれのある場合のみ協力する(返品する)」の合計値(92.4%)は9割以上となっている。



(その他の主な内訳)

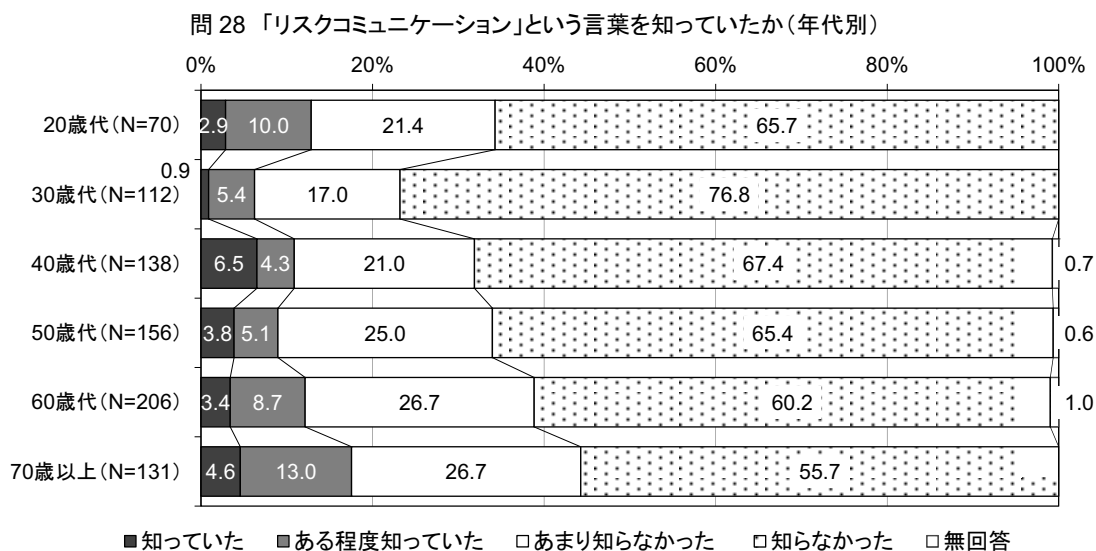
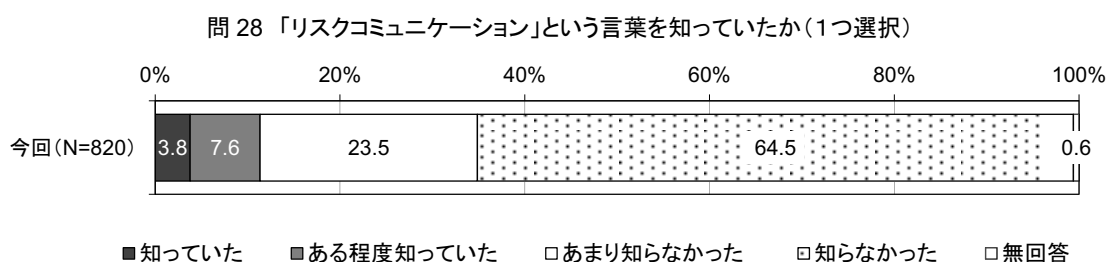
- ・捨てる(4件)
- ・(面倒なので)自分で処分する(3件)
- ・返金されるのであれば返品する(2件)
- ・捨ててしまうかもしれない
- ・少量なら捨てる
- ・協力しようと思ったが、返品しそこなかったことがある
- ・商品の価格次第で考える
- ・大量にある場合のみ協力する
- ・その時によりわからない
- ・返品方法による
- ・時と場合により、自分が忙しく返品の手間がわずらわしいと感じれば捨ててしまうかも
- ・業者が取りに来る。小売店に返すのでよければ返品する
- ・回収に要する時間確保が困難
- ・返品作業が面倒なので時間があれば返品する
- ・気がついたら返品する
- ・わからない

2-13 リスクコミュニケーションについて

問 28 食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」という言葉を知っていましたか。
(1つ選択)

「知らなかった」(64.5%)が特に高く、次いで「あまり知らなかった」(23.5%)となっている。「知らなかった」、「あまり知らなかった」の合計値(88.0%)は約9割となっている。

年代別では、「知らなかった」は、すべての年代において5割以上となっており、特に30歳代(76.8%)は7割以上と高くなっている。また、20歳代を除いて高い年代ほど認知度が高くなる傾向がうかがえる。



・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「消費者への情報提供とリスクコミュニケーションの促進」は「重要度」67.9点(14番目/16項目)

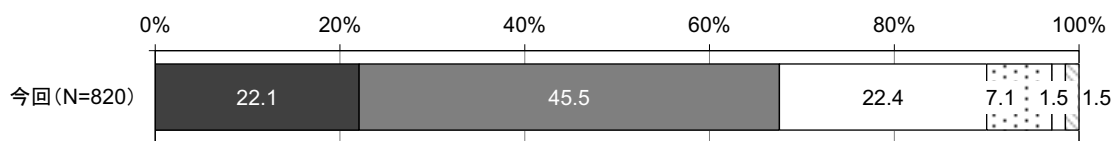
・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において、「消費者への情報提供とリスクコミュニケーションの促進」は3.0%(15番目/16項目)

問 29 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」に期待をしていますか。(1つ選択)

「ある程度期待している」(45.5%)が最も高く、次いで「あまり期待していない」(22.4%)、「とても期待している」(22.1%)となっている。「とても期待している」、「ある程度期待している」の合計値(67.6%)は約7割となっている。

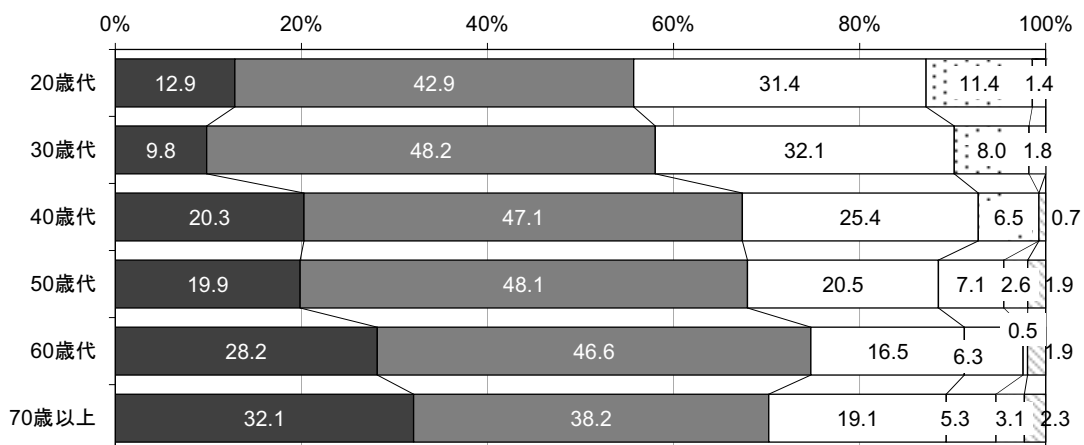
年代別では、「とても期待している」、「ある程度期待している」の合計値は、60歳代が74.8%で最も高く、70歳以上を除いて高い年代ほど期待度が高くなる傾向がうかがえる。

問 29 行政が行う「リスクコミュニケーション」に期待しているか(1つ選択)



■とても期待している ■ある程度期待している □あまり期待していない □期待していない □その他 □無回答

問 29 行政が行う「リスクコミュニケーション」に期待しているか(年代別)

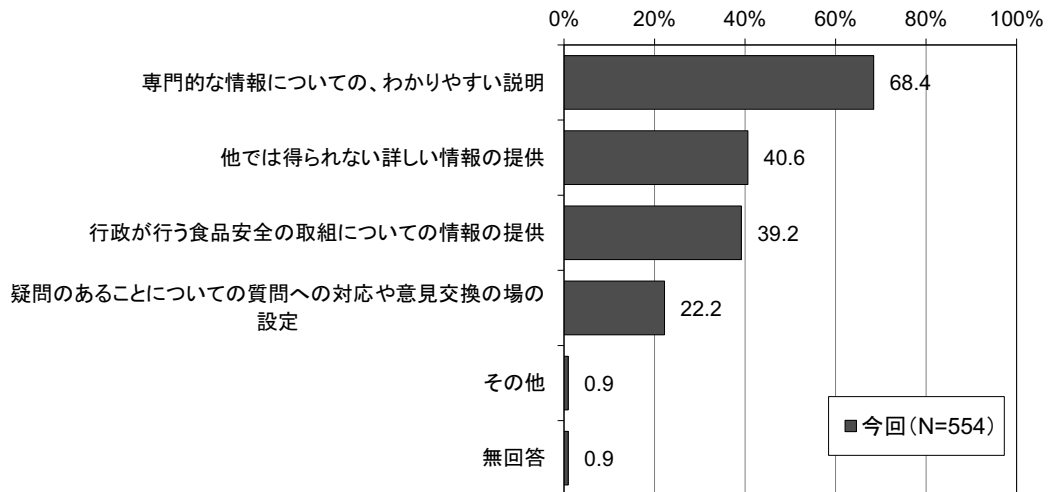


■とても期待している ■ある程度期待している □あまり期待していない □期待していない □その他 □無回答

問 30 問 29 で「とても期待している」「ある程度期待している」とした方にうかがいます。
期待するのはどのようなことですか。（すべて選択）

「専門的な情報についての、わかりやすい説明」（68.4%）が特に高く、次いで「他では得られない詳しい情報の提供」（40.6%）、「行政が行う食品安全の取組についての情報の提供」（39.2%）となっている。

問 30 行政が行う「リスクコミュニケーション」に何を期待するか（すべて選択）



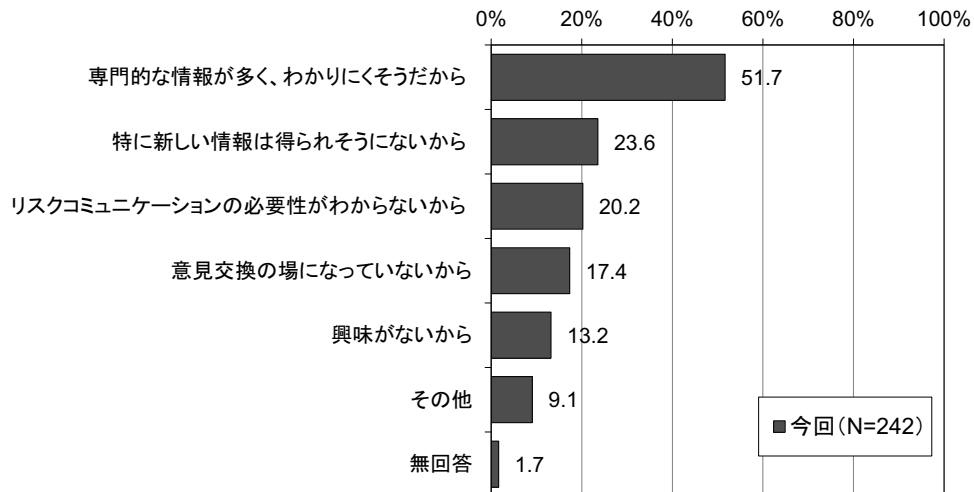
（その他の主な内訳）

- ・ 正直に信頼できるものであることを一番に期待します。そうでなければ何の意味もないので
- ・ 被害が出たときに相談できる行政の窓口がどこか教えてほしい
- ・ 様々な立場の方々が意見交換することで正確で正直な食品を提供してほしい
- ・ より安全な食品の生産につながる
- ・ 参考にする

問 31 問 29 で「あまり期待していない」「期待していない」とした方にうかがいます。期待しない理由はどのようなことですか。（すべて選択）

「専門的な情報が多く、わかりにくそうだから」（51.7%）が特に高く、次いで「特に新しい情報は得られそうにないから」（23.6%）、「リスクコミュニケーションの必要性がわからないから」（20.2%）、「意見交換の場になっていないから」（17.4%）となっている。

問 31 行政が行う「リスクコミュニケーション」に期待しない理由(すべて選択)



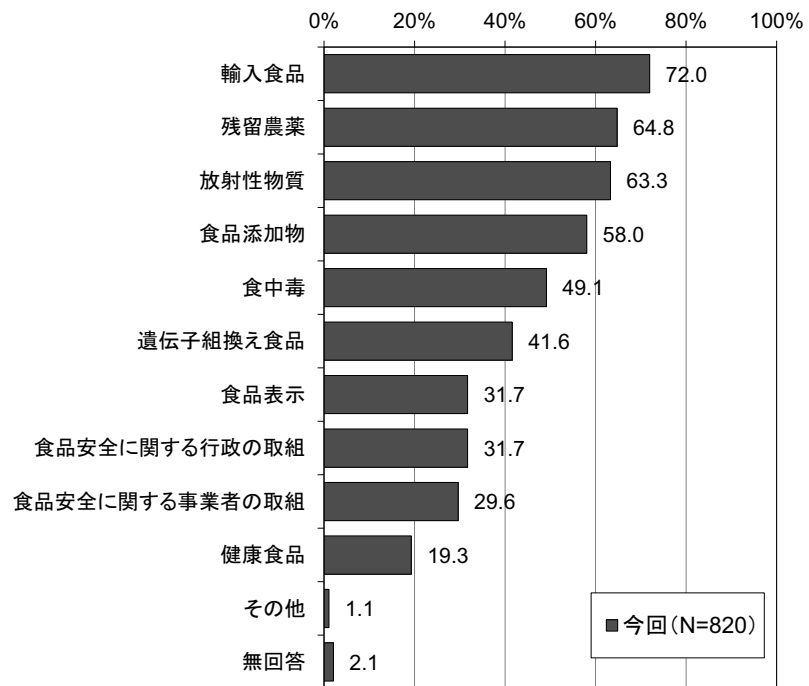
（その他の主な内訳）

- ・意見交換する時間が取りにくい
- ・都合よく話すだけで終わりそうだから
- ・職員に対応するだけの人数がいるのか
- ・活動状況が見えない
- ・意見交換の内容が具体的な食品安全に反映されるとは思えないから
- ・リスクコミュニケーションの場を設けても、その先につながっていくのか疑問。話し合うだけで終わってしまうように感じる
- ・リスクを正確に伝えてくれるか心配
- ・利害関係が出てくるので、果たしてどこまで正しい情報が得られるか疑問
- ・自主規制や規制化につながらないなら意味はない
- ・本当に真実の情報が出てくるか疑問だから
- ・自分がどのように関わっていけるのかわからないから
- ・食品関係事業者と消費者は立場が対立関係にあるから
- ・流通させるために基準値を引き上げる等、消費者に対する考え方がいい加減だから意味がない
- ・情報が我々に伝わるかどうかかわからないから
- ・情報をどう入手するのかかわからないから
- ・行政は弱者のために本気で動いていない。意見交換だけでよくなると思えない
- ・行政に不信感を持っているから
- ・本当に正確な情報がどうか信用できない
- ・コミュニケーションの場をもっと用意しないとイケない。リスク講演会になってしまっているから
- ・この言葉自体初めて耳にした。あまり知らないし、行政もそこまで広めようと思っていなさそうなので
- ・行政に期待できないから

問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で、どのようなテーマを取り上げてもらいたいですか。(すべて選択)

「輸入食品」(72.0%)が最も高く、次いで「残留農薬」(64.8%)、「放射性物質」(63.3%)、「食品添加物」(58.0%)となっている。

問 32 行政が行う「リスクコミュニケーション」で取り上げてほしいテーマ(すべて選択)



(その他の主な内訳)

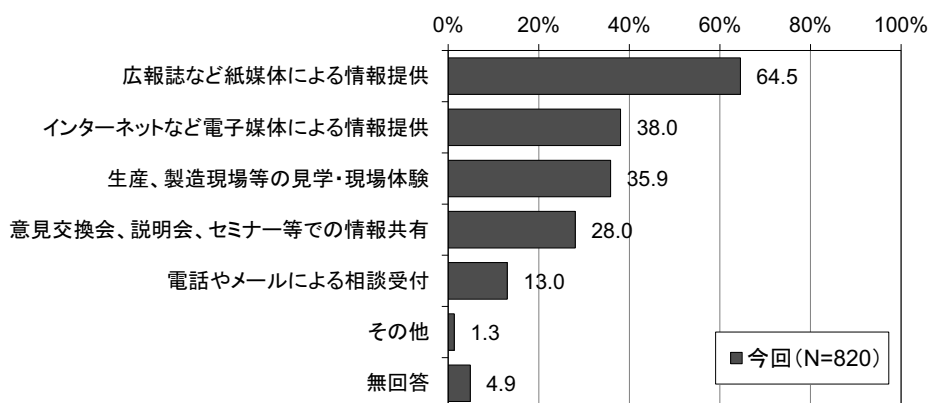
- ・食品の安全性はもちろん、いかに無駄をなくすかについて
- ・いろいろな立場の人が本音で話し合えることができるならば、どんなテーマも有意義だと思う
- ・規制化について
- ・食品安全に関する消費者の取組について
- ・水耕栽培の野菜について。肥料の中の重金属等、安全な食品なのか
- ・カロリーベースの食料自給率がたいしてあてにならないことについて
- ・国産肉でなく、県産と表示する

問 33 「リスクコミュニケーション」の方法として、どのようなことが有効だと思いますか。
(すべて選択)

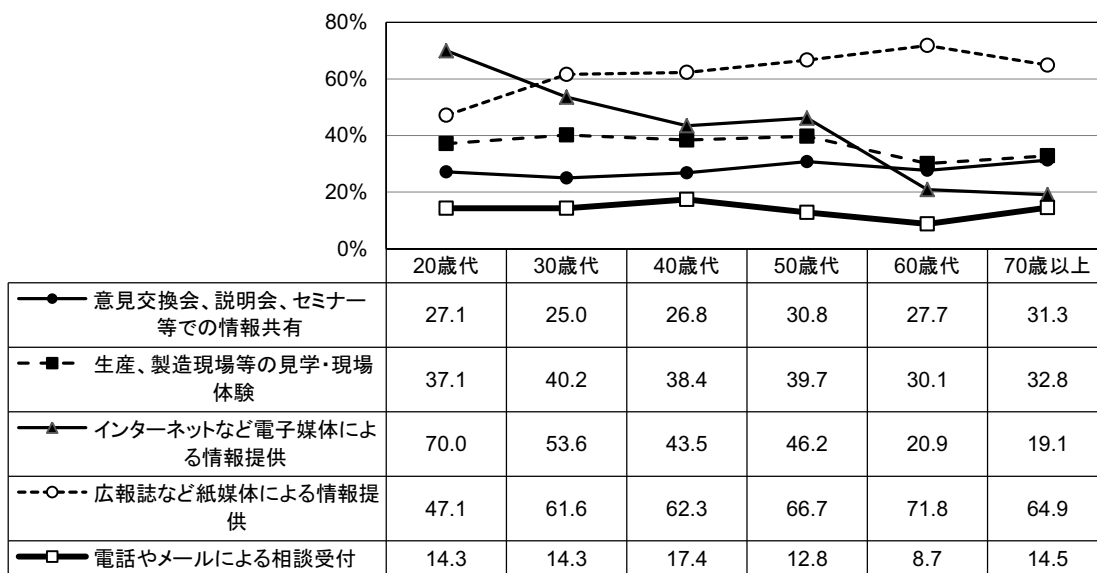
「広報誌など紙媒体による情報提供」(64.5%)が特に高く、次いで「インターネットなど電子媒体による情報提供」(38.0%)、「生産、製造現場等の見学・現場体験」(35.9%)、「意見交換会、説明会、セミナー等での情報共有」(28.0%)となっている。

年代別では、「広報誌など紙媒体による情報提供」は20歳代(47.1%)を除くすべての年代において6割以上となっており、60歳代(71.8%)は7割以上となっている。「インターネットなど電子媒体による情報提供」は年代による差が大きく、20歳代は70.0%で最も高く、高い年代ほど値が低くなる傾向がうかがえる

問 33 「リスクコミュニケーション」の方法として有効と思うこと(すべて選択)



問 33 「リスクコミュニケーション」の方法として有効と思うこと(年代別)



※無回答、その他を除く

(その他の主な内訳)

- ・情報の素早い提供
- ・利害がまったく関係のない専門家との意見交換
- ・広報誌の配布
- ・参加する時がない

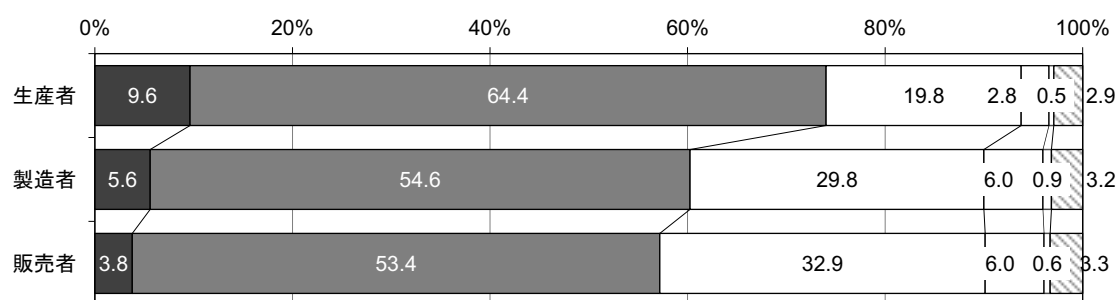
2-14 食品関連事業者の信頼について

問 34 以下の食品関連事業者に対して、それぞれの程度信頼できると思いますか。（それぞれ1つ選択）

「信頼できる」を見ると、「生産者」（9.6%）が最も高くなっている。「信頼できる」、「おおむね信頼できる」の合計値を見ると、「生産者」（74.0%）が7割以上、次いで「製造者」（60.2%）、「販売者」（57.2%）となっている。

一方、「まったく信頼できない」、「あまり信頼できない」の合計値を見ると、「製造者」（6.9%）と「販売者」（6.6%）が同程度に高く、次いで「生産者」（3.3%）となっている。

問 34 各食品関連事業者について、どの程度信頼できると思うか（それぞれ1つ選択）



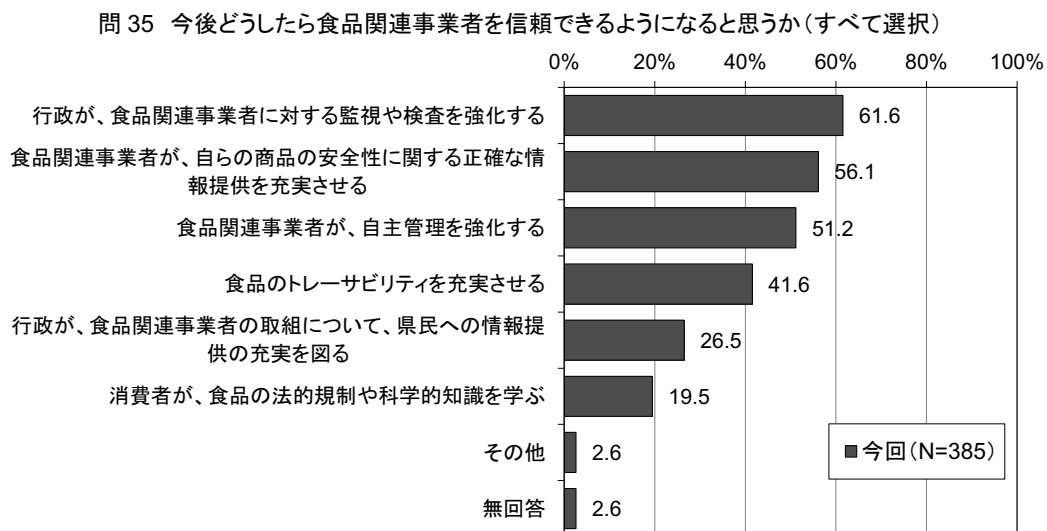
■信頼できる ■おおむね信頼できる □どちらともいえない □あまり信頼できない □まったく信頼できない □無回答

(N=820)

- ・問 2(1) 食品の安全性において、「食品の偽装表示」は「不安度」78.1 点(2 番目/10 項目)
- ・問 32 行政が行う食品の安全性に関する「リスクコミュニケーション」で取り上げてもらいたいテーマにおいて、「食品安全に関する事業者の取組」は 29.6%(9 番目/「その他」を含む 11 項目)
- ・問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策において、「生産者や食品事業者の自主衛生管理の推進」は「重要度」83.1 点(6 番目/16 項目)、「迅速な回収のサポートなど緊急時における事業者への支援体制の強化」は「重要度」74.0 点(11 番目/16 項目)
- ・問 37 食の安全・安心を確保するために県に望む重点的な取組において、「迅速な回収のサポートなど緊急時における事業者への支援体制の強化」は 7.9%(10 番目/16 項目)

問 35 問 34 で「どちらともいえない」「あまり信頼できない」「まったく信頼できない」とした方にうかがいます。今後どのようにしたら、食品関連事業者を信頼できるようになると思いますか。(すべて選択)

「行政が、食品関連事業者に対する監視や検査を強化する」(61.6%)が最も高く、次いで「食品関連事業者が、自らの商品の安全性に関する正確な情報提供を充実させる」(56.1%)、「食品関連事業者が、自主管理を強化する」(51.2%)となっている。



(その他の主な内訳)

- ・ 儲け主義からの脱却、モラルの向上
- ・ 消費者が自分自身で考え選択していくしかない
- ・ 食品関連事業者が「自分の大切な家族」として、消費者に食品を提供する気持ちを持つべき
- ・ 行政が食品関連事業者に対し情報収集を強化する
- ・ 生産者、製造者、販売者と行政が、安全な食品を提供することを一番に考えて、それぞれの仕事をしっかりする
- ・ 国内生産、製造の商品でも、今でも偽装の問題が出てくるので、いつまでたっても信頼することはできないと思う
- ・ 景気が良くなって、各事業者が経費削減に苦心しなくてもよくなること
- ・ 強いもの勝ちのこの経済の中、ブラック企業など不安
- ・ 厳罰化
- ・ 気にしない

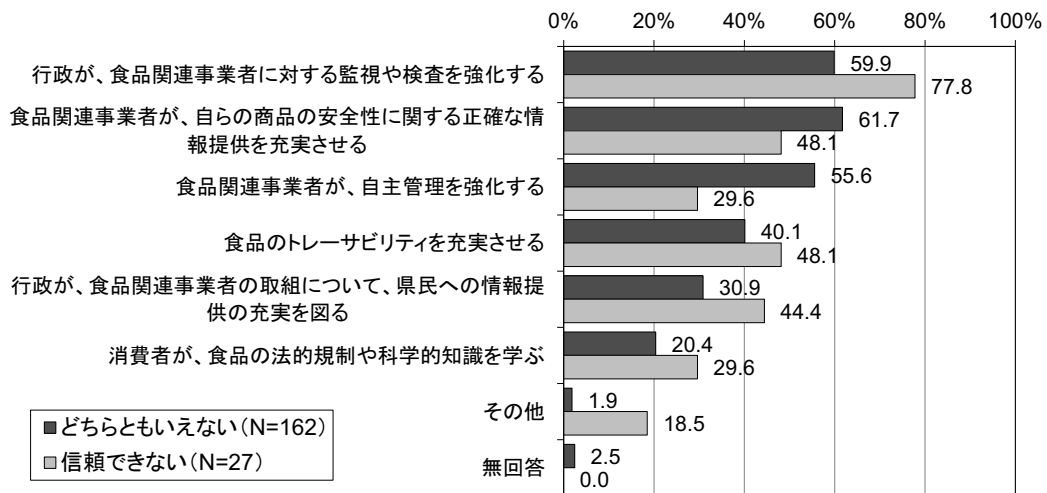
各事業者への信頼度(問 34)について、「どちらともいえない」、「あまり信頼できない」、「まったく信頼できない」とした場合について見てみる。なお、「まったく信頼できない」はいずれの事業者でも 10 人未満であるため、「あまり信頼できない」との合計値「信頼できない」とする。

「どちらともいえない」では、いずれの事業者でも「行政が、食品関連事業者に対する監視や検査を強化する」、「食品関連事業者が、自らの商品の安全性に関する正確な情報提供を充実させる」が同程度に高くなっている。

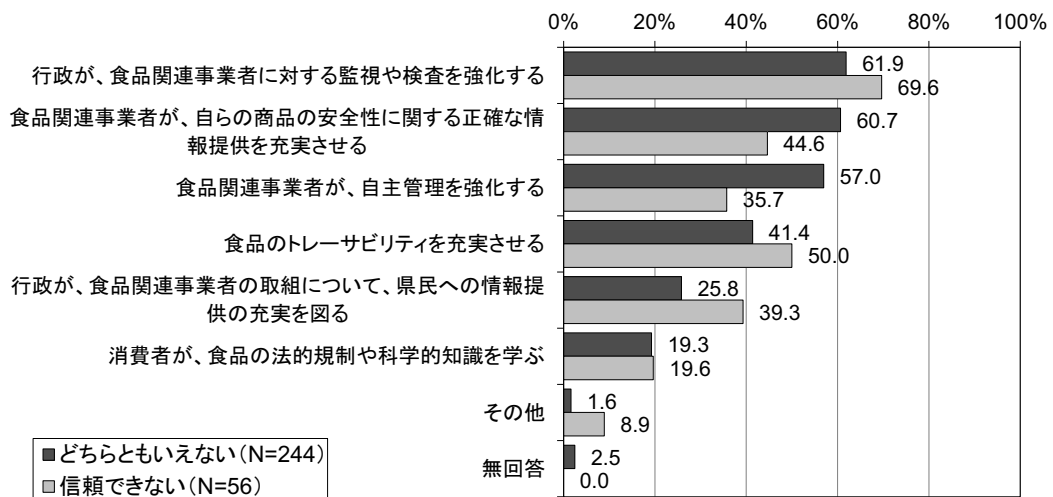
一方、合計値「信頼できない」では、サンプル数(N)を考慮する必要があるが、いずれの事業者でも「行政が、食品関連事業者に対する監視や検査を強化する」が特に高く、生産者(77.8%)では約 8 割、製造者(69.6%)や販売者(72.2%)では約 7 割となっている。また、生産者では「食品関連事業者が、自らの商品の安全性に関する正確な情報提供を充実させる」、「食品のトレーサビリティを充実させる」(48.1%で同値)が 2 番目に高くなっており、製造者、販売者ではいずれも「食品のトレーサビリティを充実させる」(50.0%で同値)が 2 番目に高くなっている。

問 35 今後どうしたら食品関連事業者を信頼できるようになると思うか・
食品関連事業者に対して、それぞれの程度信頼できると思うか(問 34)

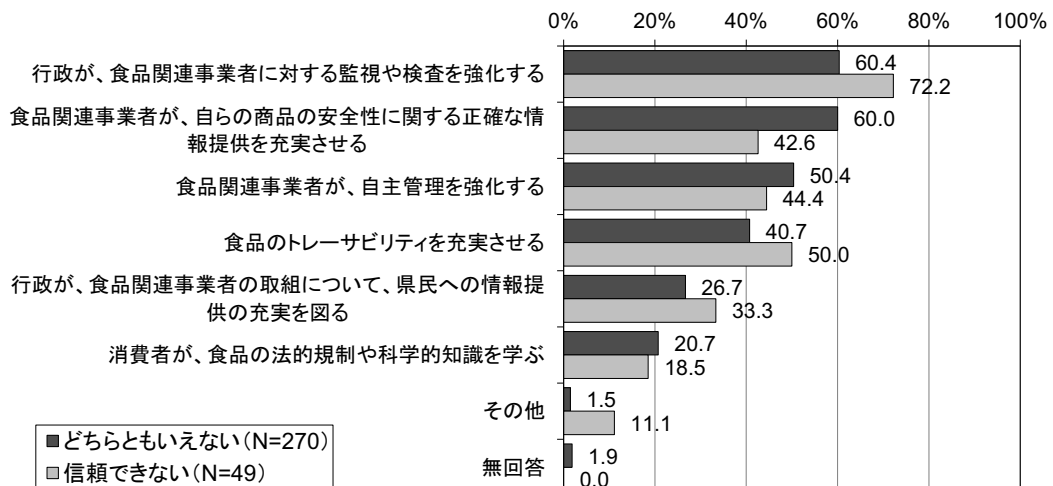
生産者



製造者



販売者



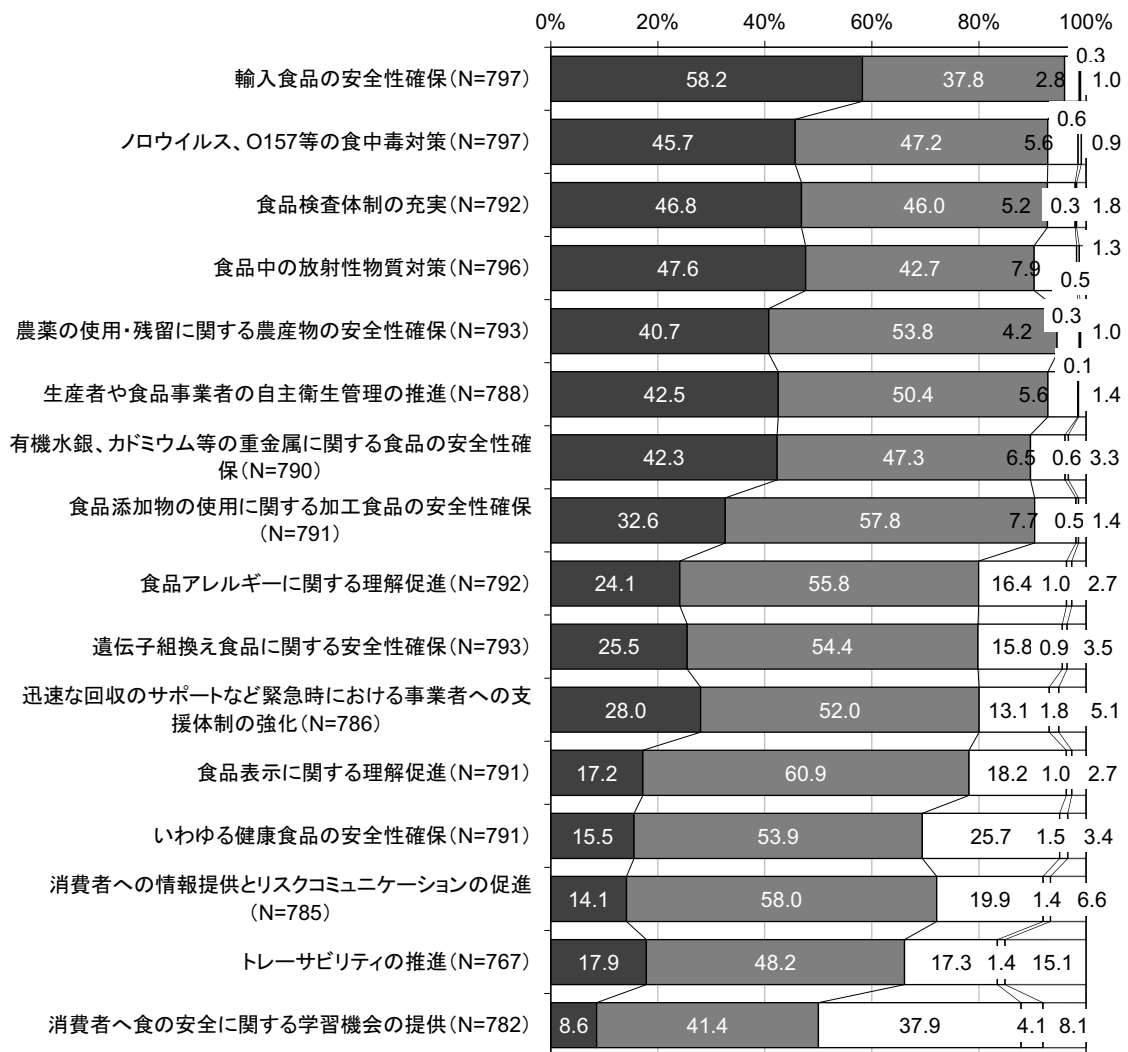
2-15 食の安全・安心に関する県の施策について

問 36 食の安全・安心を確保するために、県がどのような対策を図ることを望みますか。各項目について重要度をお答えください。（それぞれ1つ選択）

「非常に重要である」、「重要である」の合計値を見ると、「輸入食品の安全性確保」（96.0%）が最も高く、次いで「農薬の使用・残留に関する農産物の安全性確保」（94.5%）、「ノロウイルス、O157等の食中毒対策」（92.9%）、「生産者や食品事業者の自主衛生管理の推進」（92.9%）、「食品検査体制の充実」（92.8%）となっている。

一方、「重要とは思わない」、「それほど重要とは思わない」の合計値を見ると、「消費者へ食の安全に関する学習機会の提供」（42.0%）が最も高く、次いで「いわゆる健康食品の安全性確保」（27.2%）、「消費者への情報提供とリスクコミュニケーションの促進」（21.3%）となっている。

問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策(それぞれ1つ選択)



■非常に重要である ■重要である □それほど重要ではない □重要とは思わない □わからない

※無回答を除く ※後述の「重要度」が高い順に表示

各項目の5段階の回答を「重要度」※として比較すると、「輸入食品の安全性確保」(88.0点)が最も高く、次いで「ノロウイルス、O157等の食中毒対策」、今回新たに設けた項目「食品検査体制の充実」(84.0点で同値)、「食品中の放射性物質対策」(83.7点)となっている。

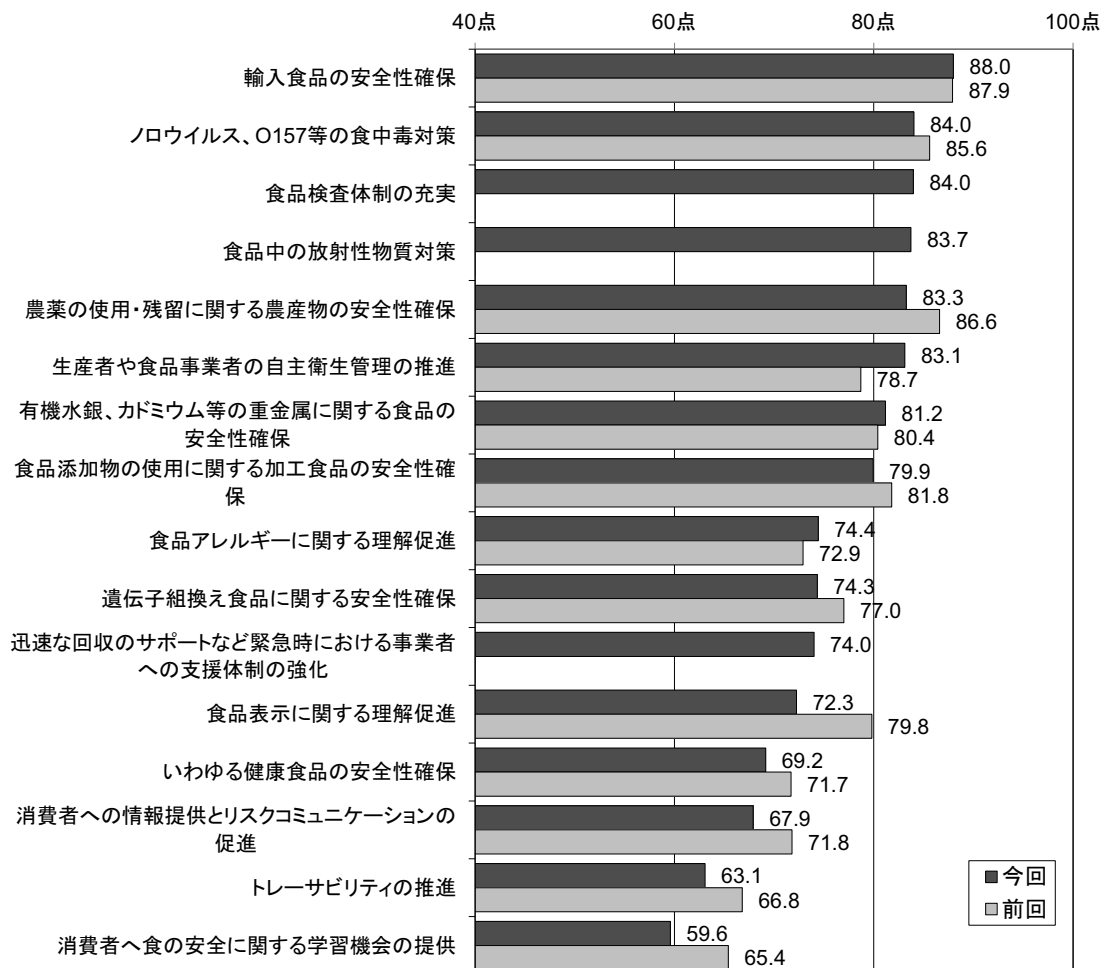
前回と比較すると、上位項目は同様となっている。全体的に値が大きく変動している項目は見られないが、その中で「生産者や食品事業者の自主衛生管理の推進」(前回比4.4点増)は前回より最も増加しており、「食品表示に関する理解促進」(前回比7.5点減)は最も減少している。

なお、前回と今回では項目数や表現が変わっているものがあり、値の変化に影響を与えた可能性を考慮する必要がある。

※「重要度」の算出方法

「非常に重要である」を100点、「重要である」を75点、「それほど重要ではない」を50点、「重要とは思わない」を25点、「わからない」を0点として、加重平均により重要度を指標化した。100点に近くなるほど、県に望む対策の重要性の度合いが高いことを示す。

問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策「重要度」



※「食品検査体制の充実」「食品中の放射性物質対策」「迅速な回収のサポートなど緊急時における事業者への支援体制の強化」は新規設定、「食品アレルギーに関する理解促進」は前回「食品中のアレルギー物質対策」、「生産者や食品事業者の自主衛生管理の推進」は前回「農産物生産者や食品製造業者の自主衛生管理の推進」、「食品表示に関する理解促進」は前回「食品表示の適正化の推進」、前回はこれ以外に5項目を設定

	今回		重要度の 前回からの 順位変動	前回	
	重要度	順位		順位	重要度
輸入食品の安全性確保	88.0	1位	←	1位	87.9
ノロウイルス、O157等の食中毒対策	84.0	2位	↑	3位	85.6
食品検査体制の充実	84.0	2位	NEW	-	-
食品中の放射性物質対策	83.7	4位	NEW	-	-
農薬の使用・残留に関する農産物の安全性確保	83.3	5位	↓	2位	86.6
生産者や食品事業者の自主衛生管理の推進	83.1	6位	↑	7位	78.7
有機水銀、カドミウム等の重金属に関する食品の安全性確保	81.2	7位	↓	5位	80.4
食品添加物の使用に関する加工食品の安全性確保	79.9	8位	↓	4位	81.8
食品アレルギーに関する理解促進	74.4	9位	←	9位	72.9
遺伝子組換え食品に関する安全性確保	74.3	10位	↓	8位	77.0
迅速な回収のサポートなど緊急時における事業者への支援体制の強化	74.0	11位	NEW	-	-
食品表示に関する理解促進	72.3	12位	↓	6位	79.8
いわゆる健康食品の安全性確保	69.2	13位	↓	11位	71.7
消費者への情報提供とリスクコミュニケーションの促進	67.9	14位	↓	10位	71.8
トレーサビリティの推進	63.1	15位	↓	12位	66.8
消費者へ食の安全に関する学習機会の提供	59.6	16位	↓	13位	65.4

問2(1)における食品の安全性に関する「不安度」と、本設問(問36)の「重要度」、前回の「重要度」について比較すると、不安度が最も高い「輸入食品」は、重要度も最も高く、前回の重要度も最も高くなっている。次いで不安度が高い「食品(偽装)表示」の重要度は前回(79.8点)と今回(72.3点)で大きな変動はしていないが、前回6位が今回は12位と中位に位置している。不安度が60~70点の「放射性物質」、「食中毒」、「残留農薬」、「食品添加物」(3~6位)は今回、前回ともに約80点からそれ以上となっており、いずれも上位に位置している。

問36 今回の「不安度」(問2(1))・「重要度」・前回の「重要度」の項目間順位

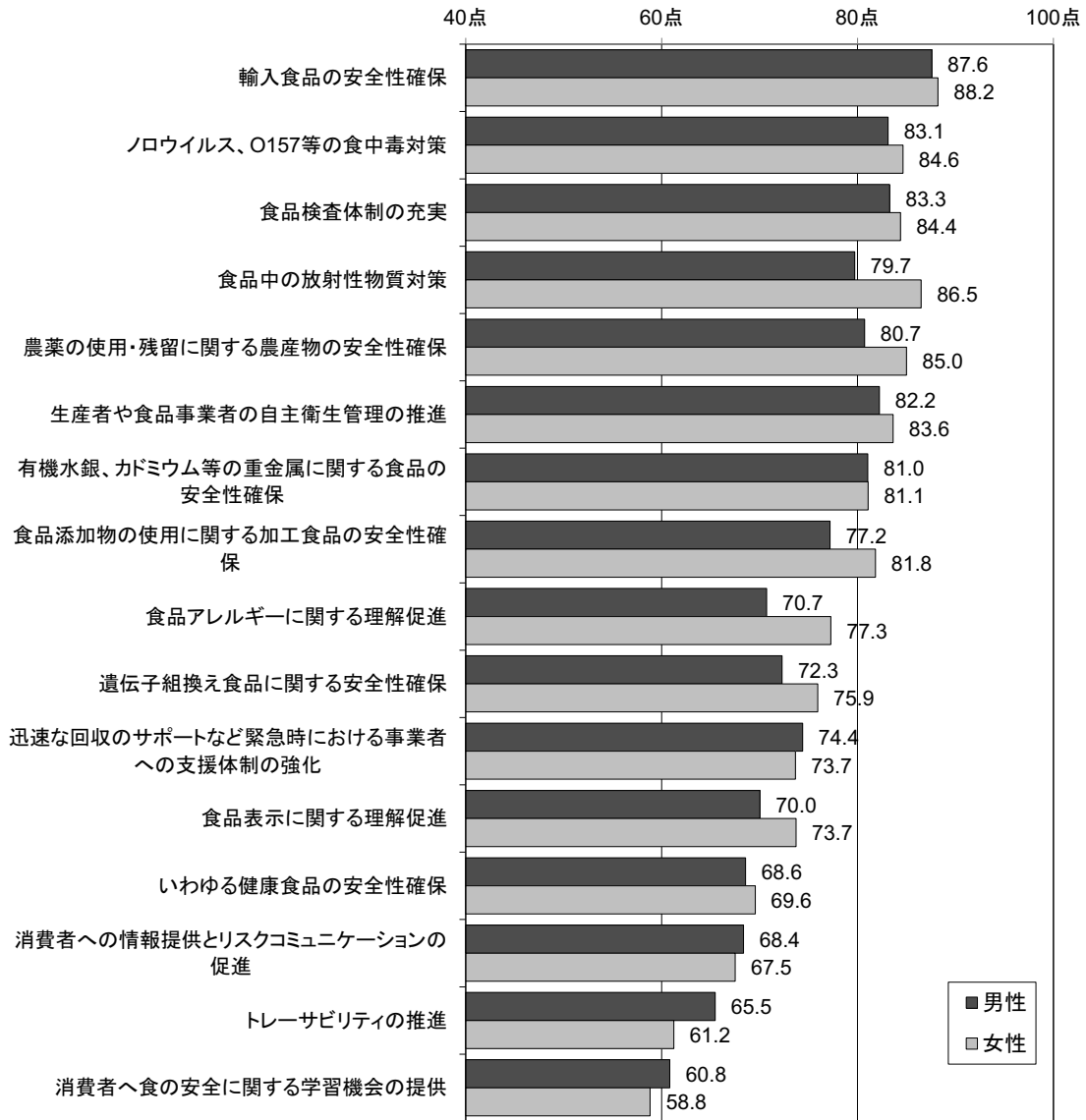
不安度【今回 問2】		重要度【今回 問36】		重要度【前回】	
順位	指標値(点)	順位	指標値(点)	順位	指標値(点)
1位	82.3	1位	88.0	1位	87.9
2位	78.1	2位	84.0	2位	86.6
3位	68.9	2位	84.0	3位	85.6
4位	67.7	4位	83.7	4位	81.8
5位	66.3	5位	83.3	5位	80.4
6位	65.5	6位	83.1	6位	79.8
7位	56.1	7位	81.2	7位	78.7
8位	54.2	8位	79.9	8位	77.0
9位	53.5	9位	74.4	9位	72.9
10位	48.2	10位	74.3	10位	71.8
		11位	74.0	11位	71.7
		12位	72.3	12位	66.8
		13位	69.2	13位	65.4
		14位	67.9		
		15位	63.1		
		16位	59.6		

※不安度60点以上の項目について今回重要度、前回重要度との変動を点線で表示

※図中の項目は省略した表示であり、詳細な項目内容は「今回 不安度(問2)」ではそれぞれ上位の表示から「輸入食品」、「食品の偽装表示」、「放射性物質」、「ノロウイルス、O157等の食中毒」、「残留農薬」、「着色料・甘味料・保存料等の食品添加物」、「遺伝子組換え食品」、「有機水銀、カドミウム等の重金属」、「食品中のアレルギー物質」、「健康食品」。「今回 重要度(問36)」、「前回 重要度」は問36の各図表を参照

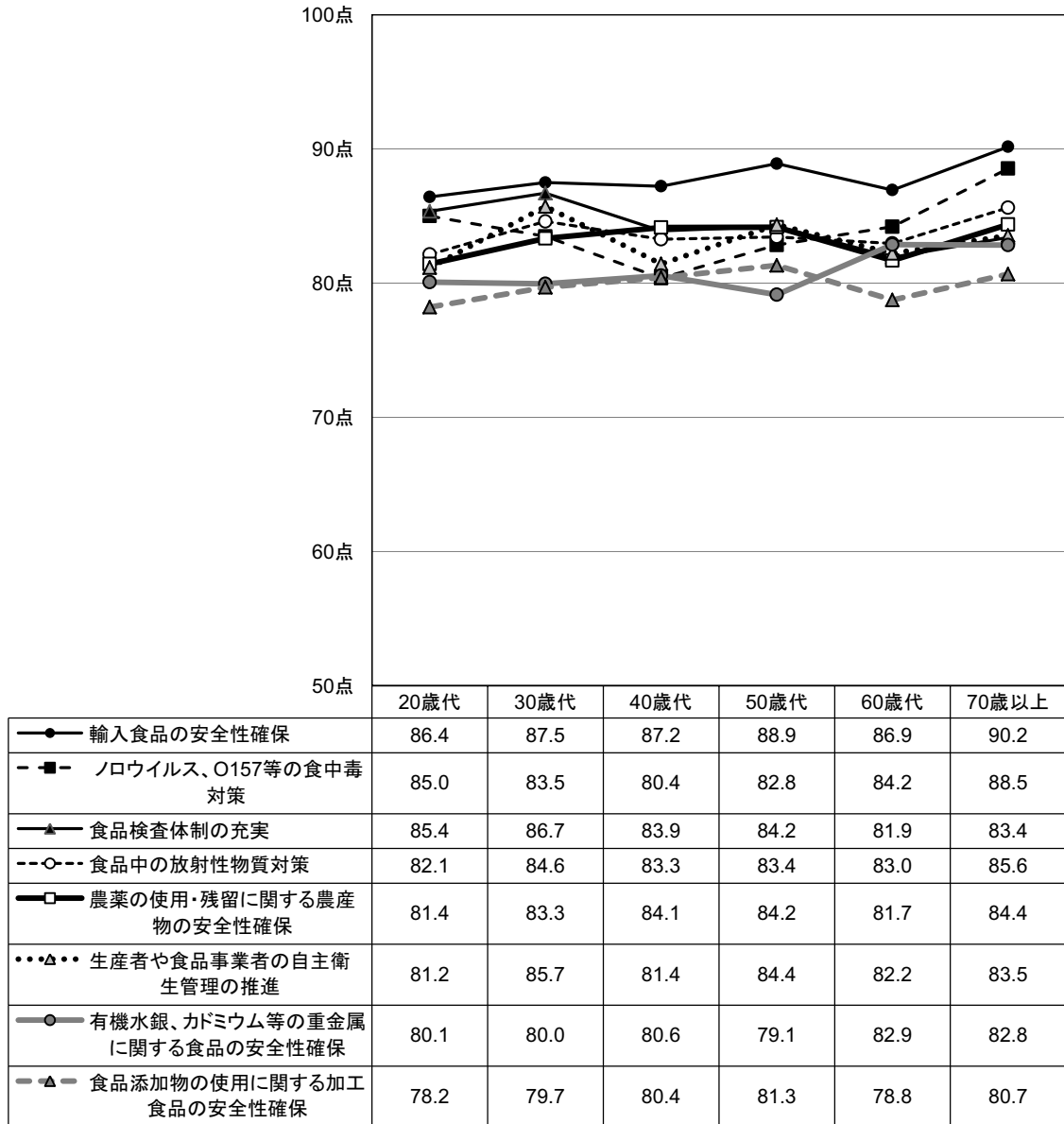
性別では、男女とも全体と同様の傾向を示しており、「輸入食品の安全性確保」に次いで男性は「食品検査体制の充実」（83.3点）、女性は「食品中の放射性物質対策」（86.5点）の重要度が高くなっている。

問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策 男女別の「重要度」



上位8項目について年代別に見ると、すべての年代において「輸入食品の安全性確保」の重要度が最も高くなっている。次いで20・30歳代は「食品検査体制の充実」、40歳代は「農薬の使用・残留に関する農産物の安全性確保」、50歳代は「生産者や食品事業者の自主衛生管理の推進」、60歳代・70歳以上は「ノロウイルス、O157等の食中毒対策」の重要度がそれぞれ高くなっている。

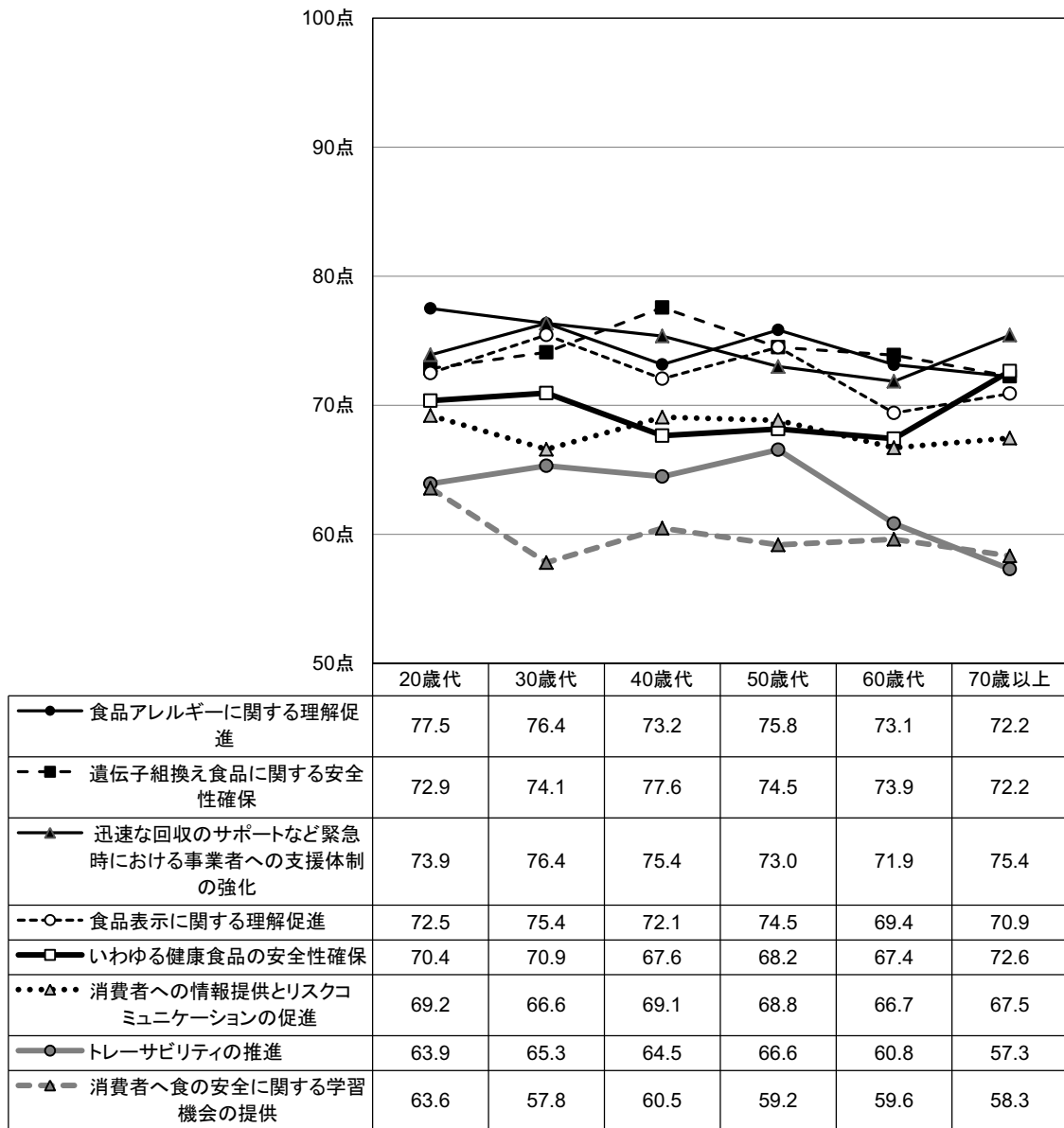
問36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策 年代別の「重要度」上位8項目



下位 8 項目について年代別に見ると、70 歳以上を除くすべての年代において「消費者へ食の安全に関する学習機会の提供」の重要度が最も低く、70 歳以上は「トレーサビリティの推進」の重要度が最も低くなっている。

年代差は「トレーサビリティの推進」で最も大きく、50 歳代が 66.6 点で最も高く、70 歳以上が 57.3 点で最も低くなっている。

問 36 食の安全・安心を確保するために県に望む対策 年代別の「重要度」下位 8 項目

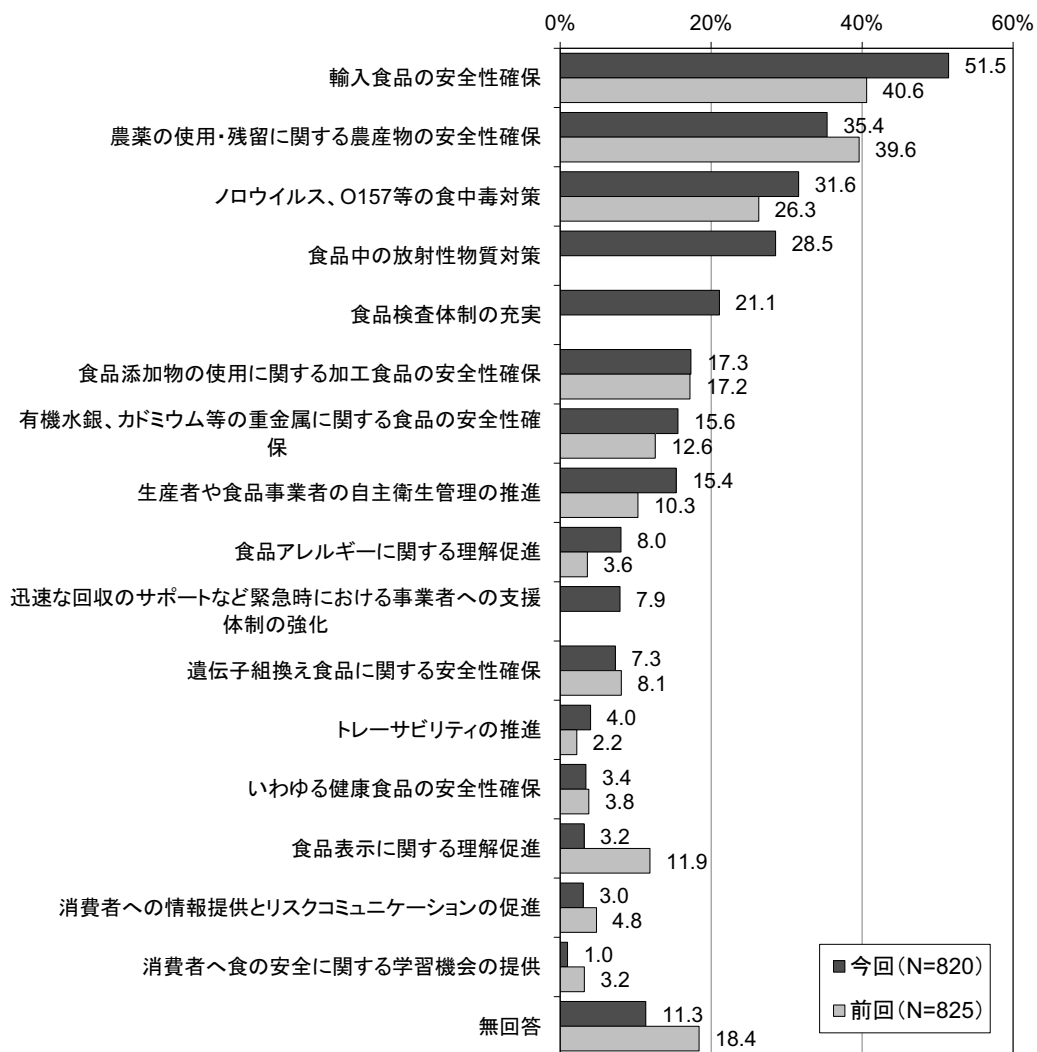


問 37 問 36 の項目のうち、特に重点的な取組を望む項目の番号をお書きください。
 (番号を3つまで記入)

「輸入食品の安全性確保」(51.5%) が最も高く、次いで「農薬の使用・残留に関する農産物の安全性確保」(35.4%)、「ノロウイルス、O157等の食中毒対策」(31.6%)、「食品中の放射性物質対策」(28.5%) となっている。

前回と比較すると、新たな項目を除く上位5項目は同様となっているが、その中で値が最も高い「輸入食品の安全性確保」は10.9ポイント増加している。また、前回上位5項目に次いで高い「食品表示に関する理解促進」は8.7ポイント減少している。前回の項目表現は今回と異なり、このことが値の変化に影響を与えた可能性が考えられる。

問 37 食の安全・安心を確保するために特に重点的な取組を望む項目(番号を3つまで記入)



※「食品検査体制の充実」「食品中の放射性物質対策」「迅速な回収のサポートなど緊急時における事業者への支援体制の強化」は新規設定、「食品アレルギーに関する理解促進」は前回「食品中のアレルギー物質対策」、「生産者や食品事業者の自主衛生管理の推進」は前回「農産物生産者や食品製造業者の自主衛生管理の推進」、「食品表示に関する理解促進」は前回「食品表示の適正化の推進」、前回はこれ以外に5項目を設定